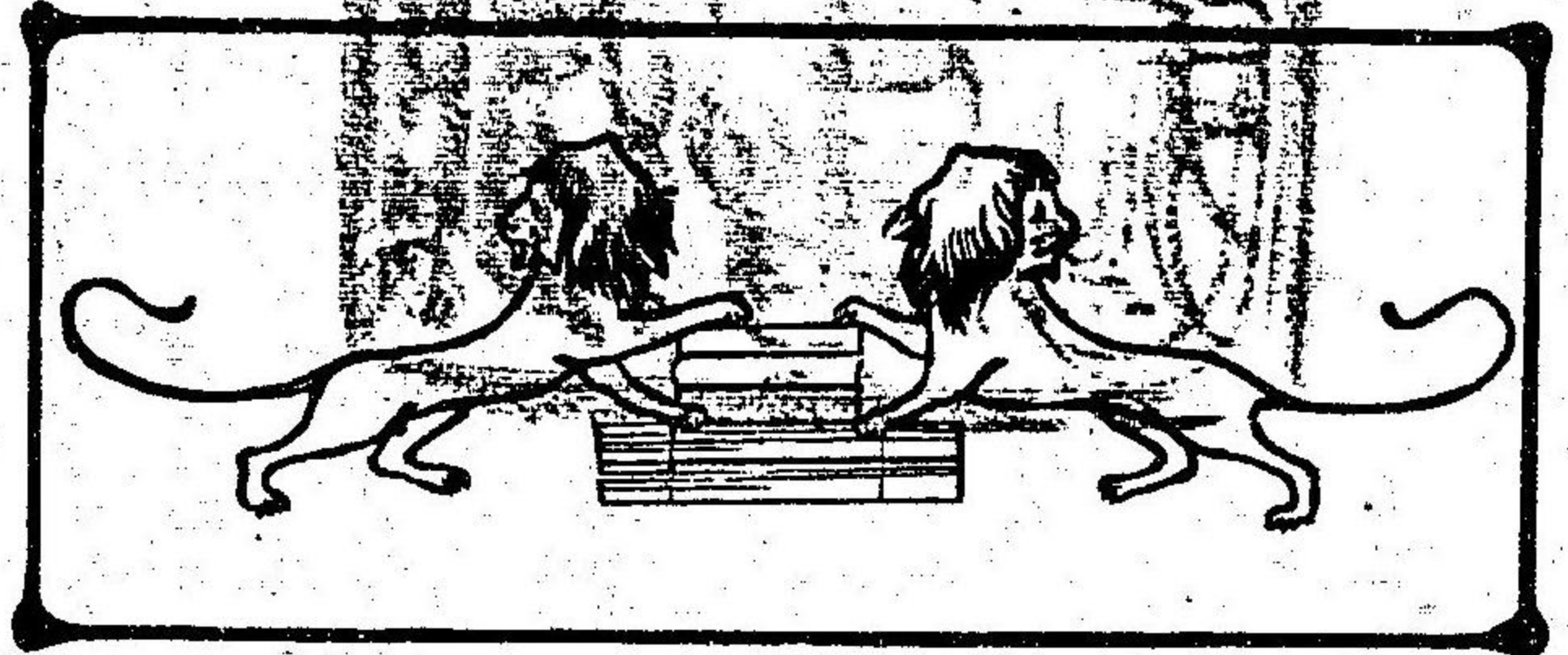


NOTES  
ON  
SANDER'S  
UNION FOURTH READER:  
PART II.



正則英語學校講師 傳法久太郎 譯註  
東北中學校講師 間崎義勝

ユニオン  
第四讀本 詳解講義

東京 昭文堂藏版

明治  
44年8月29日  
内交

The Rescue

救助

1. 時は一千八百三十一年、二月、或氷へたる月夜、寒  
さいとど厳しき時(のこと)、私の指揮せる二本檣の船  
は、静にサンフランシスコの内側に、碇泊して居りまし  
た。イヤもう實にひどい目に遭ひました、(何様)、此  
沖を間切ること十一日間、身を切る如き東北風は吹き  
しきり、しかも其間大抵は雪や霰が降つて居たと云ふ  
始末。

【註】 On a.....night=On a certain.....night.

【参考】 Morning, evening, day, night 等の語は一般に朝に、夕に等云  
ふ時は 'in' を用ふれども何時の朝、何時の夕等特定の時を指  
す時は 'on' を用ふ。

一般の意

特定の意

In the morning.....On that morning.

In the evening.....On that evening.

In the day-time.....On that day.

In the night (at night).....On that night.

比較:— { I arrived at night (at ten o'clock in the night).  
I arrived on the night of the 20th.

in the month of. Month の前置詞は常に 'in'。

when. 上の night を受く。

it was intensely cold. 「ヒドく寒かつた」。

【参考】 天候、時節、時刻等のことを云ふ時は "It" を用ふ。

It is warm; it is hot; it rains; it snows; it blows hard; it is  
fine; it is ten o'clock; it is late 等。

brig. 前後二本の檣を有し其各々に横帆を有する船。  
commanded. 「指揮した」。此物語の記者は此船の船長なりし  
ものと見ゆ。

lay at her anchors. 「碇泊して居た」。

lay. lie, lay, lain.

【参考】 'to lie at anchor' 「碇泊する」 'to cast anchor' 「投錨する」 'to weigh anchor' 「拔錨する」。

inside of..... 「.....の内側」 Outside of.....の反対。

Sandy Hook. 北米合衆國 New Jersey 州にありて New York 市を  
南に距ること十哩長さ約六哩ある小半島。

had had a hard time. 「辛い目に遭つた」。

【参考】 'had had' は 'have' と云ふ動詞の Past Perfect にして前の  
'had' は助動詞、後の 'had' は主動詞なり。

- (He has written.....)
- (He has had.....)
- (He had written.....)
- (He had had.....)

比較: { to have a hard time. 「辛い目に遭ふ」  
to have a good time. 「面白い目に遇ふ」

beating about. 風に逆ひ之の字形に進行すること即所  
謂「間切る」。

off this coast. 「此沖」。

比較: { On the coast of..... 「.....の沿岸に」  
Off the coast of..... 「.....の沖に」

The ship was wrecked off the coast of Rikuzen.

「その船は陸前沖で破船した」。

The Baltic fleet was annihilated off the coast of Tsushima.

「ボルチク艦隊は對島沖で全滅せられた」。

with.....=having..... 「身を切る如き東北風は吹  
きしきり雪や霰は.....降る中であつて」、換言すれ  
ば「身を切る如き東北風は吹きしきり雪や霰は.....  
降つた」。

かく 'With' は前の事柄に伴へる事柄を述べんが爲め本来ならば  
二個の別々の文となるべきものを纏めて一文となさんとする時用ふ  
るものなれば其事をよく會得し置き「.....する——を持つて」など  
云ふ如き珍譯をなさざる様注意すべし。

以下二三の類例を擧げて其用法を明にせむ。今

She looked me in the face. Big tears were rolling down her  
cheeks.

「女は私の顔を見た。玉なす涙は頬を流れ下つて居た」。

なる文ありとし、此二文を合して一文となすこと、せんか、

She looked me in the face and big tears were rolling.....

= She.....and she had big tears rolling.....

= She....., having big tears rolling.....

= She....., with big tears rolling.....

「玉なす涙は頬を流れつ、女は私の顔を見た」。

とならむ。同様に

He stood looking on. His hands were in his pockets.

なる文は

He stood looking on, with his hands in his pockets.

「懐手をして、立つて見て居た」。

となるべし。

cutting north-easters. 「身を切る如き東北風」。

【参考】 「東北」と云はず「北東」と云ふに注意せよ。其他

'south-west' 「西南」 'north-west' 「西北」 'south-east' 「東南」。

for the most part. 「大部分」「大概」。

that time. 前の eleven days を受く。

2. 前は、厚く氷に包まれて、その操縦は中々の骨折仕事でした；(何しろ)索具や帆は(凍つて)硬くなつて、皆の者が精限りの力を出してやつと動くと言ふ有様。(ですからして)やうやう港に着いた頃には、乗組の者共は皆疲れて力は全く盡き果てて居ました。

【註】 Forward. 舳(bow)を指す。

was coated with.....=was covered with..... 「.....に蔽はれて居た」「.....が一面に張りつめて居た」  
it was hard work to handle her. 「之を操縦するは中々の骨折仕事でした」

it は無論下の 'to.....' に係る。

rigging. 索具一切の總稱にして standing rigging と running rigging との二種あり。

stiff. 凍つて硬くなれるなり。

yield. 「屈した」「思ふ通りになつた」

At last, the door yielded. 「やつとの思ひで戸が開いた」

only when..... 「.....した時のみ」「.....して始めて」「.....してヤツと」

the strength.....to the utmost. 「皆の者の力が極度迄働かされて」即ち「皆の者が有らん限りの力を出して」

at length. 「遂に」「ヤツと」

made the port. 「港に着いた」

【参考】 'make' は航海上にては 'reach' の意に用ふ、'to make port, land' 等。

hands. 通例複数形にて persons の義に用ふること猶邦語にて「書

く人」を「書き手」「讀む人」を「讀み手」と云ふが如し。但此處にては無論船員の事なり。

【参考】 All hands joined the sport.

「皆の人が一所になつて遊戯をやつた」

worn down. 「疲れ果てゝ居た」。Down は單に worn (wear, wore, worn) の意味を強めたる迄なり。

exhausted. 發音 (ëgz-awst'et) エグザウステトにして 'x' の濁音なるに注意せよ。

總じて 'ex-' を以て始まり其次に母音又は Silent の 'h' ある語は、其 Accent が 'ex-' にあらずる限りは、'x' は常に濁音なりと知るべし。

{ex'ercise (ëks'ër-siz). Accent が 'ex' にある故清音。

{exert' (ëgz-ërt'). Accent が 'ex' になき故濁音。

{exhort' (ëgz-ört'). 'h' が Silent なる故濁音。

{exhume' (ëks-hüm'). 'h' が Silent ならざる故清音。

{expert' (ëks-përt'). 'ex' の次が子音なる故清音。

{exert' (ëgz-ërt'). 'ex' の次が母音なる故濁音。

3. 『ひどく寒い晩だね、ラーキン君』と、私は暫時上に出て居た時に、運轉手に申しました。先生外套をば尙もしツかと鈕をしめて、月を見上げて、答へて云ふに『コリヤ鳴風ほっかんです、船長殿！今晚は毛布を着ないぢややりきれませぬな』

【註】 bitter=painful ; severe.

mate. 船の運轉手。

tarried. 「マゴマゴして居た」「居つた」

upon deck. 「甲板上に」「上に出て」。'to go below' 「船室へ下りる」に對する句。

the worthy down-easter. ラーキン氏を指す。米國にて

は通常東と南とは 'down east' 'down south' 北は 'up north' 西は 'out west' と云ふ。従つて 'down-easter' と云へば 'down-east' (New England 殊に Maine 州) より來れる人の義にてラーキン氏は何處か New England の人に見ゆ。文中 worthy とあるは賞めて云へるにて、文字通りに譯しては邦語としては何だか面白からざる故譯文にては單に「先生」とせり。

more tightly. 「尙もキチンと」。

around him. 「身邊に」。

whistler. ヒュー、ヒューと鳴る即 whistle する風の義。

It's=It is.

nothing can live.....out of blanket.

「毛布を着ないぢや何だつて心地よく居られはせぬ」即ち「毛布にくるまらなくつちややりきれませぬね」の意。

4. 『潮の出方が大分エライ様だから、此流れて居る氷をばよーく見張りをして居るが良いよ、ラーキン君』と、下へ降りて行かうと振り向きながら、申しますと。運轉手忠實にも『ハイ、ハイ、<sup>かしてま</sup>畏りました』と答へました。

【註】 running out=flowing out.

it will be well to..... 「.....して居る方が宜しい」。

keep a sharp look-out for..... 「.....をよく注意して見張りをする」。

to go below. (五頁参照)。

Ay(アーイ)。aye と綴り yes と同義なり。

responded=answered.

the faithful mate. 「忠實にも」と副詞的に譯する方佳なり。

5. 其後二時間ばかりして、私は熟睡して居る所を見張りをして居た士官に起されました。先生何だか私が不平の顔付をして居るのを見て、申しますには『船長殿、御邪魔をしまして済みませぬ、が、どうか御起きになつて、成丈け早く上へ出ていらつして戴きたいものです』。

【註】 was aroused from a sound sleep. 「熟睡して居た所を起された」。

vigilant officer. 見張りをして居た士官即ちラーキン氏。

excuse me for..... 「.....の段は御免下さいまし」  
「.....して失禮です」。

【参考】 (1) thank you for your kindness.

「御親切の段忝う存じます」。

Excuse me, sir, but what is your name.

「失禮ですが、御名前は何と申されますか」。

detected. 「見止めた」。

an expression of vexation 「不平の顔つき」。

turn out=rise from bed. 「起きる」。

I wish you would..... 「どうぞ.....して下さいまし」。

比較:— { I beg (or request) you will come. 「御出を乞ふ」。  
I wish (or desire) you to come. 「来て戴きたい」。  
I wish you would come. 「御出で下さいまし」。

on deck. (五頁参照)。

as soon as possible=as soon as you can. 「成丈け早く」。

6. 『如何したんです、ラーキン君』と私が云ひました。  
 『如何しましたつて、貴殿、私は大きな氷の塊を氣を付  
 けて見て居ました、それは今の先き、向ふの方を流れ  
 て居たのです、しますると私はその上に何だか黒い物、  
 何だか動いて居ると思ふ様なものが見えました。(何  
 分) 月が雲に隠れて居ますので、明瞭とは見えません  
 でした; が、どうも此寒夜に、其氷の塊の上で、子供  
 が海へ流れ出て居る様です』。

【註】 What's the matter? = What is the matter? 「如  
 何したんです」。

【参考】 Is anything the matter? 「如何かしたのか」。

No, nothing is the matter? 「イヤ、如何もせぬ」。

Why. 一種の間投詞にして「意外の事を訊くものだ」と云ふ程の心持  
 にて時には驚愕の意にもなり時には躊躇、立腹等の意ともなる。

【例】 "Are you sure you are not mistaken?"

"Why, of course I'm not mistaken."

「君は本當に間違つて居ないか」。

「間違つて居ないのかつて、無論間違つて居ないのさ」。

"What do you mean by growing?"

"Why, don't you know what growing means?"

「成長とは如何云ふことか」。

「何だと、君は成長とは如何云ふことか知らないのか」。

"Why, it's my husband's writing."

「オヤ、そりや私の夫が書いたものだ」。

I have been——ing. 「今迄——して居た」。

a large cake of ice. 「大きな氷の塊」。

swept by. 「スーッと通つて行つた」。

【参考】 Who was the man that passed by you.

「今通り違つて行つた人は誰でした」。

at a distance. 「少し離れて」。

比較:— { at a distance. 「一寸離れて」  
 in the distance. 「遠方に」。

something black. Something, anything, nothing の場合には其形  
 容詞は常に其後に來る。

【例】 Have you anything nice.

No, I have nothing nice.

under a cloud = behind a cloud.

I believe..... 「どうも.....らしい」。

7. 双方何れも他の語を發せぬ中二人は既に上へ出て來  
 て居ました。運轉手は、やつとの事で、其の白い、輝  
 いて居る面に一つボツリと黒點のある、風下へと流れ  
 行く氷の塊を指しました。私は『双眼鏡を持つて來て  
 呉れ給へ、ラーキン君、月は直にあの雲から出て來う  
 から、さすれば明瞭見える』と云ひました。

【註】 .....before—— 「——する前に.....した」  
 即ち「——せぬ中に.....した」。

【例】 He started before I came.

「彼は僕の來ぬ中に立つた」。

either = either of us.

another word = one more word.

pointed out. 「指でさし示した」。

with no little difficulty = with much difficulty.

「少なからぬ困難をして」「やつとの事で」。

比較:— { no little..... = much.  
 not in the least = not at all.

He was *not a little* surprised.  
 「少からず驚いた」即「非常に驚いた」  
 He was *not in the least* surprised.  
 「少しも驚かなかつた」

floating off. 「流れて行く」。

leeward. 風の吹いて行く方即ち「風下」。風の吹いて来る方即ち「風上」Windwardの反対。

broken by——. 「——の爲めに破られる」「……の中にボツリと——がある」。

in a moment. 「少し立てば」「直に」。

and then. 「さうしたら」。

8. 私は退いて行く氷の塊に眼を留めて居りますと、其間に月は厚い雲の間をば徐々として出て参りました。運轉手は双眼鏡を持つて私の側に立つて居る；兎角する中（月は愈雲間を出て）唯我北緯の地方のみで見らるゝ様な皎々たる光を以て水面を照しました時、私は眼鏡を眼に宛てました。一目で充分でありました。

【註】 kept my eye upon..... 「……に目を据へて居た」「……を見つめて居た」。

【参考】 He fixed his eyes on me. 「僕を見つめて居た」。

You must keep an eye upon him.

「あの男にはよく注意をして居ないとけない」。

receding. 「(海の方へ)退いて行く」。

was working her way = was making her way by working. 「困難をして進むだ」の義にて 'to make one's way' の變形。月の容易に雲間を出で得ざりしを云へるなり。

【類例】 'to pick up one's way' 'to push one's way' 'to fight one's way.'

full light. 月の光全部、即ち一點の雲の遮るなかりしなり。

with a brilliancy only known..... = with a brilliancy (which is) known only..... 「……のみで知らるゝ様な皎々たる光を以て」。即ちかく皎々と照すは唯.....に於てのみ見受けらるゝとの意なり。

glance. 一寸見ること。

9. 『オイ、舳の者共』と私は聲を限りに呼んで置いて；一跳びで、中央な艙口へ達し；小さいカター、船のヨールの中へ積んであつたのをば、下し始めました。其間にラーキン君は自分でも見てやらうと眼鏡を取つて居ましたが、『あの氷の上に子供が二人居る』と、ボートを下す手傳ひに駆けて來ながら、大きな聲で云ひました。

【註】 hailed. 「叫んだ」。

at the top of my voice. 「聲を限りに」。

with one bound. 「タツター跳びで」。

main hatch. 艙口(hatch)とは甲板にある長方形の口にて此處より昇降し乃至荷物の出し入れをなす、之に三種あり、中央即ち mainmast(主檣)の前にあるを mainhatch、foremast(前檣)の前にあるを forehatch、mizzenmast(後檣)と mainmastとの間にあるを afterhatch と云ふ。

clear away. 「取り除ける」即ち「下す」。

cutter. boat の一種にて極めて快速力を有する船。

ship's yawl. 船は無生物なれど尙所有格を取ることを得るは注意すべし。

A boat's crew. 「ボートの乗組員」 a whole ship's company. 「船員全部」等。

yawl. 亦 boat の一種にて通常四個又は六個の櫂を附す。

stowed. 「積むであつた」。

for himself. 「自分で」

【例】 I like to do everything for myself.

「僕は何事でも自分でやるのが好きだ」。

I leave you to judge for yourself.

「君の判断に任す」。

比較:— For oneself. 「(人の助を借りず)自分で」。  
By oneself. 「(人と一緒になく)單獨で」。  
Of oneself. 「(人からさせられたでなく)自然に」。

assist—in..... 「——が.....する手傳ひをする」。

10. 皆の者は私の呼んだのに應じて、急いで後甲板へやつて参りました。一寸の間に、そのカタールを下して、それへラーキン君と私とは跳び乗る、其後へ續いて水夫が二人、之は櫂を取つたのであります。私は舵の柄をつける、運轉手は艫の所へ私の側へ座りました。

【註】 aft. 「後甲板」。

In a short space of time 「ほんの少しの間に」。

jumped. 發音ジャムト (jūmt) なるに注意せよ。

rigged. 「着けた」。

tiller. rudder(舵)を廻す柄。

stern sheets. 艫と漕手との間なる sheets。

11. 『上へ何か黒いものが乗つかつたあの氷の塊が見えるかい、御前達は。あれの側へ私を連れて行て呉れ、

そしたら賃金を渡す時に一ヶ月分の特別増金を呉れるからな』つて私は申しました。

【註】 my lads. 此處の lads は親しみて云へるものにして年齢の若かりしを云ふにはあらず、従つて之を譯するに當つても角立てず單に「御前達」位にて其からん。

【註】 with—upon..... 「.....の上へ——の乗つかつて居る」。

【参考】 with a pipe in one's mouth. 「煙管を(口に)啣へて」。  
with a gun on one's shoulder. 「鐵砲を(肩に)擔いで」。

alongside of..... 「.....の側」。

and = and then. 總て命令文の次にある 'and' は 'and then' (さうすれば)の意なり。

比較:— Work hard, and you will pass.  
「勉強せよ、さうすれば及第する」。  
Work hard, or you will fail.  
「勉強せよ、そでないと落第する」。

I'll = I will.

a month's. 無生物と雖時間を表はす語は猶所有格たるを得る慣用法あるは記憶し置くべし。

【参考】 Today's paper. 「今日の新聞」、Two weeks' absence. 「二週間の不在」等。

extra. 「餘分の」「特別の」。

【参考】 Extra work. 「餘分の仕事」、Extra holiday. 「臨時休業」、Extra! Extra! 「號外、號外」。

wages. 「賃銀」。

比較:— wages. 「賃銀」(身體を勞して得る報酬)。  
salary. 「俸給」(精神を勞して得る報酬)。

paid off. 給料を拂つて暇をやることを 'to pay off' と



云ふ。水夫等は一航海の終りし時は一旦解雇せらるるなり。

12. 彼等は盛に漕いだ、けれども其漕ぎ方が不同で弱い；先の二週間の劇務の爲め力が盡き果て、居たのであります；それで、全力は盡して見ても、ボートは汝(の流)に越せなかつたのです。これでは(何時まで経つても)追ひ損です、ですからラーキン君は、(先程から)如何も進まぬと云ふことを見て盛んに氣を揉むで居ましたが、(今はもう堪り兼ねて)、大きな聲して申しました、『漕げ、者共！乃公が船長殿の褒美を倍にしてやる：二ヶ月分餘分にだ：サー漕げ、者共！一生懸命漕げ』。

【註】 bent to their oars. 櫂(oar)を盛んに漕ぐには自然身體は曲(bend)らざるべからず、従つて「櫂に身體を曲げた」と云へば「熱心に櫂を漕いだ」の意となる。而して 'bend to' は此義より轉じて總て物事に熱中の意味に用ひらる。

'to bend one's mind to.....' 「.....に心を用ふる」 'to bend to study' 「勉強に熱中する」。

strokes. 櫂で一つ漕ぐを stroke と云ふ。

uneven. even でない即ち不揃ひの意。

were worn out. 「疲れきつて居た」。

fortnight. 「二週間」 fourteen nights の轉。

【参考】 sevensnight (or sennight). 「一週間」 twelve-month. 「一ケ年」。

did their best. 「全力を盡した」。

I will do my best. 「全力を盡しませう」。

made little more headway than ——. 「——を追ひ越

せなかつた」。

因に云ふ little には打消の意あり。

He is little better this morning.

「今朝もさして良くはない」。

losing chase. 潮も海の方へ退きつゝあるを以て其速力に勝たずんば何時まで経つても到底其潮と共に流るゝ例の氷塊に追ひ付くことは出来ぬ譯なり。故に「追ひ損」と云ひたるなり。

【参考】 a losing game. 「勝負敗け」、 a losing battle. 「敗軍」。

suffering torture. 「心苦しく思つて居た」。

【参考】 苦しい思ひをするを 'to suffer' と云ひ、楽しい思ひをするは 'to enjoy' と云ふ。

how little we gained = that we did not gain.

「どうも進まぬと云ふことを」。

double. 「倍にする」(動詞)。

two months'.

(十三頁参照)。

for life. 「命に懸けて」「一生懸命」。

13. (苦しいながらも尙)痙攣的に時々ゲイゲイと漕ぐんで二人の者も心の中では如何ばかり命令に従ひたいと思つて居たのかと云ふことが分る；けれども流石強い奴共の力も既に盡き果て、居りました。可愛相に一人の奴は櫂を戻す時に二度までも私共に水をかぶせまして、それから到頭力が全く盡きて愈漕げなくなりました；今一人の奴も之と殆んど同じ位に弱つて居たのです。(そこで)ラーキン君は前へ飛んで出てイキナリその棄てた櫂を取り。その水夫に向つて『ボートの底へ寝て居れ、それから、船長殿、今一つの櫂を御取りになつて下さい；(かうなりやもう)私共自分で漕がんけりやなりませぬ』と云ひました。

【註】 convulsive. 「痙攣的」時々ボクリボクリとやる

事、倦まず撓まず地をつめてやる所謂 steady の反對なり。

effort at the oars. 櫂を漕ぐ事を云ふ。

At には従事の意あり。

He is *at work* now. 「彼は今勉強して居る」。

I always find you *at your books*.

「君は何時来て見ても讀書して居る」。

They were *at cards*. 「骨牌を取つて居た」。

—told…… 「——が……を示した」「——で……が分つた」。

how willing the men were to obey. 「人々が如何ばかり命令に従ひたかつたかと云ふことが」換言すれば「命令に従ひたいは山々であつたと云ふことが」。云ふまでもなく how willing は were に係る。

was gone = was exhausted.

poor. 「可愛相に」と副詞的に譯す方當れり。

washed. 「水をあびせた」。

in recovering = when he recovered.

gave out. 「力盡きた」。最早漕げなくなりしなり。

was nearly as far gone. 「殆んどそれと同じ位力が盡きて居た」。(十八頁参照)。

seized. 「イキナリ攔んだ」。

for ourselves. 「自分で」(人に頼まずに)。

(十二頁参照)。

14. 私はセカンドマンの席に着きました。其間にラーキン君は既に上衣を脱いで居ります、そして先生 ヴァウを漕いで居ましたから、私は合圖の櫂を待つて居まし

た。その櫂は静だが、しかし力はいつて居る；すると間もなく今度は一所に長くつて、ジツパリとした漕ぎ方をやる；それが段々と速力を増して、遂には木が櫂のロックの所で煙つて居る様に思はれました。私共は互に、長い深い呼吸で以て、調子を取つて居つたのです。

【註】 Second man. Bow man (舳手) の次にあつて之と反對の側を漕ぐ者。

had stripped off. 「既に脱いで居た」。

the bow = the bow-oar.

waited for…… 「……を待つた」。

比喩：— {to wait for. 「待つ」。  
{to wait on. 「侍る」。

It = The signal stroke.

the next moment. 「すると間もなく」。

increasing in——. 「——が増す」。

【参考】 Sendai has decreased *in* population.

「仙台は人口が減つた」。

They are about equal *in* size.

「大きさが殆ど同じい」。

until…… 「……した迄」と下より反るは拙なり、宜しく「遂に……した」と上より順に譯すべし。seemed to smoke. 摩擦の爲め煙の出る様に思はれしなり。

row-locks. 船椽にあつて漕ぐ時櫂をもたす處。

kept time. 「調子を取つた」。

15. イヤ大した漕ぎ方でした！先づ顔が殆んど膝へ着く

位まで前へ屈んで；今度は全力を後向けの運動へ注いで、櫂の通つた丈には残らず進むと云ふ位まで櫂をひつぱりました。此様にして私共は十五分間櫂を漕ぎましたが；それが何だか十五時間も漕いだ様な気がしました。(何様)汗は大きな粒になつてダラダラ落ちるし、私は全身自分の身體より出る湯氣に包まれて居ました。

【註】 Such a pull! = What a strong pull it was! throwing all our strength into——. 「——へ全力を注ぐ」。

drew on the oar. 「櫂を漕いだ」。  
every inch covered by the sweep was gained. 櫂の通つた丈は残らず船が進んだの意。即ち櫂が一寸通れば船も一寸進んだとなり。  
worked at the oars = pulled the oars. 「櫂を漕いだ」。

【参考】 I have been *working at* the problem all day.  
「僕は一日其問題をやつて居た」。  
He began to *work at* a pair of shoes.  
「彼は靴を造り始めた」。

as many hours. 「丁度それと同数の時間」即「十五時間」。

As many 又は so many はかく同数の意なるを以て注意すべし。  
These are not all the books. I have *as many* more at home.  
「私の持つて居る本は之丈けぢやないのです、宅にもう之れだけあります」。  
The lamps shone like *so many* stars.  
「ランプが丁度それ丈けの星の様に輝いて居た」

in great drops. 「大きな滴となつて」。*In* は形状を表はす。  
【類例】 *In* groups. 「群をなして」 'to fall *in* torrents' 「篠を亂して降る」 '*in* a row' 「一列になつて」等。

enveloped in——. 「——に包まれて居た」。

【参考】 He was closely *muffled in* a cloak.  
「外套眼深に包んで居た」。  
The house was *enveloped in* flames.  
「家は一面に焔に包まれて居た」。

generated = which was generated. 「發したる」。

16. 『もう大抵來着いたかね、ラーキン君』と私は喘ぎながら申しました。すると先生云ふのに『大抵は(來着きました)、船長殿、止めないで下さい、宅に居る可愛い子供の爲ぢやと思ひなすつて：止めないで下さい、船長殿』。(そこで止めないで愈々漕ぐ) 櫂は其面が月光に向つた時キラキラと輝きました、と云ふのは之を漕いで居る者は人の親で、親の心を持つて居たのであります。

【註】 Are we almost up to it? = Have we almost reached it? 「もう大概來たかね」。*it* は無論例の氷塊を指す。

*Up to* には或點まで達するの意味あり。  
The water came *up to* my mouth.  
「水が口の所まで來た」。  
We were *up to* the knees in mud.  
「膝の所まで泥の中にはいつて居た」。

gasped out = cried out by gasping. 苦しめて呼吸せはしく云ひしなり。

give up. 「止める」。

I gave up the attempt in despair.

「とても駄目だと思つて止めてしまつた」。

for the love of..... 「.....が可愛けりや」「.....の爲めぢや」。

little ones=children.

blades. 櫂の側面の平たき所。

plied them=pulled the oars.

were fathers=had children.

had fathers' hearts. 「子の可愛さは知つて居た」。

17. 不意にラーキン氏が漕ぐのを止めた；私の胸は、一時は、殆んど鼓動が止まらばかりであつた；と云ふのはさてはラーキン君も力が盡きてしまつたんぢやないか知らと云ふ恐ろしい考が胸に浮んだからである。しかし『静に、船長殿、静に；もう一本か二本です；ア、それで宜しう御座います』と云ふ彼の聲を聞いて安心しました、やがてラーキン氏は氷の上へ飛び乗る。私も急いで立ち上つて、皆の者にボートをばしっかと氷へくくり付けて置けと大きな聲して云つて置いて、その後を續いて参りました。

【註】 ceased pulling. 「漕ぐことを止めた」。

for a moment. 「暫時は」。

had given out. 「力が盡き果てた」。

crossed my mind. 「胸に浮んだ」。

re-assured by..... 「.....で安心した」「.....を聞いてヤツと安堵の思がした」。

I am reassured by what you say.

「それ聞いて安心」。

(p). 其次の文の讀方を示す符號にて piano (=soft) の意なり。(f). 即ち forte (loud) に相對す。

a stroke or two more = one or two strokes more.

A を用ふると one を用ふるとにより stroke の位置及數に變化を生ずるに注意せよ。

A day or two = One or two days.

there. 一種の間投詞なり。

There, there! That will do.

「ソ、ソ、それで宜しい」。

There you are.

「ソラ見ろ」。

There it is; women never look to consequences.

「其處だて、女は鬼角先き目が見えんで困る」。

to make fast = to fasten. 「くくり附ける」。

18. (氷)塊の真中の黒點の處へ走つて行て見ますと、子供が二人居ます。小さい方の頭は大きい方の胸の所へもたして；二人共熟睡して居ます。二人共昏睡状態に陥つて居たので、若しかく丁度折良き時に救助ふことがなかつたらそれが爲め命を取られるのがありました。

【註】 .....found——. 「.....して見れば——であつた」。

I called on and found him absent.

「行つて見たら留守であつた」。

On opening the box, I found it empty.

「其箱を開けて見たら、空であつた」。

the smaller, the larger. 二つのものの中「.....の方及び——の方」  
と區別する時は常に比較級にして定冠詞を附す。

比較:— { *the larger* of the two.  
*the largest* of the three.

lethargy. 「昏睡」。

would have been——. 「若し.....だつたら——する  
のであつた」。

fatal. 「命を取らるる」。

a fatal disease (致命症)。

but for——. 「若し——がなかつたら」。

But for your aid, he would have failed.

「君の御助力がなかつたら、彼は失敗するのであつた」。

timely rescue. 丁度折よい時に助けた事。

The lethargy, ——, had over-whelmed them. 「昏睡が  
彼等に打勝つて居た」即「昏睡状態に陥つて居た」。

19. ラーキン君はその子供の中一人をば摺むで、靴を切  
り取り、上着を裂いて除け、それから、自分の着物を  
肌までくつろげて、その冷い子供をば自分の暖い身體  
にキチンと當てて、上衣で叮嚀に身體をくるんでやり  
ました。私も今一人の子供に同じ様なことをして、そ  
れから私共はボードへ歸りました。

【註】 tore. tear, *tore*, torn.

to the skin. 「肌の處まで」。

【参考】 Wet to the skin. 「肌まで濡れる」。

Chilled to the bone. 「骨まで冷へ渡る」。

placed——in contact with.....「——を.....に觸れる様  
に置いた」即ち「——をキチンと.....へくっつけた」。

I did the same—— = I did the same——as Mr. Larkin  
had done with the child.

20. 此子供は、私共がそれをば首尾能くその兩親に返す  
を得た時に聞いた處によると、何でも ニューヨークか  
ら十哩計り上手の方、川の曲つた所へこみ合つて居た、  
氷の塊の上で遊んで居た(さうです)。ところが潮が動  
きだすとそれにつれて氷も動き出し、その寒夜に、子  
供等は運び去られて、若しラーキン君がその海の方へ  
と流れて行く所をば認めることがなかつたら、屹度死  
ぬるのがでありました。

【註】 as we learned. 「聞いた所に従へば」「聞く所に  
よれば」。

had the delight of restoring. 「返す喜びを得た」即ち  
「首尾能く手渡しすることが出来た」。

jammed. 「こみあうた」。

Logs jammed in the river.

「川には材木がこみあつて居た」。

above. 「.....より上手」。Below (下手)の反對。

.....set the ice in motion. 「.....が氷を動かした」

「.....につれて氷が動き出した」。

borne.

比較:—bear { ((生む)、 bore born.  
((運ぶ)、 bore borne.

過去分詞に於て 'e' の有無に注意せよ。

inevitably. 「屹度」「必定」。

but for.....

(二十二頁参照)。

espying. 「見つける」。

sweeping out to sea. 「海の方へと盛んに流れて行く」。

21. 『具合は如何です、ラーキン君』と、此事のあつた翌朝、私が運轉手に申しますると、流石はラーキン君『腕が少し凝つて居ります、船長殿』つて答へました、がさう云つて居る中に有り難い仕合せであつたとの大きな涙は兩眼に浮んで居ました、—『腕が少し凝つて居ます、船長殿、しかし此處は至極樂です』つて、眞實な男らしい心臓の鼓動せる荒くましい胸の所へ手を置いて(答へました)。イヤナニ此面白い東國人、海を鞭つて之を荒れしめ、暴風雨を放ち給ふ神様は、屹度君を守り給ふのです！よしや外には風雨猛り狂ふとも、君の胸中には平和と日光とが常に宿つて居ります。

【註】 feel. 「心持」「氣持」。

the morning=the next morning.

adventure. 「出来事」。

stiff. 凝つて硬くなれること。

the noble fellow. Noble は賞めて云へるものにて fellow は親しむで云へるなり。ラーキン氏を指せることは云ふまでもなし。

grateful. かく子供を助けることが出来たのも偏に神冥の加護によるのだと有り難く思ひしなり。

“ a little stiff..... ” 上にも之と同じ文句あればとてラーキン氏が同じ事を二度繰返せしにはあらず。ラーキン氏の語未だ終らぬ中に稍長き the noble fellow.....eyes なる文が中間に來りし爲め文意の連絡の爲め筆者が殊更に立ち戻つて前言を繰返したる迄なり。

beat. beat, beat, beat (or beaten).

quaint. 餘り角立つて云ひしには非ず。

He. Capital letter にて書きたる He は常に God を指す。

lashes the seas into fury=causes the seas to rage.

「海を(鞭つて)荒されず」。

Into は結果を表す。

I reasoned him into compliance.

「理屈を説いて従はした」。

He forced me into obedience.

「無理に僕を服従させた」。

let loose. 「放す」。

The boy let his caged bird loose, and it flew away.

「子供は籠の鳥を放したら飛んで行つた」。

care for=take care of. 「世話する」「守る」。

The child was well cared for.

「その子供は丁寧な取扱をうけた」。

without. 「外」。

abide=dwell.

## Robert Bruce and the Scotch Woman.

### ロバートブルースとスコットランド 婦人

I. 昔、スコットランド(のとある片田舎)で老女が唯一人、さゝやかな草の庵に、絲を紡きながら臺所の火の側に、坐つて居りました。部屋には獵の獲物や、さては戰(道具)獵道具が澤山飾りつけてあります。槍もあれば、弓も(あり)矢も(あり)、刀も(あれば)、楯も(ある)、壁には一對の大きな叉角が掛つて居る、嘗ては『十歳の牝鹿』の立派な額に生えて居たもので、其上には獸の皮、袍衣、帽子、それから戰斧か一二挺掛つて居ります。

【註】 Many years ago. 「數年前」など直譯しては當らず。

a Scotch woman = a woman of Scotland.

sat—spinning. 「坐つて絲を紡いで居た」。

比較:— $\begin{cases} \text{She was spinning.} \\ \text{She sat spinning.} \end{cases}$

spoils. 「獲物(狩獵の)」。通常複數形。

chase = hunting,

implements = instruments ; tools.

spears. 「槍」。

—( 27 )—

【注意】 Spear の發音はスピーア(spēr) 然るに pear 「梨」はペア(pâr) pearl 「真珠」はパール(pêrl)。

bow. 「弓」。發音はボウ(bō) 然るに「仰頭」「軸」の義の時は バウ(bou)。

arrow. 「矢」。發音はアルツ(ar'ró)。

sword. 發音はソード(sōrd) なり、スワードに非ず。

against (アゲンスト)。Against には「倚りかゝる」「凭れる」の義あり。

Who is that man leaning against the wall.

「壁に凭れて居るあの人は誰ですか」。

There is an umbrella resting against the wall.

「囀傘が壁に掛つて居る」。

Against the wall hung a gun.

「壁に鐵砲が掛つて居た」。

the side of the room = the wall. 「壁」。

a pair of huge antlers. 「大きな角が一對」。

【類例】 A cup of water. 「水一杯」、a mouthful of food. 「飯一口」、an armful of wood. 「薪一抱へ」。

antlers. 「又になつた角」「鹿の角」。

once reared. 前へ which were を補つて見よ。

lordly brow. 鹿の角を頭に戴ける様は如何にも立派に見ゆるものなり。

a "stag of ten." 牡鹿の角は一年に又一つづつ生ずるものなば其又の數によりて其鹿の年齢を知るを得ると云ふ。

were suspended. 此動詞の主格は即ち skins 以下全部なり。

plaids. スコットランド高地の男女共に着る格子縞の

袍衣。

bonnets 邊のなき女帽。

ponderous = very heavy.

2. 床の中程には、夕飯の準備が出来て居ます、火の前にはひきわり麥の菓子（ゆか）が焼いてあります。けれどもこの婦人はこんな事等は勿論、隣室で、健氣にも一生懸命翌日の獵（けんき）の用意（けんき）をして居る、二人の息子のことも考へては居りませぬ。

【註】 The table.....was spread. 「食事の用意が出来て居た」。

oatmeal cakes. ひきわりの燕麥で造つた菓子。

were baking = were being baked.

かく無生物が主語となりし時は其動詞は形は Active なるも意味は Passive なるに注意せよ。

The house *is building* (= *is being built*).

The drum *was beating* (= *being beaten*).

dame. 此處にては單に主婦位の意なり。

any of these things. 「こんな事は一向」。

of her..... 前の thinking に續く。

adjoining = next.

preparing for——. 「——の準備をする」。

He has *prepared for* the journey.

「彼は旅行の準備をした」。

I am *preparing myself for* the examination.

「僕は試験の準備をして居るところだ」。

3. 祖國の亂れたる有様や、(身は一天萬乗の君でありながら運拙くして)、四方より、公然君に刃向（あきらか）を敵の奴原（やつばら）や陰然君に仇なす叛逆の輩に取圍まれ、現在己が國に

亡命の客となり給へる、國王、ロバートブルースのこゝとを考へて居たのであります、つらつら思ふ様『嗚呼！(さてもさても亂れ果てたる世の様よな)。自分は今夜は此處に心安けく住むものの、明日にも追ひ出されて何所の野末に彷徨（さまよ）お身となるかも知れない、それにしても王様には今ですら、疲れし御足を休むべき軒端（のきば）だになき、漂浪の御身と成り給うて居る』。

【註】 distracted state. 「紛亂せる有様」。

Robert Bruce, a fugitive. 共に前の the good king と 同格。

in his own kingdom. 「自分の國でありながら」。

單に in his kingdom と云ふより意味強し。

beset. 此動詞は 'set' と同じく、現在、過去、過去分詞皆同形、ここにては過去分詞。

on every hand = on every side.

They were surrounded by the enemy *on every hand*.

「敵は四面を取り圍み」。

in peace = peacefully. 「安心して」。

Wrong-doers can not sleep *in peace*.

比較: 「悪人は落付いて眠られぬ」。

Japan and Russia are now *at peace*.

「日露は今平和だ」。

to-morrow may see me.....

こは例の英語一流の擬人法にて其意味は

I may be driven out into the heath to-morrow.

と云ふに同じ。類例を挙げれば

*Every night* found him poring over his books.



「何時の夜でも彼は讀書して居た」。  
even now. 「明日と云はず今でも」「現に今も」。  
shelter. 「立寄る所」「隠家」。

It began to rain, and we took shelter in a cottage.

「雨が降り出して、小屋で雨宿りをした」。

limbs. 「手足」殊に「足」。

4. かかる瞑想の折柄烈しく戸を叩く音聞ゆ。婦人は、恐ろしさに身慄ひしつつ、立ち上つて、入口の門を外す、見れば外套眼深に着たる一人の男。『御主婦さん、行き暮れて惱める旅の者一夜の宿を貸して下され』とその男の言葉。

【註】 knock. 「戸を叩く」。

I knocked at the door.

broke in upon. 「不意にはいつて來た」。

A drunken man broke in upon the school.

「酔漢が突然學校へ亂入した」。

He broke in upon my study.

「彼は突然やつて來て僕の勉強の邪魔をした」。

musings. 「瞑想」「默想」。

trembling with fear. 「恐ろしくてガタガタ慄へる」。

比較：— { He trembled with fear.  
He could not speak for fear.  
He obeyed from fear.

unbar. 「門を外す」。

【注意】 此 'un' は unhappy, unpleasant 等の 'un' の如く 'not' の意にあらず。一體 'un' は形容詞の前にある時は 'not' の意なれど、動詞の前にある時は 'not' の意にあらずして、'back' 即ち「元の通りに復する」意なり。従つて 'unbar' は「門をかけた」の意にあ

らずして「かけたものを元の通り外す」の意、同様に 'untie' は「結ばぬ」の意にあらずして「結んだものを元の通り解く」の意なり。unbolt, unwind, undo, undeceive 等皆同様。

beheld. 意外なものを見たの意。

closely muffled in——. 「——でしつかと顔を包むだ」

「——眼深に着たる」。

In は服装を表す。

He is always dressed in black.

「彼は何時も黒装束だ」。

They were muffled up in overcoats and comforts.

「外套や首巻ですつかり身をくるんで居た」。

cloak. 外套のゆるき種類のもの。トンビ、コートは皆一種の cloak なり。

My good woman. 「モシ、お主婦さん」程の意。

will you..... 「.....して下さいませぬか」「.....して下さいませし」。

人に物を依頼する時は何時も此形。

{ Will you please lend me some money?

{ Yes, I will.

grant. 「與へる」「許す」。

【参考】 If you would grant me the favour, I should be much obliged to you. 「御願を叶へて下さるなら、實に有難う存じます」。

grant the shelter of your roof. 「泊めて下さる」。

【参考】 Will you accommodate me with a night's lodging?

「一夜の宿を貸してたべ」。

5. 『宜しう御坐いますとも、ある御方の爲めなれば、その御方の爲めに此處では旅の方は皆御好遇申します』。

【註】 Right willingly will I = I will right willingly.

‘I will’ は承諾を表し right は very の意。従つて如何にも快諾せしこと想像せらる。

for the love of = for the sake of. 「——の爲め」「——を思つて」「——故に」。(二十頁参照)。

Spare me, for the sake of my wife—my child.

「私の妻や一子を不懲と思し召してどうぞ御助け下さいまし」。

one = a certain man.

for whose sake. for the sake of whom の意にて上の whose は上の one に係る ‘who’ と云ふ関係代名詞の所有格。

are welcome. 「款待する」。

【参考】 You are welcome. 「よくいらつしやいました」。

here = in my house.

6. 『漂浪の旅の者をばしかく御款待なさるとはそも誰の爲めです』と見知らぬ人が訊きました。

【註】 For whose sake. 此の whose は前の whose と異なり ‘who’ と云ふ疑問代名詞の所有格にて「誰の」の義。

is it that..... it は that 以下の句を受け「.....するのとはそりや一體誰の爲めです」の意。

比較：— { Who broke the lamp?  
Who was it that broke the lamp?

7. 『國王、ロバートブルース様の御爲めで、王様には(御痛はしくも)今でこそさながら野の獸の様に、笛や犬で、追ひ立てられて御出でなされますけれど、それでも猶何時か屹度スコットランドの玉坐に於て見奉る(日のある)ことと妾は信じて居りまする』。

【註】 who. こは下の I trust yet to see とある see の object なるより文法上厳正に云へば whom とあるべき筈なり。

horn and hound. 邦語の「鐘大鼓」と云ふ類なり。關係の極めて深き語が二個相對せしより簡潔ならんがため冠詞を省略せり。Pen and ink; bow and arrow; mother and child の類。

I trust. 「妾は信じて居ります」。

yet. 「それでも猶」。猶將來に望あるを示す。

8. 『イヤ、では、お主婦さん、あなたは彼をば左程までも愛せらるる故に、(御話するが)あなたは今彼をば眼に見て居らるるんですよ。私が即ちそのロバートブルースです』とその人は答へました。

【註】 Nay. 此場合の Nay は極めて輕き意にて恰も邦語の發語に用ふる「イヤ」の如きものなり。

since = seeing that..... 「.....するからには」。

We must trust you, since you are speaking in earnest.

「君がムキになつて云つて居るからには君を信せんけりやなるまい」。

know that..... 「.....なることを知れ」即ち「.....ですぞ」。

I. (別人ならず)余が。

9. 『あなたが!—あのあなたが王様でいらつしやいますか。では、從者の方は何所に、如何してかく御一人でいらつしやいますか』と跪いて、恭しくその手に接吻しながら尋ねました。

【註】 sinking on her knees = kneeling. 「跪いて」。

10. 『今、從者としては無い、さればこそ、已むを得ず唯一人旅をして居るのじや』とブルースは答へました。

【註】 compelled to——。「——せざるを得ない」「已むを得ず……する」。

II. 『イヤ、わが君様、もう此上はさうはおさせ申しませぬ；さ—此二人の伴をば、あなた様に差上げます、どうか伴共は未長く生きて陛下に御仕へ申し御守護し奉つて呉れ、ば宜しう御座いますか』とこの忠義なるお主婦さんは大きな聲して申しました。

【註】 my liege = my lord.

【注意】 Liege の発音は リーヂ (léj), league (同盟) は リーグ (leg)。  
that. 前節の王の言全部を受く。

【参考】 You will help me, won't you?—That I will (=I will help you).  
Let me choose the name.—That you shall (=you shall choose the name).

that you shall do no longer.

=I will not allow you to do that no longer.

「もう之れからはさう御させ申しませぬ」。

【注意】 總て 'You shall' 'He shall' の形は 云ふ人の意思を表はし 'I will' に相當す。

*You shall not die.*

「死なせはせぬ」。(善意)

*You shall not live.*

「生かしては置かぬ」。(惡意)

*You shall have this book.*

「おまへに此本を呉れよう」。

may they long live……。「生きて……して呉れよかし」。

かく 'may' が冒頭にあればとて疑問文にはあらざることは下に (!) あるにても明ならむ。總てかかる場合の 'may' は 祈願の意を有す。

May you succeed! 「君の御成功を祈る」。

May the Emperor live long! 「天皇陛下萬歳」。

May he rest in peace! 「南無阿彌陀佛」。

live to serve…… = live and serve……

即ちかかる場合の Infinitive は 結果を表す。

He lived to see (=till he saw) his son a great man.

「息子の偉い人になるのを見て死んだ」。

your majesty. 「陛下」。

【参考】 陛下に相對して云ふ時は your majesty. 殿下に對しては your highness. 貴族に對しては your lordship. 身分ある人に對しては your excellency と云ふ。

之に對し間接に陛下のことを云ふ時は天皇には his majesty. 皇后には her majesty. 兩陛下合しては their majesties. 以下皆同じ。

12. 右のスコットランドの青年は跪いて、忠勤の誓をなし；それより、火の側に坐つて、王はこの新參の家來と談話を始めましたが、その母は夕食の準備に忙しかつたのです。

【註】 bent their knees. 「跪いた」。

Bend, bent, bent.

took the oath. 「誓を立てた」。

fealty (フィーアルチ). 「忠勤」。

entered into conversation. 「談話を始めた」。

比較:—  
To enter a room.  
To enter into conversation.

【類例】 To enter into correspondence. 「通信を始める」

To enter into an agreement. 「約束を結ぶ」等。

was busied in——。「——に忙しかつた」「——一生懸命——をして居た」。

【参考】 Engaged in; employed in.

13. 不意に、馬蹄の音や、人の聲がして驚いた。『ありや英吉利人だ！ 伴共、最後まで戦つて、王様を御守り申せ』とお主婦さんは大聲。しかるに、丁度其折、王はジェームズ卿と、ダグラスと、エドワードブルースの聲であると知つたので、彼等に心配をするなど申しました。

【註】 hoofs. 「蹄」

【注意】 語尾が 'f' にて終れりて其複数は必ず 'ves' となると思ふべからず。例へば此 hoof (極めて稀に hooves), roof, reef, proof, wharf, dwarf, gulf の如き之なり。

'Tis = It is.

かく 'it' は人稱數に關係なく漠然と用ふることあり。

It is I, you, he, she, they.....

the English = Englishmen.

to the last = till the last moment.

His mind continued clear to the last.

「最後に至る迄心はハツキリとして居た」

Douglas. 發音は dūg'lass.

bade them have no fear. 「心配するなど云つた」

此 'have' は Infinitive の 'to' を省きしものなり。總じて英語にて「.....せしむ」と云ふ義の語の中 make, let, have, bid の四つ丈けは其後に來る Infinitive に 'to' を要せず。

- { I made him do so. (強制)
- { I let him do so. (許可)
- { I had him do so. (依頼)
- { I bade him do so. (命令)

序に云ふ、bade の變化は

Bid, bade, -bidden.

發音は バド (bād) にしてベイドに非ず。

14. ブルースは思ひ掛けなく弟や、その眞實なる友のダグラスに遇うて大いに喜びました、兩人は一百五十人の隊を連れて居たのであります。(そこで)その剛氣忠良の婦人に別れを告げ、その二人の息子を連れて、此處を立ち去りました。

【註】 was overjoyed at——. 「——して喜んで居た」

At は感情の原因を示す。

I am pleased at your coming to see me.

「君が會ひに來れて嬉しい」

I am rejoiced at the news of your success.

「御成功の由承り喜び居申候」

I am grieved at the news of his failure.

「彼の失敗の由承り残念に存居申候」

meeting with, 「思ひ掛けなく遇ふ」「出くはす」

{ I called and met him.

{ I met with him in the street.

had with them. 「連れて居た」

Have you any money with you?

「金の御持合せがありますか」

I will take you there with me.

「おまへを連れて行てやろう」

He has brought his child with him.

「彼は子供を連れて來た」

bade farewell to——. 「——に別れを告げた」「——に

暇乞をした」

【類句】 To bid adieu.

15. (其後)その二人の若いスコットランド人は良く忠實

にブルースに仕へたので、征討軍を率ゐて、彼が侵入し來れる英吉利人をスコットランドの國土より追ひ拂ひ、それをば再び自由獨立の王國となしたる時、彼に仕へて高官となりました。

【註】 in his service. 「彼に仕へて」。  
at the head of——. 「——の先頭に立つて」「——を率ゐて」。  
soil. 「土地」「國土」  
rendered = made.  
her = Scotland.

國名は單に國名として用ひたる時は無性にして其代名詞は 'it' なる  
一の國家として用ひたる時は女性にて其代名詞は 'she' なり。

比較: { Japan is an island country. It consists of many islands.  
Japan is a powerful nation. She has a strong army.  
again. 「再び」「元の通り」。

## My First Jack-knife.

### 私の初めてのジャックナイフ

1. 私はそれをばよく覚えて居ます! あんなに滑かで奇麗で、意味はないけれど、魔法に使ふ「バンカム」と云ふ言葉で一層引き立つて見へて居た。その角の柄、それから「ツライミー」といふ一綴りの語が二つあつて、特に何だか其切味を試して見たい様な氣持のする刃。

【註】 it = my first Jack-knife.

因に云ふ Jack-knife とは大形の摺む様にしたナイフにて水兵等の持てるは即ち之れなり。

so. 「あんなに」即ち「非常に」  
glowing with——. 「——で輝いて居る」「——がある爲め一層彩へて見える」  
significantly. 「著しく」「特に」  
inviting to——. 「——へ招く」「——して見たい様な氣を起させる」。

【参考】 I was invited to a wedding.

「婚禮に招かれた」。

This apple looks inviting.

「此の林檎は美味さうだ(食つて見たい様な氣がする)」。

the test. 「試して見る(切味を)」。

【参考】 'to put to the test' 'to put to the proof.'

monosyllables. Mono は希臘語の monos より出で one の義なるを以て monosyllable とは syllable (一聲に發音し得る丈の綴り) 一つの語の事なり、従つて 'try' も 'me' も共に monosyllable の語な

り。之に對し 'ta-ble' 'pen-cil' 等の如き二つの syllable の語は dissyllable, dic-ta-tion の如き三つある語は trisyllable, com-po-si-tion, pro-nun-ci-a-tion の如く四つ以上ある語は polysyllable と云ふ。

Try me. 「試して御覽(切れるか切れぬか)。」

2. 如何云ふものだから知らぬと、私は此チャックナイフに於て感じたる、愉快の半分もそれ以來手に入れた何物に於ても感ずることが出来ませんでした。(元來それは私が自分で稼いで得たのであります; ですから、何となく獨立の感を懷いて居ました、それは自分の金で買ったのである、伯父や、乃至猶親切な父から強請つて取つた(金)ではない、——子供の遊ぶとしたその日その日の午後に自分は黙つて稼いで取つた金(で買ったのであります)。

【註】 I know not how it is = I do not know why.

「何故だから知らぬが唯何とはなしに。」

【参考】 I do not know how it is, but I do not like him.

「如何云ふものだから知らぬが、あの男は僕の氣にくはぬ。」

I never could take..... I could never take と云ふよ

り語氣強し。

take.....comfort in——. 「——に於て愉快を感ずる」

「——を持つて居るのを愉快に思ふ」「——を好く」。

【参考】 He takes delight in novels. 「小説道樂だ。」

He takes interest in students. 「書生の世話好きだ。」

He takes pride in his learning. 「學問自慢だ。」

since = since then. 「それ以來」即ち「チャックナイフを手に入れて以來」。

that. 前の comfort に係る代名詞なり。即「私が此チャックナイフに於て感じた愉快 (the comfort that I took)」の意なり。

myself. 「自分で」(他人にして貰つたんぢやない)。

my own money. 「全く自分の金」(他人に貰つたんぢやない)。」 My money と云へば他人に貰つた金でも差支なし。

【参考】 One's house is not always one's own house.

「自分の(住んで居る)家は必ずしも自分の(持つて居る)家でない。」

teazed out of——. 「——より強請り取つた。」

【参考】 The boy teazed 5 sen out of his mother.

「子供は阿母さんを強請つて五錢貰つた。」

still kinder father. 後に than my uncle を入れて見よ。

silently. 「誰にも云はず黙つて」。

on the afternoons of. (一頁参照)。

those days. 其次に which were を補へ。

set apart. 「別にして置く」「.....すると極つた。」

【同意句】 to set aside; to lay apart (or aside); to put apart (or aside).

【参考】 When he received the money, he set apart 5 yen to pay his taxes.

「彼は其金を受取つた時、税金を拂ふに五圓丈は別に取つて置いた。」

It is just the hour set apart for the boarding students to study now.

「今は丁度寄宿生の勉強するとした時間だ。」

to amuse themselves. 「慰む」「遊ぶ」。

【参考】 'to content oneself.' 「満足する」 'to enjoy oneself.' 「楽しむ」。

【備考】 小供の遊ぶとした日と云へば祭日等の如きものなり。

3. アーさうだつた！不屈不撓の勤勉克己の精神を以て、それは今では不思議に思はれるが、私は、所謂「樂果時」中、毎日毎日午後に出掛けて、熟した果實をば熱心に拾つたものです；之は全く私の心が其仕事にはまつて居たからであります。私は取つた樂果は賣り、そして、その賣揚げ金は注意して貯へて、間もなくあの、私のあれ程欲しい欲しいと思つて居た寶物をば買ふだけたまりました。

【註】 Yes! 思ひ回して見ると實にさうだつたとの意。at which I now wonder. 其精神には今日になつて見るとよくもまあそんな立派な精神が持てたものであると自分ながら驚くとの意なり。

At は感情の原因を表す。

I wonder at his audacity.

「彼の大膽には驚く」

We are surprised at our own success.

「吾ながら今度の成功には驚いた(意外だ)」

during——. 「——中」

with eagerness = eagerly. 「熱心に」

總て *With* + 抽象名詞 = 副詞。

With ease = easily; with fluence = fluently.

my heart was in the task. 「心が全くその仕事にはまつてしまつて居た)からそれでこんな事が出来たのであるとの意。

proceeds. 「利得」「賣揚げ金」。常に複數形なるに注意せよ。

accumulated. 「溜めた」

enough to..... 「.....するに足る」「.....するだけの」  
purchase = buy.

the treasure,..... 例のチャックナイフを指す。

for which I so eagerly longed. 「あれ程切に欲しいと思つて居た」「あれ程切望して居た」。

For は欲求の目的物を表す。

I do not wish for much money.

「僕は金もさして欲しくはない」

I long for a sight of her.

「私は彼女に一目會ひたい」

4. 私は村の店へ一軒行つて、手代にチャックナイフを見せて呉れつて云ひました；ところが、私がほんの子供であるものですから、(これは買ふんぢやない)唯一番良いのを見て、之れが自分のがだつたら良からうなどと考へて慰む積りだと思つて、外に要事があるから、邪魔して呉れるなど申しました。

【註】 requested the clerk to show me = said to the clerk, "Please show me....."

seeing that..... 「.....なるを見て」「.....であるものだから」

only. 「ほんの.....である」

He is only a student. 「一書生に過ぎず」

merely = only.

meant (ment). Mean 「.....する積りである」の過去。

to amuse myself. 「慰む」

How do you amuse yourself in rainy weather?

「君は雨天には如何して慰むのか」

I amuse myself (in) reading.

「讀書して慰む」

the nicest = the nicest jack-knife.

wishing it was mine. 「自分のがであれば良からうにと

思つて」「欲しいものだなーと思つて」

【備考】 Wish が所詮叶はぬ願を表す時には其次の動詞は主格の人稱、數の如何に拘らず 'were' を用ふるを通例とす。

I wish I were rich.

「金持ならばよからうに」 (現在)

I wish to be rich.

「金持ちになりたい」 (將來)

told me not to..... 「.....して呉れるなと言つた」

plague. 「苦しめる」「邪魔をする」

otherwise = in another way. 「外に」

was engaged. 「用事をして居る」「用がある」

5. 私はムツとして其處を出た；がしかし内心密かに自己に資力あるを信じ、その權力を自己の掌中に握つて居ることを知つて居る人の(感ずる)様な愉快を感じました。私はポケットの中で其金をチンチン鳴らして、向ふ側の店へ参りました。ジャックナイフがあるかと訊きますと、町から來たての奴を澤山見せて呉れました、(そして)それをば如何にもこちらの心を引き付ける様な具合に私の前へ並べて、どれでも私に勝手に撰らして置いて、商人は私などとは違つて年のいつた花客を待遇に店の外の所へ行きました。で、私は右のナイフをばズーツと見渡し、開けて見ては、刃へ息を吹きかけて見、それから元の通りに摺んで見たり致しました。

【註】 with indignation = indignantly. 「憤然として」 (四十二頁参照)。

felt the inward comfort. 「内心愉快を感じた」

of a man who..... 「.....する人の様な」

has confidence in —. 「—あるを自信する」「自分には—があるから大丈夫だと思つて居る」

I have confidence in his honesty.

「僕は彼の正直なることを信じて居る」

resources. 「資力」「金」。此意味にては常に複數形。

【参考】 means; funds.

the power = the power to make use of the resources.

has — in his own hands. 「—を己が掌中に握つて居る」

jingled. 「チンチン鳴らした」

the opposite. 「向ふ側の」

asked for — = said "Have you any —?" 「—が有るか」と云つた」

【参考】 He asked for you. 「君は居るか」と尋ねた」

a lot = a lot of Jack-knives = many Jack-knives. 「ジャックナイフを澤山」

He has spent a lot of money.

「彼は金を澤山費つた」

fresh from —. 「—より來た計りの」

He is fresh from college.

「彼は學校出のホヤホヤだ」

which. 上の a lot (of Jack-knives) に係る。

temptingly. 「人の心を迷はす様に」。即ち之を見て居



ると自然と買ひたくなる様になり。  
 were land down. 「置いた」「列べた」  
 left for me to——. 「私に勝手に——さして置いた」  
 while. 私の方はさうして置いての意。  
 wait upon. 「侍する」「もてなす」。(十七頁参照)。  
 an older customer = a customer who was older than I.

「私などとは違つて舊い花客」  
 looked over. 「目を通した」「一々調べた」  
 【類句】 'to go over' 「一應目を通す」 'to run over' 「ザツと目を通す」  
 again = to the former state. 「元の通りに」

Again の譯は「また」一點張りでは駄目なり、一體此語には色々の意味あり、此場合の如きも即ち其一例なり。

You have broken my pencil. Mend it again.

「君は僕の鉛筆を折つた、サー元の通りに直して呉れ」

6. 中には餘りきつくて開かないのもあるし、さうかと思ふとパネのないのもあります。で、私の考では、まづ出金高に相當だと思ふ丈けの判断をしてそれを一々調べて見て後、遂に柄の穴の通つて居る奴を選びました；それから一般のジャックナイフ、その中でも特にこの(刃は)鷹の嘴形や、<sup>とびくち</sup>首形、——それから柄は、——鐵、骨、乃至鹿の角、——に就いて主人と談判の結果首尾よく相談が纏まりました。

【註】 One——, another..... 「——中には——のもあれば又.....のもある」

【備考】 總て英語にては數多のものを列擧する時一個宛云ふ時は one.....another の形を用ひ數個宛云ふ時は some.....others の形を用ふるが習慣なり。

Some say there is a god and others say there is none.

「神は有ると云ふ人もあれば又無いと云ふ人もある」

too hard to open = so hard that I could not open it.

「あんまりきつくて開かなかつた」

【注意】 總て 'Too——to.....' の形は上の如く譯し決して舊式の「.....するべく餘りに——」などと珍譯をなさざる様心掛くべし。

He is too young to understand it (= He is so young that he can not understand it). 「あんまり年がいかないものだからそれは合點が出来ない」

I was too angry to speak.

「僕はあんまり腹が立つて物が言へなかつた」

with all the judgment which..... 「.....丈けの判断はして」何れにしたものであらうと考へて見たるなり。

【注意】 'All' を「丈け」と譯すべき場合あるに注意せよ。

This is all the money I have.

「私の持つて居る金はこれ丈けです」

These are all the books he has.

「彼の持つて居る本はこれ丈けです」

in my opinion. 「私の考では」

the extent of the investment required. 「出金の高が要せし」即「出金高相當の」

價の安き物を買ふに餘りにやかましき事を云つたとてつまりぬ事、所詮は物の選擇は一には代價の所も考へて見ねばならぬわけなり。

one = a jack-knife.

比較:— { Have you the hat? Yes, I have it (= the hat).  
 { Have you a hat? Yes, I have one (= a hat).

第二の場合に 'one' と云ふべき所に 'it' と云はざる様注意せよ。

with a hole through the hole. 「柄に穴のあいて居る」。(十三頁参照)。

dissertation. 「談判」。値段に就いてなり。

upon..... 「.....に就て」。

總て議論の問題になるものは 'on' (又は 'upon') を以て表す。

He made a speech *on* the subject.

「彼は其問題に就いて一場の演説をした」。

I reasoned with him *on* the folly of his step.

「彼は彼の處置の愚なることに就いて彼に説いた」。

in general. 「一般に」。下の in particular. 「特に」に相對す。

I am speaking of teachers *in general*, not of any one *in particular*.

「僕は一般に教師の事に就いて云ふんで特に誰と指して云ふぢやない」。

this one = this jack-knife.

—upon. 以下 buck-horn— まで上の jack-knives in general の説明。

hawk-bill, and dagger-blades. 之は blade(刃) に就いて云ふ。

iron, bone, and buck-horn 之は handle(柄) に就て云ふ、前の handles と同格なり。

buck-horn. 「(牡)鹿の角」。

succeeded in..... 「.....することを成功した」。「首尾よく.....した」。

I have *succeeded in* accomplishing my purpose.

「私は首尾よく目的を遂げた」。

closing a bargain. 「賣買の相談を纏める」。

'To strike a bargain' と云ふ。

7. 私は買った道具を手を取つた、何だか私の子供の身体が急に大きくなつた様な氣持が致しました！これは(實に)私の世界でありました！それをばポケットの中へ外の貴い物、——細繩、石玉、石筆等——の間に入れました、父の所へ歸りまして；自分はそれが欲しさにとれだけ久しく働いたか、又、外の者は遊ぶと定めてある時をば、此寶物を手に入れんがため、とれだけ熱心に過さしたかと云ふことを談しました。

【註】 frame = body.

my world. 天にも地にも換へ難き物の意。

She is *all the world* to him.

「あの女でなけりや夜も日もあけぬ」。

valuables. 當人に取つて貴い物の意なり。

marbles. 子供の玩具なり。

&c. = et cetera = And so forth. 「等」。

toiled for..... 「.....を得んとて稼いだ」。

*For* は欲求の目的物を表す。

Some toil *for* money, others *for* fame.

「金を得んとて働くもあれば、名譽を得んとて働くもあり」。

The Americans fought *for* independence.

「亞米利加人は獨立を得んが爲めに戦つた」。

I can not but work *for* bread.

「僕はパンの爲めに働かざるを得ない」。

allotted to play = set apart to play. 「遊ぶと定めた」「遊ぶとした」。

to possess myself of..... 「.....を得んとて」。

【参考】 He possessed himself of that estate.

「彼は其財産を手に入れた」

He possesses (or is possessed of) that estate.

「彼は其財産を持って居る」

my treasure = the jack-knife.

8. 父は欲しい物があるなら何故云はなかつたと云つて、  
穩に私を叱りました；が、しかし(私を叱りはするもの)  
の) 眼には涙を催してさも懐しげに(まづ)母の方をそれ  
から續いて私の方を見て居るのを認めました、そして  
父の男らしい御姿も之迄お見受け申したよりはとり  
わけ凛としてさも御得意の様に思はれました。が、そ  
れは兎も角、父は私の處へ來まして、私の縮毛の頭を  
撫で、申されますには、凡そ人生に道理上望み得べき  
ものにして、正直と、克己と、方針其宜しきを得た  
勤勉と忍耐とによつて達することの出来ないものはない；  
で若し、生涯を通じて、私がこのジャックナイフを  
買ふに當つて表した、獨立奮闘の精神を實地に行つて  
いつたなら、私は將來所謂『大人物』になると(申され  
ました)。

【註】 chided me for..... 「私が.....したのを叱つた」

For は賞罰褒貶の原因を表す。

I praised him for his diligence.

「僕は彼の勉強を賞めた」

I blamed him for his idleness.

「僕は彼の怠惰を叱つた」

his glistening eye. 目に涙を催したるなり。

(observed)——turn. 「——が向く(のを見た)」

Turn の前には 'to' が略されたるなり。總て知覺 (Perception) を表す動詞の次に來る Infinitive は 'to' を略す。

比較:— { I saw him run.  
          { He was seen to run.  
          { I heard her sing.  
          { She was heard to sing.

We observed a change come over the sky.

「空の様子が變つて來るのを認めた」

affectionately. 如何にも情をこめたるなり。

to straighten up. 身體をツンと延ばすなり。得意の體。  
had ever before..... 「之迄.....した」

At any rate. 「兎に角」「それはさて措き兎も角も」

I am doubtful of my success, but at any rate, I will try.

「成功は覺束ないが、兎に角やつて見ませう」

curly. 髪が縮れたるなり。

told me there was..... = said to me, "There is....."

間接活法なるを以て以下動詞を總て現在の心持にて譯すべし。

which was reasonably to be desired = which could reasonably be desired. 「(無理な望みは格別)苟も道理上望み得ることなら」

that, which と同じく矢張り前の object を受く。

well-directed. 「適當に向けていつた」即ち「適度の」

——would not place within my reach. 「——が私の達する所へ置かない」即ち「——で以て達せられない」

{ Within one's reach の反對は Beyond one's reach.

{ Within one's power の反對は Beyond one's power.

through life. 「生涯を通じて」「一生」

He was a diligent student *through life*

「彼は生涯勉強家だつた。」

carried—into practice=practised. 「實地に行つた」

「實行した」

which. 前の the spirit of independent exertion を受

く。 Exertion(egz-ēr'shūn). (五頁参照)。

displayed=showed.

“great man.” 「世の所謂偉い人」

9. 其の瞬間よりして、私は生れ變つたものとなりました。私は己に倚ることが出来ると云ふことを発見したのであります。私はジャックナイフを手にし、弓にするに胡桃の楯樹、又は矢ににするに真直な松(の枝)を切つて居る時や、さては玩具の船を彫つて居る時に、幾度となく、父の此言を考へました、——かくも深く思慮ある親の親切なる言の葉は少年時代の心肝に銘して居たのであります。

【註】 I was a new being. 「生れ變つた人間となつた」 had discovered..... 「.....なることを発見したのである」

略に前の I was a new being とある理由を説明せしなり。かく大過去は往々原因、理由を説明することあるを以て注意すべし。

I was very hungry. I had eaten nothing all that day.

「私は大層ひもじかつた。其日一日何も食ひませんでした(から)」

rely upon——. 「——に倚る」「——を頼にする」

【参考】 You can not rely upon him.

「あんな奴は當にはならぬ」

You must not depend upon others.

「他人を當にしてはならぬ」

many a time. 「幾度も幾度も」 Many times と云ふも度数に差あるに非ず、唯 many a time の方は一つ一つの場合に重きを置き many times は總ての場合を一纏めて見たると云ふ迄のことなり。

【参考】 Many a man has lost his way here.

「此處で道に迷つた人は幾人も幾人もある」

We waited many and many a day.

「吾々は幾日も幾日も待つた」

for..... 「.....にするに」

【参考】 Whom is this book for? It is for you.

「此本は誰に呉れるのですか、御前に呉れるのです」

mimic. 「模倣の」「玩具の」

did I muse upon.

前に副詞句が來りし爲め 'did' を用ひしものにて通例ならば I mused upon と云ふ所なり。

比較:— { I never saw such a great man.  
Never did I see such a great man.  
{ He fought for his country in vain.  
In vain did he fight for his country.

muse upon. 「(詩人的に)考へる」「冥想する」 'to think on' の變形。

【参考】 I was musing on the mutability of human affairs.

「僕はつらつら人事の常なきことを考へて居た」

I meditated on my past life.

「往事を追想した」

so. 「かくも」 前の文句を受く。

so deeply are the kind expressions.....engraven. も亦前へ 'so deeply' なる副詞が來りし爲め其順序頗

倒せしものにて通常の順序に改むれば  
 the kind expressions.....are so deeply engraven.  
 expressions = words.  
 judicious = wise.  
 engraven on——. 「——に刻み付けられる」「——に銘  
 する」。

Engrave this on your heart.

「此れをよく心に銘して居れ」。

heart and memory. 「精神記憶」「心肝」「胸」。

10. 私のナイフは私の始終伴侶でありました。私の大工  
 ともなれば、船造りともなり、玩具作りともなりました。  
 何時も出て居て、決して間にあはぬことがない、  
 常に所謂『調法』でありました。で、私はそれをば非常  
 に大切に居ましたものですから、どうしてもそれ  
 をば手放さなかつたのです。(固より)私の私慾であつ  
 た段は白状致します；林檎は遊仲間に分けてもやらう  
 し、石玉なら持つて居るのを悉皆勝手に使はしめする、  
 ——バットを叩いて見やうと、フットボールを蹴て見よ  
 うとそりや随意だ；けれどもチャックナイフだけはどう  
 しても其楽しみを分つと云ふとが出来ませんでした。  
 これを所有して居ることは私の心中に於て何か非常な  
 排他的のものと相関聯して、爲めに他人をして寸時も  
 之を持たして置くことが出来なかつたのであります。  
 嗚呼！幼年時代の豫期と少年時代の空想には實に出放  
 題な一種妙味のある贅澤のあるものであります！

【註】 constant companion. 何時も一所なりしこと。

was out. 「出て居た」。  
 upon all occasions = always. Occasion に on は付き物。

On one occasion = once ; on some occasions = sometimes.

amiss. 「間に合はぬ」。  
 “handy.” 所謂「便利な」「調法な」。  
 valued. 「尊んだ」「重んじた」。

let it part. 「放す」。

Part は 'to' を省ける Infinitive なり。總て「.....せしむる」と云ふ  
 義の四つの動詞 (let, make, have, bid) の次に來る Infinitive は常に  
 'to' を省く。 (三十六頁参照)。

- I let him go. (許可)
- I made him go. (強制)
- I had him go. (依頼)
- I bade him go. (命令)

part from me. 「放す」。

比較：— { I parted from him just now. (別れた)  
 I can not part with him. (手放されぬ)

own. 「白状する」。

would. 「.....なら——してやる」。(過去の意志)

among——. 「——の間」「——に」。

比較：— { Among. (三つ以上の)。  
 Between. (二つの)。

my whole store of = all my.

was at their service = they might use. 「勝手に使つて  
 もよい」。

If you wish to ride, my carriage is at your service.

「お乗りになるなら、手前の馬車を御隨意に御使ひ下さいまし」。

【類句】 At one's disposal ; at one's pleasure ; at one's will 等。

as they chose = as they liked. 「好むが儘に」。

I had no partnership of enjoyments in..... 「.....の

楽しみを共にすることがなかつた」「.....はどうしても人に貸すことが出来なかつた」。

I have partnership in the fortunes of his family.

「僕は彼の一家運命に興つて居る」。

Its possession = the possession of the jack-knife.

was connected.....with——. 「——と相關聯して居

た」「——と離るべからざる關係を持つて居た」。

I am not connected with the matter.

「僕は本件には關係がない」。

in my mind. 「私の心の中で」。

something..... 「何か.....なもの」。

so——, that..... 「非常に——, それ故に.....」。

He was so tired that he could not walk any farther.

「彼は非常に疲れて最早一寸も歩けなかつた」。

He studied so hard that he made himself sick.

「彼は餘り勉強してそれがため病氣になつた」。

exclusive. 「排他的」。他人と共にする能はざるなり。

permit another to..... 「他人に.....するを免す」

「他人に.....さす」。

for a moment. 「一分も」。

there is..... 「.....が有る」。

wild. 「亂暴な」「途方もない」。

delicious. 「妙味のある」「面白い」。

luxury. 「贅澤」即ち「氣儘」。

anticipation. 將來はかくしてやらう、かくなつてやら

うなどと思ふこと、「豫期」「豫想」。

day-dreams. 「空想」。

II. しかし、このナイフを使ふことは私に愉快を與へたものゝ、之を持つて居ると云ふ考も矢張亦快樂の源でした。私は、當時は、朋輩の間で小さい王子、——(否)完全なる王でありました。諸君貴族政治を攻撃し給ふな；吾々は今日全く平等であつても、明日は貴族政治が生じて来る。才幹、判斷、技倆、頓智、勉強、忍耐は人をして(運命の永遠に廻轉せる車の)頂に居らしめ、之に反し之と反對の性質は人をして運命の永遠に廻轉せる車の底に居らしむるのであります！

【註】 afforded = gave.

the idea of its possession. 「自分には之れがあるんだと云ふ思ひ」。

no less (=no less than the use of my jack-knife) = equally. 「亦.....に劣らず」「.....と同じく矢張」。

If the king was admirable for his powers in war, the queen was no less so (=admirable) for the truly womanly tenderness of her disposition.

「王は戦争の力に於て感服すべきものであつたものの、女王も亦その性質に實に女らしく柔しい點に於て矢張感服すべきものであつた」。

source. 「源」。

for the time being. 「其の當座は」。

【参考】 for the present. 「目下の所は」、 for (or in) the future. 「將來は」。

Let no one..... 「人をして.....せしめな」「諸君.....  
し給ふな」。

こは相手方より間接に第三者に命令する方法なり。

比較:— { Let young men remember this.  
          { Young men, remember this.

exclaim against——. 「——を攻撃する」。

Against に攻撃の意味あり。

He argued against free trade.

「彼は自由貿易を攻撃した」。

The orator declaimed against the government.

「辯士は盛んに政府の攻撃をやつた」。

Some were for war, others against it.

「戦を是とする者もあれば、之を非とする者もあつた」。

aristocracy. 「貴族政治」。四民平等の所謂 democracy  
(共和政治)の反對にして人に高下の差別を認むるな  
り。

were we all perfectly equal = if we were all.....

【参考】 Should he meet me, he would.....

(=If he should meet me,.....)

(Had it not been for his aid, (=But for his aid))  
(=If it had not been for his aid,

I could not have succeeded.

「あの人の助力がなかつたら、僕は成功は出来ないのであつ  
た」。

因に云ふ 'were we all.....' は現在の事實に反する假定にして  
「(實際は平等ではないが)假にみんなが全く平等であるとしても」の  
意なり。

If it were cheaper, I would not buy it.

「よしんばもつと安くても、買はない」。

equal. 「平等」。上下の差別なきなり。

there would be..... 「.....が生ずる」。

tact. 臨機の處置をなし得る力。

some——others. 「.....する人もあれば又——する人  
もある」。(四十七—四十八頁参照)。

on the top. 下の of fortune's ever-revolving wheel に  
かかる。

while. 「之と同時に」「然るに一方では」。

Wise men love truth; while fools shun it.

「賢者は眞理を愛す; 然るに愚者は之を嫌ふ」。

the contrary attributes. 「上に述べたと反對の性質」。

たとへば skill に對し unskill, industry に對し idleness と云ふが如  
し。

fortune's——wheel. 運命を車にたとへたるなり。

ever. always の強きもの。

12. 農夫も貴族であります、若しその職業に勝れて居ま  
すならば: 貴族であります、若しその隣人よりもつと  
良い、もつと直い溝を掘りますならば。最も貧しい詩  
人でも貴族であります、若し其同時代の人より、もつ  
と感情的に、もつと純粹なる言語を以て、否もつと好  
い調子を以て書くならば。漁夫も貴族であります、若  
しその朋輩よりもつと巧に魚扱を使ひ、もつと相手に  
こたへる様に力を入れて之を投げつけるならば、否も  
つと(魚の心)を引く様にその魚釣に餌をつけることが出  
来るならそれでも(既に貴族であります)。

【註】 The plowman. 此 'the' の下の 'the' と同じく其一つを

擧げて全體を示す作用をなすもの、即ち 'the plowman' と云へば「凡そ百姓」の意なり。

比較:—  $\left\{ \begin{array}{l} \text{The horse is a useful animal.} \\ = \text{A horse is a useful animal.} \\ = \text{Horses are useful animals.} \end{array} \right.$

「馬は有用なる動物なり」

因に云ふ plowman は ploughman と綴る。

excels in——. 「——の點に於て勝れる」即ち「——が勝れる」。

In=in respect of.

No city exceeds London in size.

「大きさ(に於て)倫敦に勝る都會なし」

Mr. A rivaled him in love.

「A 君は彼と戀の相當をやつた」

They resemble in colour, but differ in taste.

「色は似て居るが味が違ふ」

vocation. 「職業」。vacation(休暇)と謬るなかれ。

turns. 「堀る」。

a better and a straighter furrow.

後の 'a' はなくて可なり、唯あれは兩方の語の意味が重くなるまでなり。

Dickens was a poet and a novelist.

「 Dickens は詩人でもあれば小説家でもあつた」

He returned a sadder and a wiser man.

「彼はもつと恐しいもつと賢い人となつて歸つた」

The poorest poet. かく最上級の語のある時は前に 'even' のあつて心持にて譯する方便なることあり。

Our best friends often deceive us.

「最良き友でも往々吾々を欺すことがある」

The wisest man sometimes makes a mistake.

「いくら賢い人でも往々間違をなすことがある」

feelingly. 美しい感情のあらはるゝ様に。

pure. 猥に外國の語を挿入し或は粗野なる言辭を用ひざること。

euphonic jingle. 「好調」。

contemporaries. 「同時代の人々」。

with more skill = more skilfully. (四十二頁参照)。

hurl = throw violently.

deadlier energy. 「相手の生命に一層こたへる様な力」

「非常なる力」。

messmates. 食を共にする人即ち「仲間」。

even..... 「.....してすら」「.....しただけでも既に」。

has learned to..... = knows to..... = can.....

alluringly. 魚をしていかにも食つて見たい様な氣を起させる様にと云ふ意なり。

barbed hook. 饑のある魚釣。

13. 古來人は皆それ相當の弱點は持つて居た、否今日でも持つて居るのである；皆何か、自ら誇として居るものを持つて居る、私は即ちジャックナイフをば自慢して居たのであります！ソクラテズの靈よ、御恕しあれ！いかにも哲學者らしく死ぬるに當つて一片の得意の心は果してなかつたのですか？デモスジニースの靈よ、御恕しあれ！際涯も知られぬ逆捲く大洋に向つて汝が演説をするに當つて一片の得意の心は果してなかつたのですか？デーヴィッドの靈よ！敵の額に深くはいつた



かの滑かな小石を恐ろしくひどく投げ付けた時に當つて一片の得意の心はなかつたのですか？

【註】 have had. 「今日まで持つて居た」。

still. 「今日でも猶」。

their = their share of. 「それ相當の」。

Every man has his faults.

「人は皆それ相當の缺點はあるものです」。

Even a fly has its anger.

「一寸の蟲にも五分の魂」。

foibles = weak points.

have some possession. 「何か持つて居るものがある」。

upon which they pride themselves. 「それを自慢して居る」。

比較: — { He prides himself on  
He is proud of  
He takes pride in } his learning.

「彼は自分の學問を自慢する」。

【類句】 'to value oneself on' 'to plume oneself on' 'to pique oneself on.'

I was proud of. 前を見よ。

Spirit of —. 呼掛 (Address) なる故冠詞を省略したるなり。

Young man, ahoy! 「若い者よ、オーイ」。

Socrates. 紀元前 470 年アゼンスに生れたる古代に於ける最も有名な哲學者にして、其門にプラトン (Platon) あり。彼は盛んに道德の改善と精神の訓練とを唱へしが、後遂に國教を奉ぜず、子弟を毒するものなりとて死刑を宣告せられ、毒を仰いで從容死に就けり。

forgive me. かい事申しては甚だ失禮だが、どうか其點は恕して戴きたいの意。

Demosthenes. 希臘の人、はじめ言極めて訥なりしも海濱に立ち怒濤を相手に辯説を練る事多年遂に古今に稀なる雄辯家となれり。

David. イスラエルの王、始は貧しき牧人なりしもファイリスチン人の戰に石を以て敵將ゴライアス (Goliath) を仆し後遂に撰ばれてイスラエルの王となれり。

deadly hurling. 「敵の命を失ふ程に投げつける」。

forehead. 發音は för'ed (フアレド) 又は ファアヘド なり。

your enemy = Goliath.

14. (つひ話が側路へそれました)、チャックナイフを取つて此本論を離れたところを切つてしまはにやなりません。何人も決して仰有るな何その出來事が『今後五十年立つて何等の影響を生じない』なんて——世間によく云ふことではあるが、しかし危険な文句であります。私は今日は六十歳の(老)人であります。此方を指せば私の船があり、彼方を指せば私の倉庫があります。私の名は兩半球によく知れ渡つて居ります。智的快樂も深く飲み、幾多重大なる場合に於て國家に貢獻もしましたし、相當に得もしますれば又損も致しました。

【註】 cut short. 物を途中で切るの義より轉じて「途中で止める」の意となる。幸ひ前にナイフの事を云ひしを以て其ナイフで 'cut short' すると引つ掛けたる一種の洒落なり。

【参考】 He cut his speech short, owing to the lateness of the hour. 「時間がおそいから演説を途中で切り上げた」。

【類句】 to stop short. 「中止する」 to fall short. 「不足する」。

digression. 話が本論を離れて岐路に入りしを云ふ。

Let no man say. 「云ふ勿れ」「諸君云ひ給ふな」。  
(五十八頁参照)。

this or that. 「何とかかとかの」。

【参考】 The child is always breaking *this* or *that* thing (=something or other).

「此子は何時も何かかにかこはして居る」。

make no difference. 「少しも影響せぬ」。

比較:— { It makes no difference.  
It does not matter. 「少しも関係しない」。  
It is all the same.

hence = from now.

three-score = 3 × 20 = sixty.

here—there. 別に「此處」「其處」と角立つた意あるには非ず、  
船、庫を有する極めて有福なる身なることを示せるまでなり。

hemisphere = half + sphere. 「半球」。

have drank.....of——. 「——を飲むだ」。

此 'of' を用ふるは古文なり。今は通例用ひず。

【参考】 'to eat of' 'to taste of.'

因に云ふ此 drank は過去分詞なるがこは寧ろ稀なる用法にて通例は  
drink, drank, drunk (drunken).

drunk を用ふ。

have had my gains. 「私相當の得もした」。  
(六十二頁参照)。

15. 私は、之れまで(私より)もつと有望なる前途を有し、  
しかも何等羅針盤なくして世に漕ぎ出でたる、幾多の  
人々が私の前でむさむさ破船するのを見ました；しか  
し私は私の發展に於て、如何程廣からうとも、かのチャッ

クナイフを買ふとを思ひ立ち遂に之を實行したと同じ  
精神によつて今日まで促されて参りました。さうして  
それに對する報ひもあつたのであります；否、恐らく、  
後年に於て、私の父の豫言は其人達にも亦中つた；小  
なる始まりよりして、正直と、克己と、勉強と、忍耐  
とによつて、その人達も亦眞に所謂『偉い人』となつた  
と云ふ人が屹度あるのでござりませう。

【註】 I have seen. 「今日迄に見たことがある」。(經  
験)。

who started..... 以下人世を航海にたとへたるなり。  
fairer prospects. 下に than I を補つて見よ。

with no compass = without any compass.

I have been..... 「今日迄.....せられて來ました」。  
(繼續)。

impelled. 「推される」「鼓舞せられる」。

no matter how extensive = no matter how extensive  
they (=the operations) were.  
= however extensive they were.

「如何程局面が廣からうとも」。

'No matter' は斯く 'how' 'what' 'which' 等疑問詞の前にあつて  
「.....に拘らず」「.....であらうとも」の意となる。

No matter how often I go there, he is always absent.

「何度行て見ても何時も彼は留守だ」。

No matter what (= whatever) you do, you can not please him.

「君が何をしたつても、あの男は氣にいらぬ」。

conceived. 「思ひ立つた」。

executed. 「實行した」。

in it. it は前の I have been impelled.....the jack-  
knife 迄の文意全體を受く。  
in after years. 「後年」「將來に於て」。  
those who.....=the men who.....  
predictions. 「豫言」。  
were fulfilled. 「的中した」。  
in their case. 「其人々の場合に於ても」「其人々にも」。  
and that. 前の will say that の that と同じく「.....  
なることを云ふ」と say にかゝる。

## A Desperate Encounter with a Panther.

### 豹と必死の戦ひ

1. 私は狩の一行と分れてより一時間餘り、老友コンウ  
エルの通つた跡へ來かゝりました、當人は、犬を連れ  
て、豹の血のついた痕をつけて居たのであります。此  
獸足を一本折つて居たに相違ありませぬ；之は柔い地  
面についた痕で分つて居ました；そしてその足跡が四  
本ではなくて三本の足で出來て、一跳毎に血が伴つて  
居ると云ふことは明でありました。

【註】 I had....., when——. 「.....してから、後  
——した」「.....したら、——した」。

I had been waiting about an hour, when he came.

「一時間ばかり待つて居たら、彼が來た」。

came upon = chanced to find. 「來かゝつた」。

While strolling there, I came upon him.

「ブラブラ其處を散歩して居たら、彼に出くはした」。

【類句】 'to alight upon' 'to meet with' 'to come across.'

track. 通つた跡。「足跡」。

was.....on—— = was following——. 「——の跡をつ  
けて居た」。

trail = track.

must have——. 「——したに違ひない」。

比較: { He *must have* done so. 「さうしたに違ひない。」  
 He *may have* done so. 「さうしたのかも知れぬ。」  
 He *can not have* done so. 「さうした筈がない。」

had one of his legs broken. 「足を一本折られて居た」

即ち「足が一本折れて居た」。

【参考】 *Have + Something + Past Participle.*

「何を何々せられた」「何を何々さした」。

He *had* his watch *stolen*.

「彼は時計を盗まれた」。

He *had* his watch *mended*.

「彼は時計を直させた」。

He *had* his house *burnt down*.

「彼は家が焼けた」。

(His house was burnt down. とは通例云はず)。

this. 足の一本折れて居たことをさす。

was indicated = was shown.

it. 下の that 以下に係る。

instead of — 「——ではなくて」。

*Instead of* coming, he ran off.

「來はせずして逃げて行つた」。

(were) accompanied = were followed.

at every leap. 「一跳毎に」。

2. 私は跡をつけて行かうと決心しました、で、約一時間ばかりテクテク歩きまして、とある洞穴の入口で(やつと)友に追ひつきました、友は其所で立つて私を待つて居ました。手負の動物は此の洞穴に隠れ、あとで私共は思ふ存分のことをすることが出来たのであります。可愛相に獸は屹度此の暗い隠所の中へはいれば最

早追掛けられる氣遣はないと思つたのでありませう; がしかしそれは間違つて居たのであります。コンウエルは私に、半哩計り距つた、溝の中へ松の木片を一束隠してあるから、洞穴の口を番をして居て呉れるなら、行つてそれを持つて來ると申しました。

【註】 tramp = walk.

overtook = came up with. 「追つ付いた」。

stood waiting. 「立つて待つて居た」。

交法上より云へば waiting は stood の Complement なり。

比較: { We *were talking* ..... 「話をして居た」  
 { We *sat talking* ..... 「座つて話をして居た」  
 { He *was running* ..... 「走つて居た」  
 { He *came running* ..... 「走つて來た」

waiting for. 「待つ」。

(十七頁参照)。

had taken refuge in — 「——へ避難した」「——へ隠れた」。

【参考】 The fugitive *took refuge in* an empty house.

「逃亡者は空屋に隠れた」。

There is no *place to take refuge in* under the sun.

「天が下にはかくれ家もなし」。

【類句】 'to take shelter.'

leaving us to do. 「吾々に勝手にさして置いて」。

I *left* him *to pursue* his studies.

「彼に勝手に勉強をさして置いた」。

whatever we thought best = anything that we thought best. 「何なりと吾々の最もよいと考ふることを」

「好いた通りのことを」。

poor. 「可愛相に」。

doubtless. 「疑もなく」「屹度」。

supposed = imagined ; thought.

within. 「……の中へはいれば」。

murky = dark.

recess. ひつ込むだ所即ち穴。

safe from——. 「——の氣遣ない」「大丈夫だ」。

was mistaken. 「間違つて居た」。

informed me that he had.....

=said to me " I have....."

splinters = pieces.

gully. 「溝」。

distant = away.

that if I would ....., he would go and bring it. ....

=(said to me) " ——if you will....., I will go and bring it.

【参考】 If you will lend me the money, I shall be much obliged to you.

「その金を貸して下さるなら實に有難う御座います」。

keep guard (ガード) over——. 「——の番をして居る」。

A dog keeps guard over the gate at night.

「犬が夜門を守る」。

【類句】 ' to watch over.

3. 私は此處置に同位致しました；で、鐵砲には彈丸を込めナイフは鞘より抜いて、どんな攻撃があらうとも差問へのない様に準備をして居りました。私は豹の洞穴の入口に寝て居ました。友はやがて、兼ねて約束の通り、松を持って、歸つて來ました。さうして彼の次ぎ

にやつたことは洞穴の口で大きな火を焚くとでありました、そしてその火で私共は炬火へ火をつけました；それから、左の手には火のついた炬火を持ち、右(の手)には鐵砲を持って、注意に注意を加へて洞穴へはいて行きました。私は最初前を這つて参りましたが；やがて場所が非常に高く且つ廣くなりましたので、私共は立つて、互にくっつきあつて居ることが出来ました。

【註】 agreed.

比較：— { I agree to that. 「君の發議に同意する」。  
I agree with you. 「君と意見が一致する」。

ready gun and drawn knife. イザと云へばすぐ打てる様に鐵砲には彈丸をこめナイフは抜きて置きたるなり。

因に云ふ、總て二個の名詞が對になつた時は冠詞は省略す。

Pen and ink ; day and night ; father and son 等。

prepared for——. 「——の準備をして居た」「——の覺悟をして居た」。

We should always be prepared for the worst.

「吾々は常にマサカの時の準備をして居るべきものである」。

any attack that might be made. 「なされ得る如何なる攻撃」即ち「どんな攻撃があらうとも」。

lay. lie, lay, lain.

His next movement. 「彼の次の行動」「次ぎにやつたこと」。

at which. which は前の fire にかゝる。

flambeau (フラム'ボ) = lighted torch.

in the right = in our right hands.

cautiously. 「用心をして」。

entered——. 「——へはいつた」。Entered の次には前置詞  
を要せざるに注意せよ。

crept. creep, crept, crept.

space. 「空間」「場所」。

within. 「中の」。

so——, that……. 「非常に——ので、それ故に……」。  
(五十六頁参照)。

stand upright. 「直立する」。

keep close to each other. 「互に接近して居る」。

He kept close to me all the time.

「彼は始終私にクツ、イテ居た」。

【類句】 close by; near by; hard by.

比較: 一互に { each other. (二人)  
one another. (三人以上)

4. 左に曲つて、洞穴は餘程の間小山の中を廣がつて居  
ました。二百歩ばかり進みますと、手負の獸のキラギ  
ラ光る眼が見えました、それが私共の炬火の光を最も  
物凄く反射しまして、二つの火の球の様に光つて居り  
ました。そこでコンウエルは私の炬火を取つて私の後  
を歩いて参りました。私は鐵砲をばその燃えて居るが  
如き眼の方へ向けて、發砲しました。ドンとなつてから、  
ガサガサ云お音が聞えました; けれどもそれは如何云  
おわけであるか確とは分りませんでした。

【註】 gleamed forth. 「輝いた」。

fiercy (ファイヤリ). 「火の」。Fire と較べて綴方の差異  
に注意せよ。

reflecting. 「反射して」。

luridly=gloomily. 「物凄く」。

leveled. 「狙つた」。

report=sound. 「鐵砲の音」。

bustle. ガサガサ云お音。

exactly. 「しかとは」。

make out=find out.

I can not make out the meaning of the letter.

「僕には此手紙の意味が分らぬ」。

what it meant. 「如何云お意味であるか」「如何云おわ  
けであるか」。

Mean, meant (メント), meant.

5. 私は鐵砲へ再び彈丸をこめ、炬火を又持ちましたが、  
今度はコンウエルが前に立ちました。しかし、例の燃  
えて居るが如き眼は最早見えませぬから、私共は何だ  
かもつと向ふへ行かねばならぬ様な氣持がしました。  
鐵砲へは彈丸をこめて用意はして居るし、どんなこと  
があらうとも準備は出来て居ると思つて居りました。  
私共は、人が險呑だと思ふ時は誰しもやる通り、大いに  
注意して進んで居ますと、忽ちにして、豹が凹むだ處  
よりフィッと跳び上がりました、その中で、私共の足元  
の直側で寝て居たものであります。

【註】 reloaded=loaded again.

resumed=took again.

took his place in front=went in front of me.

「私の先に立つて参りました」。

no longer..... 「最早.....せぬ」。

I teach there *no longer*.

「最早あそこでは教えて居ませぬ」。

were (not) to be seen = could not be seen = were not visible.

「見えませなんだ」。

felt. 「氣持がした」。

obliged to..... 「.....せざるを得ない」。

I am *obliged to do so*.

farther. 「もつと向かへ」。

比較: — { Far, farther, farthest. (距離)  
(Forth), further, furthest. (程度)

Our guns ready loaded = Our guns being ready loaded.

we believed ourselves to be.....

= we believed that we were.....

She fancies herself to be still beautiful.

(= She fancies that she is——).

「あれでもまだ美しい積りだ」。

prepared for. (二十八頁参照)。

as..... 「如く」。

men are likely to do. 「人がよくやる」。

when suspecting danger = when they suspect danger.

「ハテ、危いなと思ふ時」。

started up = stood up suddenly.

hollow. 「凹むだ所」。

lying. lie (横たはる)の現在分詞。

close to. (七十二頁参照)。

6. さも非常に怒れるが如く、耳をば後へひき、白い歯を

食ひしぼり、その廣く開いた眼をば攻撃者たる、私共をヂツと見詰めながら光り輝かして居る所は見るも恐ろしい有様でありました。私はその様子はとても忘れられませぬ。やがて私共は鐵砲を放す、洞穴はさながら雷鳴の如き反響を返しました。私共は双方あまりにキチンと同時に發砲したものですから、何れも互に相手が鐵砲を打つたとは信ずることが出来ませなんだ。

【註】 to look upon. 「見る」。

as he stood. 「立つて居る所を」。

with ears laid back. 「耳をば後ろへひいて」。

(十三頁参照)。

The wolves ran *with their ears erect*.

「狼は耳を立てて走つた」。

He sleeps *with his eyes open*.

「彼は目を開けて眠る」。

(with) his teeth set together. 「齒を食ひしばつて」。

as if in intense anger = as if he were in intense anger.

「激怒せるかの如く」「非常に怒つて居る如き有様で」。

those eyes glowing..... 前に with のある心持で譯すべし。

rested upon——. 「——に休む」即ち「——を見つめる」

us, his assailants. 同格なり。

In a moment. 「忽ちにして」。

so——, that..... (七十二頁参照)。

precisely at the same moment. 「キチンと同時に」「一秒も違はず」。

neither. 前の both と同じく二つのものに用ふ。

比較:— (Do you know *either* of the two?  
Do you know *any* of the three?  
I know *both* of the two.  
I know *all* of the three.

一部否定 (I do not know *all* of them. (皆は知らぬ)。  
I do not know *both* of them. (両方は知らぬ)。

全部否定 (I do not know *any* of them. (皆知らぬ)。  
I do not know *either* of them. (どちらも知らぬ)。

7. 私共は敵に確に弾丸が中つたと云ふことは分つて居ました、けれど死んだのか但し又唯だ動けなくなつたのみであるかは分りませなんだ。で、いきなり、私共は鐵砲を投げてナイフをば鞘より抜きました。最早一刻も猶豫はなりませぬ; と云ふのはその反響のまだ消えぬ中に、私共には豹が既に跳びついて來たのであります; そこで私共はナイフを以て之を切り始めましたが、之と同時に、餘り周章て動作をした爲めに、炬火は消えてしまつて、後は暗黒となりました。

【註】 We were certain = We knew for certain. 「確かに……だと云ふことは知つて居ました」  
whether killed or only disabled. whether の次に he had been を入れて見よ。

Quick as thought. 時としては Quicker than thought と云ふ。人の思想は電光石火忽ちにて思を千萬里の遠きに馳する事も得べくつまり人の思想 (thought) 程速きものなければかくは云ふなり。

Quicker than thought, he sprung from the quarter-deck.

「ハツと思ふと、彼は後甲板より跳んで出た」

haste was necessary = there was not a moment to be

lost. 「急ぐ事が必要であつた」「最早一刻も猶豫はならぬ」

had not—, before. …… 「——せぬ中に、既に……した」

I had not waited long before he came.

「長く待たぬ中に彼はやつて來た」

relapsed into silence. 「再び元の静かな状態に歸つた」  
「静まつた」

He relapsed into slumber after being disturbed.

「目を覺さされて居たが復眠つた」

we felt the weight of the panther against us = the panther leaped upon us. 「豹が飛びかゝつて來た」

Against には倚りかかる義あり。

He was leaning against the wall.

「壁に凭れて居た」

in consequence of—, 「——の結果として」「——の爲めに」

hurried movements. 「あわてゝ動作をした」

died out. 「消えてしまつた」

were left—, 「——に残された」即ち「後は——であつた」

utter darkness. 「眞暗」

8. 音のために耳は聞えなくなり且全く狼狽して、私は今踵を轉じて猛り狂ふ敵より逃げだし、(それから暫くは夢中で) 氣がついて見ると洞穴の外側の外氣の所でコンウエルの側に立つて居る、その時にやつと始めて自分は何をして居たかと云ふことが充分に分つたので



あります。今始めて分りました、暗黒に包みこまれ、火薬の煙に殆ど息も止まる位になつて、自分は、何を望むとも亦企つるともなしに(唯夢中で)、這ひ廻つて；其結果やつとこのことで、コンウエルが私を無理々々穴の口まで引つぱつて来たものであります。

【註】 Deafened..... 前に Being=As I was を補つて見よ。

bewildered. 「心を亂される」「狼狽する」。

only....., when——. 「——した時やつと.....した」

「——して始めて.....した」。

became aware of = came to know.

found myself.

On awaking, I found myself lying on the grass.

「眼が覺めて見ますと、自分は草の上で寝て居ました」。

At the age of twenty, she found herself a widow.

「廿才の年に、その女は寡婦となりました」。

the open air. 「戶外」「野外」。

enveloped..... 矢張前に as I was を入れて見よ。

suffocate. 「絶息する」。

groped about. 「這ひ廻つた」。

and that. 前の now の次の that と同じく I know に

係る。

forcibly. 「力づくで」「無理に」。

9. そこな處に私共は、銘々狩のナイフを右の手で振り廻し、左(の手)に火の消えた炬火を持つて、立つて居ました；互ひに顔と顔とを見交はした時、あまりに變な姿をして居たので笑つてよいやら驚懼おこらいてよいやら殆

んど分りませなんだ。火薬の煙で眞黒になり、全身汗と血とで蔽はれ、着物はボロボロに破れて居ました。

【註】 in the left=in his left hand.

each other.

(七十二頁参照)。

scarcely. 「殆んど.....せぬ」。

whether to —— or to..... 「——してよいやら.....

してよいやら」。

to be frightened at ——. 「——に驚き怖れる」。

At は感情の原因を示す。

You needn't be frightened at the dog.

「何もその犬をこわがることはない」。

He was astonished at the news.

「彼はその報知を聞いて仰天した」。

sweat (スエット)。

our clothing torn to rags. Torn の前に was を入れて

見よ。

torn to rags. 「ボロボロに破れる」。

Tear, tore, torn.

【参考】 'to be reduced to ashes' · to break to pieces

10. コンウエルは胸の所が痛むと云ひます。で私はそのシャツの胸の所を開けて見ましたら、豹の爪で搔きさいた深い疵が二つあつて、左の肩から鳩尾みづぶちの所まで達して居ります。私も少々は搔傷はうけて居りましたが、私共の丈夫な獵用スカイシャツはメチャメチャに破れて居ました。

【註】 complained of ——. 「——だと云つてコボした」。

He complains of being ill.

「彼は病氣だと云つて(コボして)居る。」

—and found..... 「——して見たら.....であつた。」  
(二十一頁参照)。

I opened the purse *and found* it empty.

「その財布を開けて見たら空であつた。」

gashes. 「深疵」。

the pit of the stomach. 「胃の凹い所」即ち「鳩尾」。

torn to shreds. (前節参照)。

11. 此時までは、雙方何れも負傷をして居るとは気がつか  
なかつたのです；否今でも、その傷へ繃帯をしよう  
などと思ひ始めるまでは、豹をば出て來させまいと、洞  
穴の口で大きな火を焚きました。之が濟むと、私共は  
快い火の側に坐つて搔傷をば洗つて縛り、之れから如  
何なる方針で進むのが一番良いかと云ふことに就いて  
相談をしました。

【註】 to think of—ing. 「——しようなどと思ふ」。

I sometimes *thought of dying*.

「私は死なうなどと思つたこともあります」。

dressing. 「繃帯をする」。

in order to—, 「——する爲めに」。

單に 'to—' と云ふより意味強し。

We go to school *in order to* learn.

「吾々は學ぶ爲めに學校へ行く」。

prevent—*from*..... 「——を.....さない様に  
する」。

He *prevented* me *from* buying it.

「彼が私に之れを買はさなかつた」。

The rain prevented me from going.

「雨が降つて行けなかつた」。

This done = This being done = When this was done =  
When it was finished.

genial = cheerful.

to wash and bind up = washed and bound up.

「.....する爲めに」と目的に譯すよりは寧ろ「...

.....した」と結果に譯する方便なり。

consult. 「相談する」。

on what plan. 「如何なる方針で」。

I always act *on* this rule.

「僕は何時も此主義で行動をする」。

He abstains from wine *on principle*.

「彼は禁酒主義だ」。

it was. it は下の to proceed を受く。

12. 豹がまだ洞穴の中に居ることは確かである；けれど  
も、生きて居るのか、死んで居るのかは、分りませぬ；  
兎も角も傷はついて居る；と云ふのは私共の獵用のナイ  
フが柵の所まで一面の血でありました。しかし私共  
は兎や角選擇する餘地はないのであります；否でも應  
でももう一遍行かねばなりませぬ；鐵砲とコンウエルの  
火藥壇、それを例の動物が引つぱつて行つたもので  
すが、それがまだ洞穴の中にあるのであります。それ  
故に私共は更に勇を鼓し；炬火に再び火をつけて、ナ  
イフを振り廻し、多少胸の動悸はせぬのではありませ  
ぬけれど、兎も角も、も一度豹の穴へはいる覺悟を致  
しました。

【註】 That..... 「.....と云ふことは」  
whether living or dead = whether it was living or dead.  
at all events = in any case. 「兎も角も」

But, at all events, he will not die.

「しかし、兎も角にも、死ぬる様なことはない」

【参考】 'at all risks' 'at all hazards' 'at all costs.' 「如何あつても」

were covered with——. 「一面の——であつた」

up to——. 「——の所まで」 (十九頁参照)。

we had no choice left, 「選擇は残つて居なかつた」即ち

「あ—しようかかうしようかと選擇する餘地はなかつた」 (六十八頁参照)。

We have no more money left.

「もう金は残つて居ない」

must——=were compelled to——. 「否でも應でも

——しなければならなかつた」

dragged off with him, took with him の變形。

I have brought him with me. 「連れて参りました」

plucked up new courage. 「更に勇氣を鼓した」

prepared. 下の (once more) to enter に係る。

though not without——. 「——がないではないけれども」

13. 大急ぎで退却をした時にやりました様にトンでもない不意をくらつては大變ですから、(今度は)歩調も輕快に用心を加へ、炬火をば前へかざして、鐵砲を落としてある所まで、進みましたが、敵より別段何の妨害も受けませんでした。例のシツカとした武器をばまたもや

手に入れて、私共は再びそれへ彈丸をこめ、心は前よりは輕くなつたものゝ、注意は矢張非常にして、前の方へと歩むで居りますと、コンウエルが、炬火をば頭の上へ高くかざして、それで或方向を指しながら、大きな聲して申しました「アレ! あそこに居る」つて。

【註】 With light and cautions. 「輕くつて用心深い歩調を以て」

lest——might.....=for fear——might..... 「.....

すると大變だから」「.....するといけないから」

He worked very hard for fear he might fail.

「落第すると大變だから大いに勉強した」

as——as..... 「.....した様に——する」

unpleasantly surprised. 「不愉快に驚かされる」即ち「不意を食つてイヤな思をする」

as we had been—as we had been (unpleasantly surprised).

made our hasty retreat. 「急いで退却をした」。洞穴を出た時のことなり。

we advanced, ....., to the spot——. 「——した所へ進んだ」

, and without meeting with.....

=, and we did not meet with.....

To meet with 「出くはず」

He met with an accident.

「彼は災難に遭つた」

hinder. 「妨害」

our enemy = the panther.

Once more in possession of—

= Being once more in possession of—

= When we were once more in possession of—

= When we got possession of—once more.

「も一度——を手に入れると」。

【参考】 He took possession of the estate. 「その財産を手に入れた」。

He is in possession of the estate. 「その財産を手に入れて居る」。

trusty weapons = guns. Trusty は之があれば大丈夫と云ふ意。

lighter hearts. 武器を手に入れて前よりは幾分安心したるなり。

yet still. 「それでも矢張」。

flaming pine = flambeau.

in a certain direction. 「或方向を」 Direction へは 'in' が付き物。

14. 之れが私共の洞穴へ再びはいつて以來始めて發した言葉であります。私はその示されたる方向を見ましたら、實際、その所に豹が居りました、延びきつて居ますが、しかし最早危険なことはござりませぬ。眼は閉ち、四肢は硬くなつて居ります——最後の苦しみは既に過ぎて居るのであります。私共はその臥た儘皮を剝いで切つてしまひました。彈丸が三つとも皆中つて、ナイフが兩方とも身體深くはいつて居ました；で、かの私共に跳びかゝつて來たのは愈斷未魔の苦しまぎれであつたのに違ひありませぬ。

【註】 This was the first word that..... 「これが始めて.....したる言葉であつた」。

'First' を副詞の如くに譯することに注意せよ。

【参考】 'the first man that came.' 「一番先に來た人」 'the last man that left' 「一番後で歸つた人」。

reentered = entered again.

indeed. 「亦實際」。

stretched out at full length. 「延ばれる丈延まして」所謂「延びきつて」。

He lay on the grass at full length.

「彼は大の字形になつて草の上に臥て居た」。

no longer. 「最早.....でない」。

{ I go there no longer. (今日も既に)

{ I will go there no more. (今後はもう)

rigid. 硬くなつて、曲らなくなつたるなり。

the last agony. 最後の息を引取る時の苦しみなり。

was over = was finished.

The examination is over. 「試験も濟んだ」。

as he lay. 「臥たまゝ」「臥たなりに」。

penetrate. 「貫く」。

it. 下の that 以下に係る。

{ He started yesterday. 「彼は昨日立つた」。

比較:— { It was yesterday that he started.

{ 「彼が立つたのは昨日である」。

即ち知る、'It was—that.....' の形は 'that' の前の語を強むるものなることを。

must have been——. 「——であつたに相違ない」。

(六十八頁参照)。

death-struggle. 斷末魔の躑もがきなり。

leaped upon. 「跳もがびかゝつた」。

Upon に攻撃の意を含む。

The wounded boar sprang upon the hunter.

「手負の猪は獵夫に跳もがびかゝつた」。

The ships fired on the town.

「船は町を砲撃した」。

15. 仕事が済むで、再び外へ出た時には、日は既に西山に傾いて居ました、で、もはや此上の猶豫はせずして早速森の徑へと出發せんけりやなりませぬ。(ところが)傷が少からず痛む、で、も一度洗つては見ましたけれど、どうも非常に烈しいので、進むで行くことは中々骨が折れて且手間が取れます。ですから私共はやがて(此模様では)到底日のある中に伴侶共には追つけないと云ふことを悟りました、で、その夜は岩多き坂の麓で、野宿をしようと決心しました、そこの所が身を切る如き寒風を凌ぐには屈竟の場所らしかつたのですから。

【註】 our work. 豹の皮を剥ぎその肉を切ることを指す。

the open air. 「(穴の)外」。(七十八頁参照)。

the sun was low in the horizon = the sun was setting.

【注意】 hori'zon (ホライズン)一名詞。

horizon'tal (ホリズンタル)一形容詞。

all haste was necessary that we should set out = it was necessary that we should make haste to set out.

「急いで出發しなけりやならなかつた」。

set out on..... = start on.....

He is about to start on a journey.

「彼は旅行に出かけるところだ」。

My brother has gone on a visit to his relatives.

「兄弟は親族を訪問に行つて居ます」。

without further delay = at once.

not a little = much.

比較:— {not a little. 「少からず」「非常に」=much. (九一十頁参照)。  
          {not in the least. 「少しも……せぬ」=not at all.

took time to..... 「……するに時間をかけた」「わざわざ……した」。

so—that.....

(五十六頁参照)。

stiff = severe.

both—and..... 「——でもあれば又……でもある」。

toilsome = irksome ; wearisome ; tiresome.

tedious. 「時間がかゝる」「のろい」。

became convinced. 「覺つた」「確信した」。

比較:— {I am acquainted with him. 「知己だ」。  
          {I became acquainted with him. 「知己になつた」。

should not succeed in——. 「到底——することは出来ない」。(四十八頁参照)。

while daylight remained. 「日光のある間に」「日の暮れぬ間に」。

to bivouac (ビヴーラク). 「野宿する」。

for the night. 「その夜は」。

【類例】 'for the present' 「當分は」、'for the future' 「將來は」等。

at the foot of——. 「——の麓で」。

which promised..... 「.....となる見込があつた」

「.....になり相だつた」。

He is a *promising* youth. 「前途多望の青年だ」。

a good shelter from——. 「——を凌ぐによい所」。

It began to rain and we *took shelter* in a cottage.

「とある小屋で雨宿りをした」。

Nowhere shall I *find refuge* from the wrath of Heaven.

「上帝の御怒避くるに所なし」。

16. 此不快にかてゝ加へて、空腹と云ふ奴がひどくやつて参りました；尤之れは間もなく疲勞に打勝たれましたんで、乾いた松の枝を集めまして、盛んに火を焚き、夕飯の用意なんかは一切御構ひなしで、その前の草の上へ横になりますと、その暖いのが大層有難う感じました。

【註】 To add to our discomfort = What added to.....

「この不愉快にかてゝ加へて」。

To *add* to the difficulties, he lost his health.

「財政の困難にかてて加へて、彼は健康を失ふた」。

To *make matters worse*, his mother fell sick,

「益々悪いことには、母が病氣になつた」。

hunger began to make itself felt. 實は 'hunger began to be felt = we felt hungry' と云ふべき所をば、空腹と云ふものを宛然人の如くに見てそれが故意にしかずる如く云へるなり。亦以て英語の一慣用法と知るべし。

【参考】 I could not *make myself understood*.

「自分の意を先方へよう通じさせなかつた」。

It was nearly at the juncture that the voice of John Wicliffe began to *make itself heard*.

「此時頃なりき、ジョンウイクリフの聲(天下に)聞ゆるに至りしは」。

Her power began to *make itself felt*.

「その勢力が漸く世に認められ始めた」。

He *makes himself loved* by his kindness.

「彼は親切なので皆に好かれる」。

this = hunger.

was overpowered by weariness. 「疲勞に打勝たれた」

「疲勞に敗けた」。

身體の疲勞の爲め空腹の方は左程に感ぜざりしなり。

gathered up. Up には蓄積の意を含む； 'to heap up

'to lay up' 等。

kindled up. 「起した」。

troubling ourselves. 「心を勞する」「心配する」「頓着する」。

Don't *trouble yourself* about it.

「御心配遊ばすな」。

to prepare —— for supper. 「——を夕飯に用意する」。

(二十八頁参照)。

stretched ourselves = lay at full length.

17. その日の苦勞に疲れたんで、暫くするとコンウエルは早や熟睡して居ました；しかし、私はその例に倣ひたいは山々でしたけれども、私の犬がどうも騒々しくて寝られない、何だか危険の迫つて居ることを私に注意したいと思つて居るらしかつたのです。此の動物忠實にも、私の直側に小さくなつて、鼻をば私の肩にかけ、折々頭を擡げ、何か告げんと欲する所あるが如

くに、哀れな聲で啼いては、又、暫くの間は、静にして居ます。それかと思ふと又、不意に、何だか聞いて居るが如き姿勢で立ち上がり、折々は低い唸聲をさへ發して居りました。

【註】 Worn out=(As I was) worn out.

in a few minutes=soon.

was fast asleep. 「熟睡して居た」。

although much inclined to——=although (I was) much

inclined to——「非常に——したいと思つて居ました

けれど」「——したいは山々でしたけれど」。

to follow his example. 「その例に倣ふ」。

自分も眠ることを云ふ。

I was prevented by——=I was prevented from sleep

ing by——=I could not sleep on account of——.

「——のため眠られなかつた」。

restlessness. 「落ち着かない」「騒々しい」。

to warn me of——. 「——のことを私に注意する」。

I shouted to warn him of the danger.

「危いぞつて大きな聲して注意をした」。

【類句】 'to inform one of——' 'to advise one of——' 等

the presence of danger. 「危険の目前にあることを」。

The faithful animal. 「此動物は忠實にも」。

(六頁参照)。

cringing. 縮まつて小さくなれるなり。

closely to me. 「すぐ私の側で」。

from time to time=occasionally. 「時々」「折々」。

whine. 「悲しい聲で啼く」。

as though=as if. 「さながら……かの如く」「……

とでも云ふ風に」。

The child talks as though he were a man.

「此の兒は大人みたいな口のきき様をする」。

to communicate=to tell

would. 過去の習慣を示す。

He would often come home drunk.

「彼はよく酔つぱらつて歸つて來來した」。

remained quiet. 「デツとして居た」。

would. 前に同じ。

attitude. 「姿勢」。

18. 私の忠實なる犬の方でこんな變な振舞をするのでスツカリ目が覺めてしまふと、何だか乾いた叢林の中で微かにサラサラと云ふ音が聞える様でした; (はて何だらうと思つて)立ち上がつて半坐つた姿勢になつて、後の岩の方を見ましたら、イヤ實に驚きましたね、ギラギラする眼が二つ私を視つめて居たんですよ。丁度私の頭が火とその恐ろしい眼との間にありましたから、その火の様な(眼の)球が、赤い光に反射して、裸の岩の上よりデツと此方を窺つて居る所をば、明白見止めることが出来ました。

【註】 Completely awakened=(When I was) completely awakened.

on the part of——. 「——の方の」。

it seemed to me as if……. 「何だか……の様に思

はれた」。

to my great astonishment. 「大に吃驚したことは」

To は結果を表す。

To our great joy, he returned safe and sound.

「大に喜んだ、彼が無事息災に歸つたんで」

To my disappointment, I learned that he had started on a journey to Adzuma.

「東の旅と聞く悲しさ」

became aware of = saw.

fastened upon = fixed upon. 「視つめて居る」

(十頁参照)。

His eyes were fastened on the ground.

「眼は地上をのみ視つめて居た」

as. 下の they peered.....に係る。

reflected on = (when they were) on. 「反射して」

the red light. 次へ. of the fire を補つて見よ。

above. 「の上より」

19. それは豹でした、そして、私のそれを見たる位置より(判断)すれば、明に、跳びかゝらうとして居た所があります。幸ひにも其夜も、何時もの夜の如く、例の大切な鐵砲はヂキ側にありました。私はイキナリそれを握み、半立つて、それで後の火がよつく狙ひを定めるに明か<sup>な</sup>る様にして、丁度眼の間の所へ砲口を向けました。ドンと一發、彈丸はその命取りの使命を帯びて馳せる、ライフル銃の音は、嶮しき岩に雷鳴と轟いて、高い長い反響を以て歸つて來ました。

【註】 evidently. 「明かに」「確かに」

from = judging from. 「.....より判断すれば」

Judging from reports, he must be a very great scholar.

「世評によつて判断すれば、彼は大學者に違ひない」

From what I hear, I think he must be guilty.

「聞く所によれば、彼にどうも罪がある様だ」

the position in which I saw it. 豹の居たる位置なり。

was ready for a spring = was about to make a spring.

Happily. 「幸ひにも」

比較: { Happily he did not die.  
「幸ひにも彼は死ななかつた」  
He did not die happily.  
「彼は幸福な死に方をしなかつた」

即ち知る副詞は文の劈頭に來らば通例下の文全體を形容するを。

on this = on this night.

(一頁参照)。

on every other = on ever other night.

此 every other. 「何時も外の——」の義にして「隔——」の意にあらず。

close beside = close by. 「ヂキ側」

seized. 「ヒツ握むだ」

so that..... 「かくして.....する様な具合に」

afforded light = gave light. 「光を與へる」即ち「明か<sup>あ</sup>る」「照らす」

for a steady aim. 「シツカと狙ふのに」

leveled. 「向けた」

exactly. 「正しく.....の所」

sped. speed, sped, sped.

on its deadly errand. 「敵を仆す使に」

【参考】 He has gone on an errand.

「御使に参りました」



Her husband is absent on a journey.

「夫は旅行中で留守です」。

thundering against. 「——に轟く」。

returned with——. ——がまた聞えたるを云ふ。

20. コンウエル、當人には鐵砲の音は何時も最も面白い音楽でありましたので、今や、何だか電氣にでも撃たれた様に目を覺まして、スツクと立ち上がり、銃を擱んだのです。犬は矢張盛に伏えて居る、附近を一面に嗅いでは、何だか何の方向へ参りませうかと訊く様な風に、私の顔をヂツと視たりして。岩の上には最早サラサラ云つて動くものはない、彈丸は確に的中したのに相違ありませぬ。

【註】 to whom. 「同人に取つては」。

as if roused = as if he were roused from his sleep.

an electric shock. 「電撃」。

continued. 「矢張……して居た」。

all around. 「あたり一面に」。

looking in my face. 「私の顔を視る」。

Look は通例 'at' と共に用ふるも「顔を見る」「鏡を視る」等を云ふ時は 'in' を用ふ。

{ He looked at me.

{ He looked in my face.

{ He looked in the mirror.

in what direction. 「何の方向へ」。(八十四頁参照)。

should go. 「行つたらよいか」。

must have——. 「——したに違ひない」。

(六十八頁参照)。

taken effect. 「効を奏した」即ち「中つた」。

The poison soon took effect. 「毒の利目が直にあらはれた」。

The shot took effect. 「その彈丸が中つた」。

【参考】 Every shot tells. 「百發百中」。

21. コンウエルは掉頭をふりながら何故發砲したかつて訊きました。私は、それへ返答をばせずして、再び鐵砲へ彈丸をこめ始めました；之れが濟みますと、私は火の中より松の燃木を取り上げて、峻しい岩の壁形になつた所へ登ることにとりかかりましたが、その岩と云ふのは私共の休息んで居ました所から二十歩ばかり距つて、柵の様に一段高くなつて居ました。こゝな處へ來て見ますと老豹、私の之迄見た中で一番大きい奴が、死んで居りました——私の彈が狙ひ違はず中つて倒れたのであります。私はその體を岩の上から投げると、私の老友がそれをば火の所へ引きずつて行きました。

【註】 shook his head. 「掉頭をふつた」。

as. 「ながら」。

He trembled as he spoke.

「ブルブル慄えながら言つた」。

this finished = this being finished = when it was finished.

proceeded to——. 「——することに取りかゝつた」。

「——した」。

lying dead. 上の found に係る。

well-directed. 「よく狙つたる」「狙ひ違はぬ」。

finished him. 「それを終へた」「その息の根を止めた」。  
flung. 「投げた」 Fling, flung, flung.  
over. 「の上から」。

The boy fell over the precipice.

「その子供は懸崖の上から落ちた」。

22. 弾丸は正しくその右の眼に中つて、脳を貫いて居ました。怖ろしい齒と爪とのある、實に恐い様な恰好の動物で、それを切つてしまつて見たら、その胃が全く空になつて居たので、尙更恐るべきものでありました。私の考では多分飢に迫られてそれでこんなに火の近くへ來たのだらうと思ひましたが；コンウエルはそれは私共の携へて居た新しい獸肉の臭を嗅ぎつけたものであると考へて居ました。それは兎も角、その中間の火が燃えてしまつたら直、跳びかゝつてやらうとして居たことはまづ疑はありませぬ；ですから、此場合には、神の御手段として、此好都合な火のあつた御蔭で、私共の命は助かつたのであります。

【註】 had struck him in the right eye. 「その右の眼に中つた」。

【注意】 「彼は僕の頭を打つた」を英語にては

He struck my head.

とは通例言はず

He struck me on the head.

と云ふ。其他

She pulled me by the sleeve.

「僕の袖を引いた」。

The bullet struck him in the leg.

「弾丸は彼の脚に中つた」。

directly = exactly. 「正しく」。

passing through. 「貫通する」。

the more —, as.... 「.....であつた爲めに尙更——」。

かかる場合の 'the' は 'the sooner, the better.' 「早ければ早い程よい」の 'the' と同じく一種の副詞にして「それだけ」「一層」「尙更」等の意味を有し、常に比較級の語と共に用ひられ 'because' 'as' 等原因を表す句に伴ふ。

The amusement was the more pleasing as it offered itself so unexpectedly.

「その娯樂はかく思ひがけない時に出たので一層面白かつた」。

He worked the harder, because he had been praised.

「賞められたので、益々勉強した」。

cut up. 「切つてしまつた」。

序に云ふ cut は現在過去、過去分詞共同形。

was found..... 「——して見ると.....なることが分つた」。

hunger had driven him..... 「飢が彼を驅つて.....した」即ち「飢に迫られて.....した」。

venison (ヴェニズン or ヴェンズン). 「猛獸の肉」。

had with us. 「持つて居た」。

Have you any money with you. 「金の御持合せがありますか」。

Be that as it may = Let that be as it may = However it may be. 「それは如何であらうとも」「それは兎に角」。

Be that as it may, the matter was kept secret for nearly a month.

「それは鬼に角、その事件は約一ヶ月間は秘密にして置いた」。

【参考】 Be the matter what it may (= Whatever the matter may be),  
always speak the truth.

「事柄は何であらうとも、常に眞實を云ふ様にせよ」。

Work as he may (= However hard he may work), he can not  
excel you.

「彼がいくら勉強したつて、君には勝てぬ」。

there was little doubt. 「疑はまづない」。

but that.

總て否定乃至疑問に用ひたる 'doubt' 'deny' 等の後にあつては  
'that' & 'but that' & 'but what' & 或は單に 'but' & 等しく皆  
單に 'that' の意なり。

There is no doubt but that the people will be anxious enough to  
do so.

「その人民がしかせんことを切望して居ることは疑のないこと  
である」。

I do not deny (but) that I know him.

「僕があれを知つて居ると云ふことは別にそでないとは云はぬ」。

he would have..... 「.....しようとして居た」「.....

する積りであつた」。

He would have stopped me, but I thrust him aside.

「僕を止めようとしたが、僕は突きのけた」。

He would have done so, if he had been able to do so.

「出来ればさうするのであつた」。

burned down. 「燃えてしまふ」。「To burn up」とも云ふ。

to its friendly presence. 此 'to' は下の we owed にか

ゝる。

I owe my success to your aid.

「僕の成功したのは君の御助力の御蔭だ」。

All this is owing to your carelessness.

「これと云ふのも皆御前の不注意から起つたことだ」。

I. O. U. to you (= I owe you ten yen).

「金十圓正に借用致候也」。

friendly presence 丁度都合よく其處にあつたことを  
云ふ。

on this occasion. 「此場合には」。

as. 「として」。

means of Providence. 「神様の(人を助ける)御手段の  
一として」。

Providence は「神の加護」轉じて「神意」再轉して「神」そのものの義に  
用ふ。此場合には常に Capital にて始まること God に同じ。

we owed our lives (to.....). 「.....のお蔭で生命  
が助かつた」。

# The Power of Habit.

## 習慣の力

(本文は有名なる禁酒演説なり)

1. 私は嘗てバッファロからナイアガラの瀧へ馬で行つたことを記憶して居ます。私はさる紳士に申しました『あれは何川でござりますか』つて。するとその紳士が『あれはナイアガラ川です』と申されました。

【註】 remember. 次に Gerund の來ることに注意せよ。

比較: — { I remember once going there.  
I forgot to go there.

かく英語にては動詞によつては是非共 Gerund を用ふべくして Infinitive を用ふべからざるものもあれば又それと反對に Infinitive を用ふべくして Gerund を用ふべからざるものもあるを以てよく注意し作文の際惑はざる様にすべし。

Buffalo. ニューヨークの西北にある都會。

Falls. 通例複數形を用ふ。

sir. 町噂に云ふ時大人の男子には sir 女子には madam を用ふ。

Niagara river. 定冠詞のあるをよしとす。

2. 『ハハハ成程、綺麗な川ですね、光つて美しく、鏡の様で。して、早瀬へは何程ありますか』と申しますと、『ほんの一哩か二哩ばかり』との返答でした。

【註】 Well. 「ハハハ成程」「ア—さうですか」位の意。

How far. 比較: — { How far. (距離)  
How long. (時間)

off. 距つて居る義。

a mile or two. One or two miles と比較せよ。(二十一頁参照)。

3. 『此處より僅一哩ばかり行つて既それで瀧近くには屹度ある水の逆巻きかへつて居る所が見えるなんて云ふことがあるものでしょうか』

『まあ行つて御覽なさい、さうですぞ』。そして亦實際行つて見たらさうでありました；私はナイアガラを始めて見た時のことは決して忘れは致しませぬ。

【註】 Is it possible that..... 「.....なんて云ふことがあるものでしょうか」  
[まさかそんなことはありませんまい (It is impossible that.....)] の意を含む。

we shall find the water in the turbulence. 「水を逆巻きに於て見出す」即ち「.....したら水の逆巻いて居る所が見える」

which (=the turbulence) it (=the water) must show near the Falls. 「水が瀧の近くでは屹度示すところの」即ち瀧の近くへ行けば水は屹度逆巻いて居るもののだの意。

must = is sure to. 「屹度.....する」

He must succeed, for he works so hard.

「彼は屹度成功する、あれ程勉強するのだから」

you will find it so. 「行つて御覽なさいさうですぞ」

You will find the book interesting.

「讀んで御覽なさい面白う御座いますぞ」

And so I found it. 「行つて見たら果してさうであつた」

I shall never forget. 「よも忘れはせぬ」

比較:— { I shall never forget it. 「よもや忘れられませぬ」。  
I will never forget your kindness. 「決して忘れは致しませぬ」。

4. 今、艇を其ナイアガラ川に浮べなされんか；川は光つて、滑かに、美しく、鏡の様。舳には漣波あり；残る銀色の船脚は、一段と諸君の快を増す。流を下に滑り行く、櫂も、帆も、舵も皆適當に整つて、諸君は今や物見遊山に出たのであります。

【註】 launch (ローンチ) your bark. 「艇を卸せ」。

bark は boat の一種。

the silver wake you leave behind. 「後に残す銀色の船

脚」。

adds to——. 「——に加はる」「——を一層増す」。

序に云ふ、此 adds の主語は前の (the silver) wake なり。

It adds to our anxiety.

「それで一層心配がふえる」(尙更心配だ)。

Down the stream you glide = You glide down the stream,

oars, .....in proper trim. 前に with を補つて見よ。

in proper trim = in proper arrangement. 何時でも出發の出

来る様に帆は帆、櫂は櫂のあるべき所に整然とそろりて居ることを

'trim' と云ふ。

set out on = start on.

pleasure excursion. 「遊山」。Excursion は主として氣晴らし

の爲めにする旅行なり。

5. 不意に、誰か岸より大きな聲で呼ぶ者がある、

『若い衆よ、オーイ』

『何だ』

『早瀬が下にあるぞー』

【註】 cried out = exclaimed.

Young men. 冠詞のなきに注意せよ。總て呼び掛け (Address) の語の前には冠詞を省略す。

Come, fellows, Let us play base-ball.

「諸君、來給へ、ベースボールをやろう」。

ahoy. 「オーイ」。船を呼ぶに用ふる語。

below. above に對す。

Are the falls below the bridge.

No, they are above the bridge.

6. 『ハ！ハ！早瀬のあることは聞いて居る；だけれどそんな所へウカウカ行く様な馬鹿ではないや。餘り早過ぎると見たら、そしたら舵を風上に向けて、岸へと進むさ；櫂を穴へさし、帆を揚げて、岡へと大急ぎさ。サーやり給へ、諸君；吃驚し給ふな、——何も危険なことではない』

【註】 Ha! ha! 得意の體なり。

we have heard. 「聞いて(知つて)居る」。

heard of——. 「——の(ある)ことは聞いて居る」。

I have never heard of such a man.

「そんな人があると云ふことはついぞ聞いたことがなかつた」。

比較:— { Have you heard of his death? (死んだと云ふことを)  
Have you heard about his death? (死んだに就ての委しい事情を)。

we are not such fools as to..... 「.....する様な馬鹿ではない」。

to get there = to go to the rapids.

up with the helm. Up with は 'put up with' の義にて「舵を風上

に向ける」を云ふ。之に對し「舵を風下に向ける」は down with the helm と云ふ。

steer. 「舵を取る」「進む」。

socket. 櫓をさす穴なり。

hoist = raise ; lift up.

speed = go quickly.

on = go on.

alarmed. ソラ大變だと騒ぎ出す。

7. 『若い衆よ、オーイソリヤ』

『何だ』

『早瀬が下にあるぞー』

【註】 there. 「ソーラ」。一種の間投詞なり。

(二十一頁参照)。

8. 『ハ！ ハー！ 笑つて大いに飲らう；萬物皆面白い、未來のこと何かあらん！ 未來は未だ見た者が無い、その日にて足れりその日の苦はだ。出来る間に世の中を面白く暮さう、——快樂はその飛ぶ所を捕へよう。之れが眞に愉快と云ふものだ；愈流と共に迅く行つて居るとなつても危險を漕ぎ抜けるにはまだまだ間があるんぢやないか』。

【註】 quaff = drink largely.

all things delight us. 「萬物皆面白い」。

What care we for —— = What do we care for —— = We do not care for ——.

I do not care for myself, but I fear for my wife and children.

「此身は何とも思はねど、妻子のことが氣にかかる」。

saw it = saw the future.

Sufficient for the day is the evil thereof.

これは聖書の馬太傳六章の世四節 (Matthew VI. 34) にある文句にして前後の關係上其全節を示せば

Take therefore no thought for the morrow ; for the morrow shall take thought for the things of itself. *Sufficient for the day is the evil thereof.*

「是故に明日の事を憂ふる勿れ；明日は明日の事を思はん。その日の苦勞はその日にて足れり」

結局「今日の事は今日丈で澤山で、取越苦勞はせぬものだ」の意なり。

【注意】 本文は順序顛倒せるを以て之を普通の文に直せば

The evil thereof (=of it=of the day) is sufficient for the day.

【参考】 Therefore = fore it ; whereof = of what ; herein = in this ; whereupon = upon which 等。

本書の原書二百五十六頁 'Imaginary Evils' の一節に

Let to-morrow take care of to-morrow ;

Leave things of the future to fate ;

What's the use to anticipate sorrow ?

「明日のことは明日にして置け；

未來の事は運命に任せよ；

取越し苦勞は何の用かあらん」。

We will = Let us.

enjoy life. 「世を面白く暮す」。

while we may = while we can. 「出来る間に」「若い間に」。

Work *while you may* 「若い時や二度ない働け働け」。

Gather roses *while you may* 「若い時や二度ない遊べ遊べ」。

catch pleasure as it flies. 「快樂をばその飛ぶところを捕へる」即ち「出来る間に面白く暮す」。

time enough to—=there is time enough to—

「—するにはまだ充分間がある」。

to steer out of danger. 「危険な所より漕ぎ出る」。

when we are—. 「愈々—して居るとなつても」。

9. 『若い衆よ、オーイ』

『何だ』

『危いぞ! 危いぞ! 早瀬が下にあるぞ』

【註】 (ff) は (Fortissimo=very loud) の義にて極めて高聲に讀むべきを示せるなり。之に對し (f) は (Forte=loudly), (fff) は (Fortississimo=as loud as possible) の義。

Beware 「注意せよ」 「危い」。

Beware of pickpockets 「掏摸御用心」

10. サア水があたり一面に泡立ち返りだした。見る間に其所を通り過す! 舵を風上に向ける! サ—方向を轉せよ! うんと漕げ! 早く早く! 一生懸命漕げ! 血は鼻孔より出で、血管は鞭繩の如く額に立つまで漕げ! 櫓を穴へさせ! 帆を揚げろ! アー! アー! 既に遅し! 叫びつ、喚きつ、悪口タラダラ; つひ通り越してしまふ。

【註】 Now you see the water foaming 「今や水が泡立つて居るのを見る」。愈早瀬の所へ來れるなり。

(=) 以下同一の調に讀むべきを示す。

for your lives. 「一生懸命」。( 頁参照)。

whip-cords. 鞭にする繩なり。

brow. 發音は(ブラウ)にして(ブロー)にあらず。

(sl.). slow 即ち緩く讀むべきを示す。

blaspheming. 「神を罵り人を詈る」 「悪口を云ふ」。  
over they go=they go over.

11. 幾千と云ふ人々が年々、習慣の力によつて、始終「愈害になると云ふことが分つたら、止める」と云ひつゝ、(つひ) 大酒の早瀬を通り越して居るのであります。

【註】 Thousands. 「幾千と云ふ人」。

Thousand, hundred 等は何千、何百と定數を云ふ時は複數形とならず。複數形となれる時は「幾千と云ふ程」「幾百と云ふ程」と漠然多數なることを示す。

比較:— { Three hundred people. 「三百人」。  
          { Hundreds people. 「幾百人と云ふ人」。  
          { Five thousand miles. 「五千哩」。  
          { Thousands of miles. 「幾千哩」。

the rapids of intemperance. 之以下が此の演説の主意にして之迄は全く一つの比喩に過ぎず。

through 「... に由つて」 「... の爲め」 原因を表す。

He lost his position through his carelessness.

「不注意故に位置を失つた」。

This misfortune came through you.

「此不幸は君の爲めに生じた」。

Through your help, I may succeed.

「君の助力を得ば、成功するかも知れぬ」。

all the while. 「其間始終」。

it. 意味より推して適度の飲酒を指すを知る。

injure. 「害になる」。

Sake and tobacco injure you. 「酒と煙草は養生に害あり」。

give up. 「止める」。

He has given up drinking.

「彼は禁酒した」。

# The Two Young Travelers

## 二人の若き旅行者

1. ホレイスとハーマンと云ふ、互に友人なる二人の青年が、遠國の旅行に出掛けました。出發に先だつて、銘々向後の方針を定めて置きました。ホレイスは全く快樂のみに身を委ねる、——何處なりと氣の向いた所へ行く、——そして途中の出來事などは一切記録はして置かぬことに決心致しました。要するに、彼は出來得る限り楽しむで、決して、その心に心配や、職務や、乃至如何なる種類の厄介もかけないことに決心致しました。

【註】 set out = started.

a plan of proceeding. 今後如何いふ風にやつて行くかと云ふ方針なり。

to give himself up to —— = to addict himself to ——

「——に身を委ねる」「一意専心——する」「——に耽る」。

He is wholly given up to intemperance.

「彼は全く飲酒に沈溺して居る」。

He gives himself to reading.

「彼は讀書に耽る」。

【参考】 Left to herself, she abandoned herself to grief.

「人目無ければ伏し轉ぶ」。

—(109)—

wherever his humor might dictate. 「何所なりと氣が向ける所へ」「何處でも氣の向いた所へ」。

to keep no records of. 「記録は取つて置かぬ」。

【参考】 'to take notes.' 「筆記する」。

adventures. 強いて「冒險」と云ふ程でなくとも生涯に於て珍しく面白く感じたることは皆 'adventure' と云ふ。

「出來事」位にて譯山ならむ。(二十四頁参照)

In short 「約めて云へば」「之を要するに」。

【類句】 'In brief' 「簡単に云へば」「in fine」<sup>つまり</sup>「結局」「in conclusion」

「終りに臨んで(一言せん)」等。

to enjoy himself. 「面白く暮す」「楽しむ」。

I have enjoyed myself very much to-day.

「今日は大層面白う御座いました」。

【類句】 'to amuse oneself.' 「慰む」「to content oneself」 「満足する」。

as much as possible = as much as he could.

by no means. 「決して……せぬ」。

You shall by no means come out from there.

「貴様は決して其處から出て來てはならぬぞ」。

【参考】 by all means; by any means.

to encumber his mind with…… 「心に……と云ふ厄

介物を負はす」「心を……苦しめる」。

【参考】 He is encumbered with a large family.

「彼は家族が多くて困つて居る」。

I will not trouble you with any more requests.

「此上色々の御願ひをして御面倒は掛けませぬ」。

cares. 「心配事」。

duties. 「職務」「日々の務」。

比較:—duty 「義務」。



2. ハーマンも愉快の好きなことはホレイスと變りはない；けれどもその慾望を満足せしむるに採つた方法は、全く違つて居りました。先づ第一に、彼は旅行の計畫を立てて置きました：地圖を求め、書物を讀み、そして、熟考の後、或る道筋をば、教訓は勿論快樂を最も與へさうなものとして、選定したのであります。

【註】 was as.....as. 「——と同じく.....であつた」「.....なることは——と變りはない」。

I was fond of = liked.

He is fond of reading novels.

「彼は小説を讀むのが好きだ」。

mode = way.

adopted. 「採つた」。 adopted. 「適する」と認るなかれ。

In the first place. 「先づ第一に」。 以下 'In the second place' 「第二に」 'in the third place' 「第三に」とあるなり。

made out a scheme. 「計畫を立てた」。

mature deliberation. 「熟考」。

route. 「道筋」。

Route. (ルート or ラウト) は通つた道筋全部を總稱にして、 其中には highway (大道) もあるべく road (車馬道) もあるべく 又は path (小徑) もあきべし。

序に云ふ route を Rout (ラウト) 即ち「群衆」「敗北」「宴會」等の意の語と混同する勿れ。

as——. 「——として」。

most likely to——. 「最も——しさうな」。

He is likely to succeed.

「彼は成功しさうな」。

afford = give.

as well as. 此を漫然「並びに」等譯するは非なり。此句は一體二者を掲げて前者を強むる時に用ふるものなれば「並びに」にては到底其眞意を傳ふる能はず。以下數例を見てよく其眞意を悟られよ。

He is clever as well as industrious.

「彼は勤勉でもあるが又利口でもある」。

He as well as you is guilty.

「君は勿論彼も亦罪がある」。

従つて本文は「教訓を與へるは勿論愉快をも與へる」と云ふ様に譯すべし。

3. 此計畫を立てるに、彼は數箇月を費した；そして亦、かう云ふことをやつて居る間に、彼は其後旅行中に於けると同じ位の満足を見出した。かくして彼はその怠惰放縱なる友よりは一大利益を得ました、即ち其の友は愚にも愉快の眞髓は思慮、束縛、勞苦より全然脱することにあると考へたのであります。(ですから) その旅行に出掛けない中よりして既に、ハーマンはホレイスはその旅行中に得たと殆んど同じ位の快樂を實際に見出して居たのであります。

【註】 spent (in——) 「——に費した」。

in this occupation 「かくやつて居る間に」。

as much satisfaction as——. 「——と同じ位の満足」。

he afterwards did = he afterwards found.

He wrote better than I did (=wrote).

obtained one great advantage over——. 「——に勝る」。

——大利益を得た」。

「——よりも一大利益を得た」。

「——に優つて居た」。

Earthenware has an *advantage over* wood in being easily kept clean.

「土器は容易に奇麗にして置けると云ふ點に於て木に優つて居る」  
his idle and luxurious friend. Horace を指す。

folishly. 「愚にも」。

He *kindly* showed me the way.

「彼は親切にも道を教へて呉れた」。

essence 「本質」「真髓」。

lay in = consisted in. 「——に存する」。

Happiness lies in contentment.

「幸福は分に安んずるにあり」。

lay. = Lie *lay* lain.

freedom from——. 「——より自由な」「——を免れる」  
「——が全くない」。

I am not *free from* anxiety.

「僕も心配がないのではない」。

*Exemption from* military service.

「兵役免除」。

in the whole course of = during. 「——中」。

expedition = tour.

4. 二人の青年は一緒に出發致しました；當時は運河もなければ鐵道もありませんでしたから、二人共徒歩で出立しました。餘り遠くは行かぬ中に二人は別れました、——ホレイスは片方の道を行き、ハーマンは片方の道を行き。

【註】 then = at that time.

on foot. 「徒歩で」。

【参考】 on horseback. 「馬で」 by land. 「陸路」 by water. 「海路」  
by train. 「汽車で」等。

They had not proceeded far before..... 「.....した前遠くは行かなかつた」 即ち 「遠く行かぬ中に.....した」。

I *had not waited long before* he came.

「長くは待たぬ中に彼が来た」。

Hermon another = Hermon taking another road.

5. 三年経つて後、兩人共歸つて來ました；しかしその二人の間の相違と申しましたら！ホレイスは不機嫌で不満足；(成程)世間は大いに見ました、けれども、徒に時々刻々自己を満足せしむると云ふ外何の計畫もなくして旅をしたものですから、忽ちにして快樂の杯を飲み乾して、底には唯不満の苦い渣しか残つて居ませんでした。

【註】 What a difference between them!

= What a difference there was between them!

= There was a great difference between them.

morose. 「澁面」「不機嫌」。

a great deal = much.

with no other design than to..... 「.....する外に何等の計畫もなくして」。

from hour to hour. 「時々刻々」。

冠詞のなきに注意せよ。  
'From day to day.' 「毎日毎日」 'from end to end.' 「端より端へ」 'from door to door.' 「戸毎戸毎に」 'from time to time.' 「時々」等。

the cup of pleasure. 快樂を cup に盛つたと見做したるなり。

nothing.....but——=only——.

dregs. 「渣」<sup>かす</sup>。常に複數形。

6. 彼は快樂を追求し、其結果、遂に、その追求が無味にして嫌はしいものとなつた。彼は愉快にすら厭きて來た。彼は自己の嗜好、氣分、情慾を放縱にした、その結果はその放縱にすることが既に嫌になつた。彼は友達の所へ歸つて來た時に、それを談つて以て彼等を楽しまし得べきものは少しもその記憶の中に蓄へて居ない；見た物に就て何の記録も止めてない；自己に取り、又他人に取つて愉快な有益な記憶の貯蓄は何も持つて歸つて居なかつた。之が快樂の爲めの三年の旅行の結果であります。

【註】 revolting=disgusting.  
tired of.

比較：— { I am *tired of* working. 「厭きた」  
          { I am *tired with* working. 「疲れた」

indulged. 「恣にした」。

indulgence itself=even indulgence. 「放縱にすることが既に」「——すら」。

No man but had some fault. Confucius *himself* had his faults.

「誰しも何か缺點のない者はない、孔子すら缺點はあつた」。

The heavens *themselves*, I thought, were frightened.

「天すら驚いて居た様であつた」。

laid up=stored up. 「蓄へて居た」。

by the relation of which. 「それを談して以た」。

云ふ迄もなく which の先行詞は nothing なり。

he had kept no record of.....「.....の記録は止めて居なかつた」。

three years' travel.

(十三頁参照)。

7. ハーマンの方は之とは全く趣を異にして居た。彼は、自分が當初立てたる計畫を何處までも守つて、極めて多くの所を見物し、そして、日々、見たところをば其日記に附けていつた。面白い物にでも出つくはすと何時も、暫く留まつくよく之を考へて見る。若しそれが、歴史上有名な、何か古代の遺物ででもあると云ふと、その來歴を調べて、之を書き止めるの勞を取つた。若し又目に見て面白い物であるならば、その爲めに持つて居た手帳へその寫生をして置きました。

【註】 It was quite otherwise with Hermon.

= Hermon did quite otherwise.

With=In the case of.

The other boys ran off. Not so *with* the brave boy.

「外の子供は皆逃げた。が、此勇敢なる子供はさうでなかつた。

Thus it is *with* the white men.

「白人は何時もさうである」。

Adhering to=sticking to. 「固守する」。

I must *adhere to* my first resolution.

「僕は何處迄もその決心通りやる積りだ」。

a great many=very many.

what he had seen=the things which he had seen.

met with. 「出くはした」。

stopped to contemplate=stopped and contemplated.

took pains. 「骨を折つた」「苦心をした」「丹精した」。

That lady takes pains in educating the children.

「あの婦人は子供の教育に丹精する」。

比較:— {pain. (苦痛)。  
{pains. (苦心)。

to write down. 「書き留める」。

an object of interest = an interesting object.

Of + 抽象名詞 = 形容詞。

A man of courage = a courageous man.

A woman of beauty = a beautiful woman.

to the eye. 「目に(見て)」。

The eye = the faculty of sight.

【参考】 'harsh to the ear' 「耳に(聞いて)耳障りな」 'soft to the touch

「障つて柔い」。

for that purpose. 「其の爲めに」。

8. かくの如くして、ハーマンは三つの良い目的を成就致しました。第一に、適度に快樂を嘗め、之に多少の勞苦と勤勉とを混じて以て、ホレイスをして、遂に、不快不満を懐くに至らしめたる彼の食傷と云ふことをなからしめたのであります。

【註】 In this way = Thus.

In the first place. (百十頁参照)。

by..... 「して以て」 By は手段を表す。

He gets his living by teaching.

「彼は教師をしてそれで以て生活をして居る」。

in a moderate way = moderately. 「適度に」。

mixing with it——. 「それと——を混じて」 It は無論

前の pleasure を受く。

prevented——. 「——を防いだ」「——のない様にした」。

that——which..... 「.....したる彼の——」。

He is wanting in that dogged perseverance which is essential to success.

「彼は成功の要素たる彼の不屈不撓の忍耐を缺いで居る」。

cloying surfeit. 餘り飽いて胸が悪くなること。

sickened = made sick; disgusted.

9. 第二に、彼はその探りたる計畫によつて非常に快樂を増した。單に計畫を實行することだけでも面白い、非常なる愉快の源である。(まして)一つの計畫を立て、之を實行する、——時々刻々、毎日毎日、自己の目的通りに結果が現れて来る、——ことよりして幸福を得るのは當然のことである。

【註】 In the second place. (百十頁参照)。

Merely. 「單に」。

Executing. 「實行すること」 此 Executing は動詞にして名詞の性質を兼ねたるもの下の 'is' の主語なり。斯の如きものを文法上 Gerund と云ふ。

Seeing is believing.

「見なければ信ぜられぬ」「論より證據」。

His making money is no proof of his merit.

「彼の金をこしらへたのが何も彼の偉い證據ではない」。

agreeable = pleasant.

It is natural to..... 「.....するのは當然である」。

to derive happiness from..... 「.....することよりして幸福を引き出す」「.....して愉快を得る」。

follow out = carry out. 「遂行する」。當初の計畫通りにやるを云ふ。

from seeing. 前の from following と同じく 'derive' に係る。

hour by hour. 「毎時間」。 day by day. 「毎日」。冠詞なきに注意せよ。

【類句】 side by side. 「相並んで」 step by step. 「段々と」等。 how = that.

come about = happen ; result.

How did these things *come about* ?

「如何してかう云ふことは生じたのか」。

in conformity to. 「.....通りに」。

10. しながらハーマンがその法式よりして得たる利益は之のみではない。その費した勞苦が即ち；そのなしたる調査；その精神に開表せられたる面白い思想及び珍しい知識；その努力に當つて見出したる鼓舞；美しい光景を描くに當つて感じたる愉快；總て之等が愉快の豊かなる收穫を形成して居たのであつて、之れはホレイスは全く受くるを得なかつた所のものがあります。

【註】 this was not the only advantage, which.....

「.....したる利益は之のみではない」。

Only の譯法に注意して邦語と位置の差を見よ。

He is *the only* student that has passed.

「及第したる生徒は彼のみである」。

Practice is *the only* way to learn a language.

「語を學ぶの方法は唯練習のみ」。

The very toil. 「苦勞が既に」「苦勞が即ち」。

かかる 'very' の譯法も亦注意すべし。

This is *the very* thing I want.

「それが即ち僕の欲する處だ」。

This is *the very* girl for your son.

「あの娘さんこそ御息子に丁度よい」。

*The very* mountains *themselves* seemed to rejoice.

「山さへ喜ぶが如く思はれた」。

unfolded = disclosed ; revealed.

excitement. 「鼓舞」「獎勵」。

picturesque' (ピクチュアレスク') = beautiful.

all. 總て上に列擧したるものを皆こめて云ふ。

constituted = formed.

which was denied to Horace = which Horace could not enjoy.

11. かくして、計畫を實行するに當つて行つたる、勞働と勤勉とは、この若い旅行者に非常なる満足を與へた、ホレイスの厭ふべきものと考へた物さへ實は、その友の最も永遠の快樂の源であつたのであります。

【註】 it was that....., 「.....と云ふことがあつ

た」。

此句はなくとも文意にはさまで影響せず、唯だあらば that 以下の意味が稍強くなるまでなり。

exerted = used.

carrying out = executing.

a vast deal of = a great deal of = very much.

The very things..... 「.....したる物さへ」。(前節參照)

looked upon as—— = regarded as——.

I look upon him as my benefactor.

「僕はあの人を恩人だと思つて居る」。

【参考】 They speak of him as a good teacher.

「世間ではあの人をよく出来るつて云つて居る」。

in fact = in reality. 「實際は」「實は」。

He appears ignorant, but in fact, he is very wise.

「彼は一見愚なるが如きも、實は非常に賢い」。

【類句】 'In truth' 'Indeed' 等。

12. 第三にハーマンは非常に豊富なる知識と観察と、経験とをどつさりもつて歸つて來た。彼の日記は唯に物語や昔譚や、景色や、不時の出來事や、歴史上の記録に富めるのみならず、亦之等のものを紙に記すに當つて、その記憶力は非常に増し、(物事を)観察して記憶する習慣を得た。彼の精神は面白い事が充満し、その旅行及びその見たる事に就て話をするのを聞く位面白ことは到底なかつたのであります。

【註】 In the third place. (百十頁参照)。

laden with. 「どつさり背負つて」。

【考參】 He went home loaded with honours.

「彼は赫々たる名譽を荷つて歸つた」(錦を着て故郷に歸つた)。

Not only was his journal rich in.....

Not only なる副詞が前に來りし故 was が先に出たるなり。

(五十三頁参照)。

Not only. 下に必ず but (also) あり。

He was not only a poet, but also a painter.

「彼は唯に詩人たるのみならず、亦畫家であつた」。

Not only in Japan, but all over the world.

「日本のみならず、否世界到る處」。

rich in——. 「——に富んで居る」「——が多い」。

He is poor in learning, but rich in experience.

「彼は學問は乏しいが、經驗に富んで居る」。

putting down = writing down.

had been improved. 「進んだ」「増した」。

was full of ——. 「——に満ちて居た」「——が一ぱい

あつた」。

This glass is full of wine.

「此盃には酒が一ぱいはいつて居る」。

He is full of fun.

「彼は非常なイタヅラ者だ」。

nothing could be more interesting than——.

「——より面白いことは到底なかつた」即ち「——が一番面白かつた」。

Nothing can be simpler (than this).

「この位造作のないことはない」。

to hear him tell. 「彼の話をするのを聞く」。

Tell は Infinitive にて 'to' を略したるもの。(五十一頁参照)。

what he had seen = the things which he had seen.

13. ホレイスは緩慢で、無口で、苦りきつて居るのに、ハーマンは談話も、活氣も、興味も満ち満ちて居た。一は幸福だし、他は不幸だ；一は愉快だし、他は不愉快だ；一は快樂の杯を飲み乾したし、他は杯をば常に眼前に一ぱい入れて泡立たして居る様に思はれた。到る處ホレイスは不愉快な人間だと云ふことになつてしまつて、何れの人も皆彼をば嫌つた；ハーマンの方は

(之に反し)皆に非常に面白い夥伴だと思はれて、何れ  
の人も皆その交際を求めた。

【註】 While..... 「.....であるのに (一方は之  
に反し)。

The one.....the other = The former.....the  
latter.

Both Taro and Jiro are abroad, the *one* in America and *the other*  
in England.

「太郎も次郎も二人共洋行して居る、一人は (即ち太郎は) 亞米利  
加に、今一人は (即ち次郎) は英吉利に」。

若し之を one.....the other の形にすれば何れが何れを指すか明な  
らざる事下に示すが如し。

Both my brothers are abroad, *one* in America, and *the other* in  
England.

「僕の兄弟は二人共洋行して居る一人は亞米利加に、今一人は英吉  
利に」。

従つて此次の 'one' は八釜しく云へば 'the one' ならざるべから  
ざるも、さして混雜を生ずる恐もなければ強ひて答むる必要もなか  
らむ。

to have the cup full and sparkling before him. 「コッ  
プに一ぱい入れて泡を立たして眼前に持つて居る」。

It was agreed — that..... 「.....と云ふことは  
皆異論のない所であつた」。

on all hands = on all sides. 「各方面」「到る處」。

We hear, *on all hands*, of opposition to the new draft revision.

「今度の改正案には、到る處、反對の聲を聞く」。

shunned = disliked.

while = but on the contrary.

by all = by all people.

a *most* agreeable companion = an *extremely* agreeable  
companion.

比較: — { This is *the most interesting* story. 「一番面白い話」。  
This is a *most interesting* story of all. 「非常に面白い話」。

sought his society. 「彼の交際を求めた」。

Seek sought sought.

14. 二人の旅行者のことは之丈け (にして置きせまう);  
一は、放逸なる快樂の嗜好者にして、唯目前のことの  
み考へ、身の愚故に、その愉快 (を受くる) の力を濫  
用して遂に之を浪費してしまつた; 他は、亦快樂の嗜  
好者; されども之を適度に追求し、將來に對し賢明な  
る顧慮と日々義務の法則に周到なる注意とを以てし;  
かくしてその眞の幸福を得たのであります。

【註】 So much for.....

= So much has been or can be said regarding.....

「.....のことは之丈け」。

*So much* for his courage; now as to his honesty.

「彼の勇氣に就いては之丈けにして; 今度は彼の正直に就いて (述  
べて見よう)」。

one. 云ふ迄もなく Horace を指す。

passing moment. 「目前のこと」「現在」。

in his folly. 「愚故に」。

*In* は心的状態を示す。

*In my hurry*, I forgot to say good-bye.

「周章てつひ、暇乞をすることを忘れて居た」。

*In her sorrow for her lover, she cried herself blind.*

「滝し瀧しに、目を泣き潰し」。

the other. 云ふ迄もなく Herman を指す。

threw away. 「空費した」「浪費した」。

「参考」 *to throw away* time, money 等。

with a regard to. 「顧みて」「慮つて」。

He has no regard to the interests of others.

「彼は他人の利害などは顧みない」。

careful attention. 前の with に係り下の to the rules

に續く。

*Pay attention to* what I say.

「私の云ふことによく注意して御出なさい」。

secured = obtained.

## The Ambitious Apprentice.

### 大望ある弟子

1. 「此處から太陽まで何程あるかね」とハーマンリーが父の弟子、ジェイムズ ウェレイスに訊きました、かかる質問をして何かその子供の無學を表すような答を得る積りなんです。

【註】 How far is it. 「(距離が) 何程あるか」。時間の何程と云ふには 'how long' を用ふ。

asked. 下の of—— に係る「——に訊いた」の義。

【注意】 'ask' を「訊く」の意に用ふる時訊かれる人を 'ask' の直ぐ次に置く時は 'of' を要せず。

比較: — { "Where shall I go?" asked he of me.  
He asked me where he should go.

intending.....to——. 「——する積りであつた」。

to elicit. 「引き出す」「得る」。

exhibit = show.

ignorance. 「無智」「無學」。

2. ジェイムズ ウェレイス、(當時) 十四才の少年は、そのハツチリした、利口げな目をその抱へ主の息子に向けて、答へました「分りませぬ、ハーマンさん。何程ありますか」。

【註】 I don't know = I can't tell.



3. その少年の語調の中に何だかさも正直な熱心な所がありましたので、ハーマンも、最初は、無學を嘲弄つてやらうかと思つて居ましたものの、どうも本當の答を教えずには居られなかつたのです。しかし、それでも猶、この無學な弟子に對する彼の輕蔑心は到底隠さうも隠されないうで、かう答へました「九千五百萬哩よ、此無學者め」。ヂェイムズは何も口返答は致しませぬ；云はれた距離を心の中で幾度も繰返して、それをば消えない様にシツカと記憶に止めて置きました。

【註】 There was something.....in——. 「——に何だか.....な所があつた」 「——に何となく.....な所があつた」。

*There is something fascinating in his manner.*

「あの人の様子には何だか人好きのする所がある」。

so——, that..... 「非常に——で、それ故に.....」 「餘りに——だつたので、.....」。

(五十六頁参照)。

*We were so tired that we could not go any farther.*

「餘り疲れたのでもうそれ以上行けなかつた」。

much as Harmon had felt..... = *although* Harmon had felt much.....

【類例】 *Much as I pity him, I can not excuse his conduct.*

「彼には非常に氣の毒に思ふけれど、彼の行爲は赦すわけにはゆかぬ」。

*Scarce as money is, I do not despair.*

「金は乏しいけれど、失望はせぬ」。

*Hero as he was, he felt a momentary shudder.*

「流石英雄の彼も一時はグンとした」。

at first. 「最初は」「初は」。

*I felt rather awkward at first, but soon got used to it.*

「初は何だかちと具合が悪かつたが、直に慣れて來た」。

he could not refrain from giving.....

=he could not help giving.....

=he could not but give..... 「.....を教えずには居られなかつた」。

Still. 「それでも矢張」。

contempt for——. 「——に對する輕蔑の心」。

*He has a great contempt for orthography.*

「彼は綴字法を蔑視して居る」。

【類例】 *Respect, esteem, regard for.*

was not to be concealed = could not be concealed.

「隠すべくもなかつた」「隠されなかつた」。

millions of miles.

Million (百萬) なる語は hundred, thousand 等 (百七頁参照) と稍異なり、次に他の數詞來るか又は直に名詞來りし時の外は常に複數となる。

比較: — { Fifty millions.  
Forty million five hundreds.  
Fifty millions of inhabitants.  
Fifty million inhabitants.

You ignoramus. 「この無學者め」。

*Leave the house, you fool!*

「出て行け、この馬鹿野郎」。

retort. 「口答する」。

repeating over. 「幾度も繰返す」。

*Over* には反覆の義あり。 'Over again' 'over and over-again.'

fixed.....upon his memory. 「しつかと記憶に留めた」。

indelibly. 「消えない様に」。「忘れない様に」。

4. その夜、一日の仕事が済んで後、彼は天文學の小教科書を得た、これはハーマンリーのものである、で蠟燭を以て屋根下の部屋へ上つて行つて、其處で、獨り、この高遠なる科學の奧義を探らうとしました。讀んで行く間に、熱心に注意して居るものですから事實をば殆んど悉く心に留めてしまひました。イヤハヤ其熱心と來たら實に大したもので、時間の立つことも氣が付かない、兎角する間に町の時計は十時を打ちました」。

【註】 On the same evening; (一頁参照)。

his day's work, 「其日一日分の仕事」。(十三頁参照)。

a small text book on astronomy, 「天文學の小教科書」。

On は 'to speak on' の on にして論説の題目を示す。

A speech on the war. 「戦争に関する演説」。

A lecture on literature. 「文學に関する講演」。

A treatise on algebra. 「代數學の書」。

belonged to——. 「——に屬した」即ち「——の所有物だ」。

That book belongs to my brother.

「其本は僕の兄弟の物だ」。

garret. 屋根下の部屋にて最下等の所なり。

to dive into. 「潜り込む」「探る」。

The man dived deep into the water.

「その人は水中深く潜り込んだ」。

mysteries. 「奧義」「神祕」。

that sublime science = astronomy.

As he read. 「讀んで行く間に」。

the earnestness of his attention.....

「その熱心なる注意が.....した」即ち「熱心に注意して讀んだので.....した」。

【参考】 His industry made him rich.

「彼は精出して働いたので金持になつた」。

Astonishment deprived me of my power of speech.

「あんまり驚いたので物が言へなかつた」。

nearly every fact. 「殆んど總ての事實」。

fixed..... on his mind. 「心に留めた」「記憶えた」。

So intent was he, that..... 「その熱心と云つたら大したもので、それが爲め.....」。「餘りに熱心なものだから.....」 (五十六頁参照)。

Such was his eloquence, that everybody was moved to tears.

「彼の能辯なる、聞く人皆感に迫つて涙を流した」。

perceived not = did not perceive. 「悟らなかつた」「氣がつかなかつた」。

flight of time. 「時間の經つのを」。「時間は過ぎ易きもの故 flight (飛ぶ) と云へるなり」。

5. 彼はその堅い床の上に臥て、盛んに考へを恣にした。二時と過ぎ三時と過ぎれど、一向眠られない、讀んだ新しい不思議な事の復習にそれ程氣を取られて居たのであります。遂に、流石の彼も身體が疲れて、つひにウツラウツラと眠つてしまつては、遊星や、衛星や、

彗星や、恆星の夢のみ見ました。

【註】 hard bed. 貧しき者の床は自ら hard なるべく、フワフワする (soft) は富者の床のことなり。

gave full scope to——. 「——に充分なる自由を與へた」即ち「——を恣にした」「——に耽つた」。

【類句】 The novelist gives rein to his imagination.

「小説家は想像を逞しくす」。

She gave vent to her feelings in sobs and tears.

「思ふ存分泣いて泣いて泣き廻いた」。

You must not give way to fits of passion.

「君は時々さう短氣を起すがそれは宜しくない」。

Hour after hour. 「來る時間も來る時間も」「幾時間も」  
冠詞のなきに注意せよ。 (百十三頁及百十八頁参照)。

【類例】 Day after day; night after night; soldier after soldier.

so. 「それ程も」「前を受く」。

absorbed was he in..... = he was absorbed in.....

「.....に氣を取られて居た」「.....に夢中になつて居た」。

He is absorbed in his studies.

「彼は學問に餘念がない」。

【類句】 He is immersed in pleasure.

「彼は快樂に入り浸つて居る」。

wearied nature gave way. 「疲れたる自然が屈した」

「身體が疲れて來た」。

nature = physical constitution; body.

【参考】 gave way = yielded.

Our men made an attack on the enemy, whose ranks began to give way.

「我軍敵を攻撃し、敵軍もやつと其勢衰へ始めた」  
fell into a slumber 「ウトウトと眠つた」。

【類句】 'to sink into a slumber' 'to drop into a slumber.'

filled with dreams of——. 「——の夢で充たされた」

「——の夢ばかり見た」。

moons. 「衛星」。

月は衛星中の最も主なるものなれば 'the moon' と云はば月なり。

comets. 「彗星」。

fixed stars. 「恆星」。

6. 翌朝この弟子の子は新しい感情を以て細工檯の所へ再び坐つて仕事を始めた; 但、此感情には、自分はハーマンの様に學校へ行けないと云ふことの、残念なと云ふ情が混じつて居たのであります。『だけれど夜、彼が眠つて居る時に、勉強は出来るは』と彼は獨語を云ひました。

【註】 resumed his place = took his place again = sat again.

at the work-bench. 「細工檯の所へ」。

At は或事に從事する意味を有す。

I always find you at your books.

「君は何時來て見て勉強して居る」。

The man died at his post.

「その人は職に斃れた」。

故に 'at school' 「授業中」 'at table' 「食事中」 'at sea' 「航海中」。

with this feeling, was mingled——. 「此感情には——

が混じて居た」。

one of regret = a feeling of regret.

即ち此 one は前なる feeling を再び反復するの面倒を省く一種の代名詞なり。

The step you have taken is *one* (=a step) of much risk.

「君の取った手段は甚だ危険なものである」。

I want a knife, but I have no money to buy *one*.

「僕はナイフが欲しいが、買ふ金がない」。

go to school. 「学校へ行く」「通學する」。

as well as. 「——の様に」。

at night. 「夜間」。

he is asleep = he is sleeping.

said to himself = soliloquized. 「獨語を云つた」。

7. 丁度その時にハーマンリーが工場へやつて参りました、ヂエムスの側へ行つて、イチメてやる積りで、申しました「地球は周圍が何程あるかね、ヂエイムズ」。

【註】 shop. 米國にては 'shop' と云へば「床屋」「靴屋」など手仕事をする店舗即ち工場の意にて普通所謂「店」は 'store' と云ふなり。

for the purpose of——, 「——する目的で」。

teasing. 「イチメる」。

How being round. 「周圍幾何」。

【参考】 { How big round is the earth?  
What is the circumference of the earth? (周圍)  
How wide across is the earth?  
What is the diameter of the earth? (直徑)

Twenty-five thousand miles. (百七頁参照)。

Twenty と five との間の hyphen (-) を忘るる勿れ。

8. ハーマンは、暫くは、さも吃驚した顔付をして居たが、やがて答へた、何だか冷笑する様な氣味で、——と云ふのは一體此子は親切心のある子どころか、それとは正反對に、非常に我儘で、他人に善いことをするよりは寧ろ之を害してやらうと思つて居たのであります、——『オヤ！ 君は急に驚く程利口になつたね！ では無論木星には衛星が幾個あるかは知つて居るだらうね！ サー、聞かして呉れ給へ』。

【註】 for a moment. 「暫くは」。

and then. 「それから」。

responded = replied.

with a sneer. 「冷笑の意を含む」。

【類句】 'with a smile.' 「ニコリ笑つて」 'with a sigh' 「溜息をついて」。

on the contrary. 「それとは正反對に」。

The prisoner did not succeed in escaping; on the contrary, he was caught in the endeavor, and thrown into prison.

「囚人はうまく逃げるどころか、却つて捕つて、牢へ入れられた」。

to injure = to do harm.

all at once. 「忽ちに」「急に」。

【類句】 all of a sudden. 「不意に」。

no doubt. 「疑も無く」「無論」。

You can tell = you know.

Jupiter. 「木星」。

Come. 「サア」。

Come, let us go. 「サー、参りませう」。

let us hear. 'Let us—' は「—しようではないか」と發議をす  
る時に用ふる形なるも此處にては 'let me—' 「—して御呉れ」  
と大差なく 'let me' よりは多少餘情のこもれる心持なり。

9. 『木星には衛星が四つあります』と、語調に何とな  
く得意の體で、ヂエイムズは答へました。

『では、無論、環は幾個あるか知つて居るね』

『木星には環はありませぬ。土星に環があります、木  
星には帯があります』と、ヂエイムズはキツパリと答  
へました。

【註】 Something of exultation in his tone.

(百二十五頁参照)。

exultation. 「喜悅」「得意」。

ring. 星を取巻ける輪狀形のもの。

Saturn. 「土星」。前の Jupiter と同じく昔の羅馬の神の名を取つ  
て付けしものにて、Saturn は Jupiter の父なり。序に其の他の星の  
名を云へば Mercury (水星)、Venus (金星)、Mars (火星)、  
Uranus (天王星)、Neptune (海王星)、皆古代の神の名を取りしもの  
なり。

belt. 木星、土星の表面にある帯形のもの、雲性のも  
のならんと云ふ、「雲狀帯」。

10. ハーマンは且は驚き且は心苦しくて暫くは黙つて  
居た、父の弟子位の奴が、あれ程自分よりは眼下に見  
て居た奴が、自分と同等な、しかもそれに就いて殊更  
に訊いてやらうと思つた件に就き(自分と同等な)、智  
識を持つて居る、——自分が故意に陥つた誤謬に就て  
彼を悟らすことが出来ると思つては。

【註】 with surprise and mortification. 「一つには意外

に思ひ、又一つには心苦しく思つた爲めに」  
to think that..... 「.....と思つては」。此の Infinitive  
は原因を表す。

He wept to see that sight.

「其有様を見ては泣いた」。

I am very glad to hear that you have succeeded.

「君の御成功を承つて甚だ喜ばしい」。

he esteemed so far below him. 「あれ程下目に見て居  
た」「あれ程見くびつて居た」。

【参考】 He is below me in the class.

「彼は組で私より(席次が)下だ」。

His attainments are below yours.

「彼の學力は君に劣る」。

should. 此 'should' は 驚愕、遺憾の情を表す。

I am surprised that you should say so.

「君がそんなことを云ふとは驚いた」。

I regret that I should be so badly thought of.

「そんなに悪く思はれるとは残念だ」。

should be possessed of = should possess.

(五十頁参照)。

equal to his = equal to his knowledge.

on the points. 「問題に就いて」。

in reference to = about. 「に就いて」「に關して」。

I have written to him in reference to the matter.

「その事に就いて彼に手紙をやつて置いた」。

【類句】 'in regard to' 'in respect to' 'in relation to.'

he had chosen to——. 「——することを選んだ」「特  
に——した」。

convict him of——. 「——に就て彼を悟らしむ」。

I convict him of his error.

「私は彼の誤つて居ることを悟らした」。

purposely=on purpose. 「故意に」「わざと」。

had fallen (into……) 「……に陥る」「……をする」。

Many people fall into the same error.

「同じ誤謬に陥る人が多い」。

11. 『君は何時からそんなに驚く程利口になつたか聞きたいね』とハーマンは、冷笑氣味で云ひました。『つい此頃で。私はあなたの天文学の本を一冊讀んで居ました』とヂエイムズは静かに答へました。

【註】 I should like to——. 「——したいものだ」。

I should like to go there with you.

「御伴致したうございます」。

比較:— { I like tea. 「御茶が好きだ」。  
I should like some tea. 「御茶を少々戴きたい」。

how long it is since=when. 「……してから何程に

なるか」即ち「何時……したのか」。

【参考】 { He died a long time ago.  
It is a long time since he died.  
When did he die?  
How long is it since he died?

Not very long=(it is) not very long (since I became……). 「餘り長くならぬ」即ち「つい此頃」。

I have been——. 「今迄——して居た」。

比較:— { I have written my composition.  
「僕はもう作文を書いてしまふた」。(完成)  
I have been writing my composition.  
「僕は(今迄)作文を書いて居た」。(繼續)

I had read the book.

「僕は(今迄に)此本を讀むたことがある」。(經驗)

I have been reading the book.

「僕は(今迄)此本を讀んで居た」。(繼續)

books on astronomy. (百二十八頁参照)。

12. 『君は僕の本をいじる何の要事があるか聞きたいね。(肝緊の) 自分の仕事へ注意をして居る方が良いよ』。『何も仕事は等閑にしたんぢやありません、ハーマンさん; 私は夜分、仕事が済んで後に、讀みました; それにあなたの書物を損めはしませんでした』。『損めなかつたつて、そんなことは如何でもよい。僕の本は取つて呉れ給ふな、宜いかね。で、唯其儘にほつといて呉れ給へ』。

【註】 ………what business you [have=you have no business. 「何の要事があるのか」「要事はない」。

【参考】 That is not your business.

「君の知つた事ぢやない」。

You had better——. 「——した方がよい」。

You had better consult a physician.

「醫者に見て貰つた方がよい」。

Had better の次の Infinitive に 'to' のなきに注意せよ。

I did not neglect it (=my work) 「仕事は怠りはしませんでした」。

I was done with——=I finished——.

Please return me the book, when you have done with it?

「讀みだら、書物を返して下さい」。

I wish to be done with the work as quickly as possible.

「一日も早く此仕事を片附けたい」。

I don't care=It does not matter to me. 「構はぬ」「ど  
うでもよい」。

if you did not hurt it. 「君が損<sup>いた</sup>めなかつたつて、そん  
なことは」。

You are going to——. 「——する積りではあるまい」。

I am going to write a letter.

「僕は手紙を書く積りだ」。

I can tell you=I assure you. 「良く云つて置くよ」「良  
いかね」「本當にさ」。

此句は念を推す時に用ふる句なり。

A rough apprenticeship it was for him, I tell you.

「彼に取つては中々つらい奉公だつたのさ」。

We were very happy little fellows, I can tell you.

「僕等はイヤどうも愉快な小さい奴共であつたのさ」。

you just let them alone. 此 you はなくても可なり。  
just=only.

let alone=leave alone. 「其儘にして置く」「ほつて置  
く」。

I won't disturb them if they let me alone.

「先方が此方を構はないで置くなら此方も邪魔はせぬ」。

13. 可愛さうにヂエイムズは、かくも不意に出て來た、  
此の意外の故障にあつてガツカリしてしまひました。  
買はうも自分の金はないし、さればと云つてその幸福  
にかほど必要になつた、本を借りられる様な人も心當  
りがない。で、彼は云ひました『何卒、ハーマンさん、  
その本を貸して下さい；よく大切に致<sup>どうぞ</sup>しますから』。  
『イヤ；嫌だ。イチつて呉れ給ふな』と怒つた返答。

【註】 Poor. 「可愛さうに」。

Jame's heart sank within him=James was disheart-  
ened. 「ヂエイムズはガツカリしてしまつた」。

at——. 「——に出會つて」「——を見て」「——を聞  
いて」。

He was angry at being criticized.

「批評をせられて怒つた」。

I was moved at the sight.

「僕は其光景を見て感服した」。

thrown in his way. 'In the way' は邪魔になるの意  
を有す。

【参考】 I shall be sorry to stand in your way.

「御邪魔になつては濟みません」。

Keep out of the way of the carriage.

「車の邪魔にならぬ様にしろ」。

On the way. 「途中」。

比較：— By the way. 「序に」。

In the way. 「邪魔」。

He had no money of his own. 「自分の金とてはなか  
つた」。

かかる場合に 'He had not his own money' とは通常云はず。

Has he a house of his own? No, he has no house of his own.

know of——. 「——のあると云ふことを知らぬ」「心  
當りがない」。

I do not know of such a man.

「そんな人は(あると云ふことを)知りませぬ」。

比較：— I know the man. 「知己だ」。

I know of the man. 「聞いて居る」。

【参考】 Don't you happen to *know* of any good teacher of English?  
 「若しや誰か良い英語の教師に御心當りはありますまいか」  
 I can't *think* of any one just now; but if I *hear* of one, I'll let  
 you know.  
 「今直ぐと云つて思ひ出しませぬが、誰か聞き込みましたら、  
 御知られ申ませう」

necessary to—— 「——に必要」

Do... ..lend me = Please lend me.

Do は lend の意味を強むるなり。

Do be quiet. 「静にしろつてば」

Do take some. 「どうか少し召上つて」

Do pity me. 「どうか御助けを」

I will..... 「.....致します」。(約束)

take good care of. 「大切にする」

You must *take* better care of yourself.

「君はもつと身體を大事にしなくてははいけない」

I will not. 「イヤだ」

極めて不遜なる言方にて通例謝絶の時は 'I am sorry I can't' と云ふ。

Will you please lend me the money?

I am sorry I can't it. 「御氣の毒だが出来ない」

Don't you dare. 疑問にあらず 'Don't dare' の意  
 なり。

Don't you ever forget it = Never forget it.

dare. 思ひきつてする義。

How dare you lay hands on me!

「貴様よくもおれに手に掛けたな」

14. ゼイムズ ウレイスはハーマンの我儘な氣質はよ  
 く承知して居たから、コツソリやる外、その本を使ひ

得る望は今や先づないと云ふことを悟りました、しか  
 もそれは彼の天性公明正大な主義として爲すとを潔し  
 とせざる所である。で、彼は自己の心中に造つたる  
 熱心なる渴望を醫する爲めに、よつて以て天文學の書  
 物を手に入れることを得べき方法を終日考へたのであ  
 ります。

【註】 knew well enough——to..... 「.....する  
 のには充分——をよく知つて居た」「篤と承知して  
 居たから.....した」

to be convinced. 「悟る」「確信する」

but little. 「殆んどない」

except——. 「——の外は」「——にあらずんば」

by stealth = in secret. 「竊に」「コツソリ」「ソツと」

He entered the house *by stealth*.

「彼はソツと其家に忍び入つた」

Do good *by stealth* and blush to find it fame.—Pope.

「陰徳を施し陽報を差ぢよ」

revolted.—前のfromに係る。「——を嫌つた」「——を爲  
 ずに忍びなかつた」「——を爲を潔しとしなかつた」  
 His clear intelligence *revolted from* the dominant sophisms of that  
 time.

「彼の明智當時流行の詭辯を忌む甚しかりき」

【類報】 'to shrink from' 「憚る」 'to flinch from' 「尻込する」

whereby = by which.

【参考】 Wherein, whereof, wherefore 等。

to quench. 「渴を止める」

15. 彼は日覆師の職を學びて居りました。既に二箇年間



弟子となつて居りまして、しかも勤勉で利口でありますから、道具も使ひ慣れて來たし、又その職業の所々によつては中々巧なところもありました。で、その日の仕事を終へて、唯獨り坐つて居りますと、ふいとかう云ふことが胸に浮びました、夕方に働いたら、多少金を得て、それで欲しい様な本が買へるかも知れないと。

【註】 trade. 鍛冶、大工、左官等の如き職人の職業を云ひ、之に對して官吏、教員、醫師の如き主として頭を使ふ者の職業は之を Professor と云ふ。

blind. 内部の事が外部へ見へぬ様にするために置くものにて簾とか屏風とか云ふ様な物。

Having been.....and being——

=As he had been.....and (as he) was——.

readiness, 道具を敏捷に使ひ得ることなり。

While sitting alone=While (he was) sitting alone.

for the day. 「其日の」。

it occurred to him=he thought.

by working. (百十六頁参照)。

in the evening. (一頁参照)。

such books as he wanted=those books which he wanted.

Read only such books as you can understand with ease.

「容易く分るような本ばかり讀むようにせよ」。

16. 抱へ主の承諾を得て、彼は首尾よく、隣人の何某より、一寸した仕事を請負つた；そこで毎晩働いて、間もなく、自分の本を買ふ丈けの金を得て、しかもまだ半弗

残つたんで、それで辭書の古本を買ひました。何時の夜見ても其本を熟讀んで居る；それから、朝は物が見へる丈け明るくなると直に、起きて讀んで居る。晝間、手は精出してそのあてがはれた仕事をやつて居まするけれど、心はその讀んだことに就いて考へて居たのであります。

【註】 By consent of——. 「——の承諾を得て」。

【類句】 'By permission of.' 「許可を得て」 'by order of' 「命に依り等」。

succeeded in. (四十八頁参照)。

a job. 「賃請仕事」「手間賃仕事」。

to purchase=to buy.

a book of his own. (百三十九頁参照)。

had a half dollar left. 「半弗残つて居た」。

I have two more left. 「もう二つ残つて居る」。

second-hand=not first-hand; not new; old.

Every night found him poring over his books.

こは英語獨得の語法にて之を邦語風に書き換ふれば

He was poring over his books every night.

【類例】 To-morrow may see me droven out into the heath.

(=I may be driven out into the heath to-morrow.)

「明日は身は沼澤の邊に追ひ出されて居るかも知れぬ」。

poring over. 「精讀する」。

下の pondering over と比較せよ」。

【類例】 'to talk over' 'to think over' 等。

During the day. At night に對す。

pondering over. 「默考する」「熟慮する」。

employed in——. 「——に従事して居る」「——をやつて居る」。

assigned him. 「彼に割當てられた」「あてがはれた」。

17. 丁度此時、慈善家が若干して、ヂェイムズの住んで居る町へ、彼の立派な設立物の一なる、徒弟圖書館をば設立致しました。で、彼は之へ頼んで、要る本を手に入れました。かくして、此弟子の子は將來有名にして有益な人物となる基礎を築いたのであります。二十一歳で、その職業をば修得し；尙其上に、一般のしかも科學的の知識を澤山に蘊蓄致しました。

【註】 It occurred.....that——.  
= It happened.....that——. 「.....と云ふことが起つた」。

a number of = some.

【参考】 a large number of = many; large numbers of = very many.

benevolent individuals. 「慈善家」。

those excellent institutions. 「彼の立派な設立物」。

圖書館、孤兒院、救貧院の如きを云ふ。

Apprentices' Library. 「徒弟圖書館」。

此所有格は目的を示す、即「徒弟用の」の義なり。

【参考】 a girls' school. 「女學校」 a childrens' hospital. 「小兒病院」。

applied (to this). 「之へ頼んだ」。

I have applied to him for employment.

「あの人に口を頼んである」。

lay. 「置く」「据える」「築く」。

was master of——. 「——の達人となつた」「——に

精通した」。

He is a master of fencing.

「彼は劍道の達人だ」。

In order to succeed in anything, one must be master of one's subject.

「何事にて成功せんとせば、その問題に精通しなければならぬ」。

Jack of all trades, and master of none.

「何事もやる人は、どれも満足には出来ぬ」。

what was more = moreover. 「其上に」。

【参考】 He is handsome and rich, and what is better, he is a gakushi.

「男がよくて金持で、それに學士と来て居る」。

A teacher must be a good scholar, and what is more important, he must be a man of character.

「教師たる者は學問がなくてはならぬ、否それよりも大切なことには、人格が高くなかつていけぬ」。

laid up. 「蘊蓄した」。(八十九頁参照)。

a vast amount of = a great deal of = much.

information = knowledge.

18. サー之より方面を轉じて青年學生、ハーモンリーが、その故郷の第一流の學校に於ける、更に進んで大學に於ける、進歩の跡を尋ねて見ませう。彼は自分は辯護士になるんだと云ふ思想が、やがて頭にはいつて來まして、之れがため單に職人とか商人とかになる積りの、他の子供に對しては自然輕蔑の念を懐くに至りました。

【註】 Let us——. 「——しようではないか」「——しよう」。

Let us play tennis. 「テニスをやらうではないか」。

mark. 「一々視る」「注意する」。

his native city. 「故郷」を譯する時 city ならば 'native city'.

town ならば 'native town' と云ふ如く譯すべし。  
 at college. 「大學に於ける」。冠詞のなきに注意せよ。  
 【参考】 'at school' 'to go to college' 'to leave school' 等。  
 he was to be——, 「將來——となるんだ」。  
 took possession of his mind = possessed his mind. 「心を占領した」「その氣になつた」。  
 【参考】 I am possessed with the idea that he will succeed.  
 「僕は成功するものと思ひ込んで居る」。  
 He is possessed with an evil spirit.  
 「彼は惡靈に取つ付かれて居る」。  
 this caused him to ——. 「之が彼を——せしめた」「之が爲めに——した」。  
 The rain caused the river to rise.  
 「雨の爲めに水が増した」。  
 to feel contempt for 「輕蔑する」。  
 merely = only.  
 designed for = intended for. 「——にする積りであつた」。  
 For は目的を表す。  
 My father intended me for a lawyer.  
 「父は私を辯護士にする積りであつた」。  
 He is made for a soldier.  
 「彼は軍人に出來て居る」。

19. さう云ふ人間は外にも兎角あり過ぎて困るがその様に、彼も亦學問が好きと云ふんぢやない。辯護士となることをば單に職人となるよりはずつと立派なものと心得て居た；そして、單に此理由のみで、辯護士となるを望んで居たのであります。(従つて)ヂエイムズウヲレイス、即ちかの可愛相な無學の弟子の如きに至つ

ては、全く心から輕蔑せられて、未だ嘗て少しでも好意を以て遇せられたことはありません。

【註】 too many. 「あり過ぎて困る」。

He is too fond of play.

「彼はどうも遊び好きで困る」

he had no love for learning = he did not love learning at all.

【類例】 I have a liking for him.

「僕はあの男が好きだ」。

The boy seems to have a taste for mathematics.

「此子は數學に興味を持って居るらしい」。

其他 'to have a fondness for' 'to have a passion for' 'to have a fancy for' 等。

for this reason alone. 「(外に理由があるんぢやない)

單に之れ丈けの理由で」。

Man alone has the gift of speech.

「言語の天賦を有するは唯だ人間ののみ」。

one = a lawyer.

(四十七頁参照)。

As for ——. 「——の方は(如何かと云ふに)」 「——の如きに至つては」。

As for Ben, he was less afraid of whipping than of his father's reproof.

「ベンの方は(如何かと云ふに)、鞭撻たるるよりも寧ろ父に叱られるのを恐がつて居た」。

As for fame, it is but little matter whether we acquire it or not.

「若し夫れ名譽の如きに至つては、之を得るも得ざるもさして關する所でない」。

illiterate = ignorant. 「無學」「無教育」。

town ならば 'native town' と云ふ如く譯すべし。

at college. 「大學に於ける」<sub>o</sub> 冠詞のなきに注意せよ。

【参考】 'at school' 'to go to college' 'to leave school' 等。

he was to be——, 「將來——となるんだ」<sub>o</sub>

took possession of his mind = possessed his mind. 「心を占領した」「その氣になつた」<sub>o</sub>

【参考】 I am possessed with the idea that he will succeed.

「僕は成功するものだと思ひ込んで居る」<sub>o</sub>

He is possessed with an evil spirit.

「彼は惡靈に取つ付かれて居る」<sub>o</sub>

this caused him to ——. 「之が彼を——せしめた」「之が爲めに——した」<sub>o</sub>

The rain caused the river to rise.

「雨の爲めに水が増した」<sub>o</sub>

to feel contempt for 「輕蔑する」<sub>o</sub>

merely = only.

designed for = intended for. 「——にする積りであつた」<sub>o</sub>

For は目的を表す。

My father intended me for a lawyer.

「父は私を辯護士にする積りであつた」<sub>o</sub>

He is made for a soldier.

「彼は軍人に出来て居る」<sub>o</sub>

19. さう云ふ人間は外にも兎角あり過ぎて困るがその様に、彼も亦學問が好きと云ふんぢやない。辯護士となることをば單に職人となるよりはずつと立派なものと心得て居た；そして、單に此理由のみで、辯護士となるを望んで居たのであります。(従つて)ヂェイムズウヲレイス、即ちかの可愛相な無學の弟子の如きに至つ

ては、全く心から輕蔑せられて、未だ嘗て少しでも好意を以て遇せられたことはありません。

【註】 too many. 「あり過ぎて困る」<sub>o</sub>

He is too fond of play.

「彼はどうも遊び好きで困る」

he had no love for learning = he did not love learning at all.

【類例】 I have a liking for him.

「僕はあの男が好きだ」<sub>o</sub>

The boy seems to have a taste for mathematics.

「此子は數學に興味を持って居るらしい」<sub>o</sub>

其他 'to have a fondness for' 'to have a passion for' 'to have a fancy for' 等。

for this reason alone. 「(外に理由があるんぢやない)單に之れ丈けの理由で」<sub>o</sub>

Man alone has the gift of speech.

「言語の天賦を有するは唯だ人間の才」<sub>o</sub>

one = a lawyer.

(四十七頁参照)。

As for ——. 「——の方は(如何かと云ふに)」 「——の如きに至つては」<sub>o</sub>

As for Ben, he was less afraid of whipping than of his father's reproof.

「ベンの方は(如何かと云ふに)、鞭撻たるより寧ろ父に叱られるのを恐がつて居た」<sub>o</sub>

As for fame, it is but little matter whether we acquire it or not.

「若し夫れ名譽の如きに至つては、之を得るも得ざるもさして關する所でない」<sub>o</sub>

illiterate = ignorant. 「無學」「無教育」<sub>o</sub>

the least degree of, 「少しでも」(六十頁参照)。

【参考】 Not in the least. 「少しも……せぬ」。

kind consideration. 「好意」「親切」。

20. 十八歳にして、ハーマンは東方のとある大學へ入れられて、其處で二十歳になるまで留まつて、卒業し、文學士と云ふ立派な肩書を得て歸つて來ました。ヂエイムズが丁度その年期があけた、しかもその日にハーマンは辯護士の免狀を取つたのであります。

【註】 eastern universities. Boston, New York の如きを云ふ。

the very day = on the same day. 「しかも其日に」。

(百十九頁参照)。

My grandfather died on the *very day* that I was born.

「祖父は私の生れたしかも其日に死んだ」。

apprenticeship. 「弟子奉公の年期」。

was admitted to——. 「——の中に入るを許された」。

即ち「——の免狀を得た」。

the bar.

此 'the' には注意すべし、元來 'bar' とは法廷に於ける辯護士席の欄杆の意なれど 'the bar' と云へば「轉じて所屬辯護士全體」又は「辯護士の職」の意となる。

同様に 'the bench' は「判事全體」又は「判事の職」、'the law' は「法律業」、'the court' は「掛り判事全部」の意となる。

He was called to *the bar* at twenty, and was soon elevated to *the bench*.

「彼は二十歳で辯護士に任ぜられ、やがて判事に登用せられた」。

He gave up *the church* for *the army*.

「彼は牧師を止めて軍人となつた」。

21. 何かの原因により、ヂエイムズも亦法律を以て自己の専門の職業としようと決心致しました。それ故に、法律上の知識を得ることに、そのよく訓練の届いた精神の全力を注ぎました。彼が自ら定めたる學問を倦まず、疲まず熱心に研究することに二年過ぎまして、それから彼は辯護士の登用試験の志願を致しました。

【註】 From some cause. 「何等かの原因により」。

比較: — { *From some cause.* (原因)  
*For some reason.* (理由)

profession. 職業 (醫師, 辯護士の如き)

To ——, ..... he bent all the energies. 「.....に

全力を注いだ」。

an untiring devotion to ——. 「——に對する不屈不撓の熱心」。

He has *devoted* his life to scientific research.

「彼は科學の研究に一身を委ねた」。

assigned himself. 「已に課した」「自ら定めた」。

made application for = applied for. 「志願した」。

従つて志願者は 'an applicant.'

admission to the bar. 「辯護士登用試験」。

(前節参照)。

22. 若きウレイスは多少賞められる様な成績で試験に及第した、ところが始めて雇はれた事件が生憎非常に困難な奴でありまして、彼のありとあらゆる技倆を揮はんけりやなりませんでした; 相手方の辯護士はハーマンリーでありまして、この父の弟子(何かあらんと

云ふ風に) 此上もない輕蔑の心を懷いて居りました。

【註】 Young Wallace. 固有名詞たる人名の前に形容詞來る時

は通常冠詞を取る、

*The noble Brutus; the envious Casca; the famous Napoleon* 等。

されど 'young' 'old' 'poor' 等の如く常に多く用ひられ單に多少の情をこめたるのみにて別に深き意味のなきものにあつては定冠詞は取らず:

*Poor little Ben; bold Robin Hood* 等。

applause. ヤンヤと持て囃さるゝ事。

on which. 此の 'on' は下の employed に係る。

【参考】 I am employed on a book 「僕は今書物を書いて居る」。

chanced to be——=happened to be——, 「偶然——であつた」「生憎——であつた」。

*I chanced to meet him in the park.*

「僕は彼に偶然公園で逢つた」。

one of difficulty=a case of great difficulty=a very difficult case. (四十七頁及百十六頁参照)。

on the opposite side. 「相手方の」。

比較:—  
{ *On the side of*— (—の側)  
{ *By the side of*— (—の側)

entertained=had,

the utmost contempt (for). 「此上もない輕蔑」。

25. 事件は進行した。満場水を打つたる如く静まり歸り(之から如何なることかと)皆非常に熱心に興味を以て聞いて居りました、すると若い見知らぬ人が本件の辯論を開始せんと法廷にスツクと立ち上りました。輕

侮の微笑をばハーマンリーは唇の邊に湛へて居ましたが、ウラレイスは之れに氣が付かない。事件の主要なる點をば平易にして、しかも簡明なる言語を以て判官諸士に呈示し; 其理非曲直に關して二三簡単に述べて置いて、この青年辯護士は席に着いて、被告に答辯の機會を與へたのであります。

【註】 came on=proceeded.

a profound silence. 「深き沈黙」即ち「森として水を打つたるが如し」との意。

marked. 「著しき」「非常なる」。

interest. 「感興」。角力を見て何方が勝つか、小説を讀むで此先如何に成行くか、早く知りたし知りたしと思ふの情が即ち 'interest' と云ふものなり。さればこそ面白きことをば 'interesting' と云ふなれ。

the young stranger=Wallace.

curled. 「うづまく」即ち「湛へる」。

saw it not=did not see it.

prominent=chief.

presented=shown.

in—. 「—で」。

【参考】 'to speak in English' 'to write in red ink' 等。

concise. 「簡單明瞭」。

the court.

(百四十八頁参照)。

bearing upon=relating to; about.

How does this *bear on* the question?

「如何して之が本件に關係があるのか」。

took his seat = sat.

gave room for——. 「——に(席を)譲つた」。

【参考】 All the people present rose and *made room for him*.

「居合す人々皆立ち上つて、彼に席を譲つた」。

defense (or defence). 「被告の答辯」。

24. やがて、ハーマンリーは立ち上がつて、その所謂『博學なる兄弟』の呈示したる點々に就き極めて喋々と論及し始めました。列席の人々の中にはその敵手の辯護士が最初發したる輕侮的の語調を聞いてはウラレイスも目に光の燃え、顔にさつと閃光のあらはるゝを認めめた者もありました。けれども之はやがて消え失せて後は注意と自信の態度とになりました。それから約一時間ばかり経つた頃ハーマンはさる得意の體で再び席に着きましたが、その後續いて、ウラレイスが再びやをら身を起すと、憐むが如く蔑むが如き微笑をもらして居りました。

【註】 was on his feet = was standing.

【参考】 I kept *on my legs* all day.

「私は終日立ち通しであつた」。

began referring to——. 「——に論及し始めた」「——に就いて論じ始めた」。

【参考】 He *began to learn* (or *learning*) English last year.

かく 'began' 及び 'cease' 等は其次に Infinitive, Gerund 何れをも取るを得るも、之と同義なる commence, stop 等は常に Gerund を取るは注意すべきことなり。(百頁参照)。

He has *commenced to study* English.

It has *stopped raining*.

his "very learned brother." 「彼の所謂博學なる兄弟」。

こは Harmon Lee の用ひたる言葉を其儘取りしものにて Wallace のことを嘲弄して云ひしものなることは云ふまでもなし。

in a very flippant manner = very flippantly 「譯も分らず唯ベラベラと」「喋々と」。

There were those present who.....

= There were the men present who.....

「.....したものが其場に居た」「居合す人々の中に.....した者があつた」。

marked = noticed; saw.

以下 Wallace が多少憤怒の體なりしを云へるものなり。

passed over 「サツと現はれた」。

【参考】 A change has *come over* the sky.

「空模様が變つて來た」。

A sense of melancholy *came over*.

「何となく憂鬱な感が起つて來た」。

countenance = face.

his antagonist at the bar. 「敵手の辯護士」即ち Harmon Lee. (百四十八頁参照)。

These. 前の light 及び flash を受く。

gave place to—— = made room for—— 「——に席を譲る」「代りに——が來る」。

Her quiet, submissive air immediately *gave place to* fierce sternness.

「その靜かな柔順な態度は忽ち打つて變つて恐ろしい嚴格なものとなつた」。

The old should *give place to* the young.

「新陳代謝」。

conscious power. 「自己に力あるを自覺せるなり」。  
resumed his seat=sat again. (百五十二頁参照)。  
exultation. 「喜悅」「得意」。

which was followed by——. 「その得意の顔付は——  
に従はれた」即ち「得意の顔付をした後に——し  
た」。

25. けれども十分と經たない間にその微笑は驚愕、苦  
痛、恐慌の顔色と變つた。青年辯護士の最初の演説  
は彼の冷靜、深遠、秩序的思惟の人にして——法律問  
題並に先例に極めて明るい——しかも、特に、實際的  
にして該博なる識見を持つたる辯護であることを示し  
た。彼の坐つた時、事件の中肝要なる點は一として論  
せざるなく、論じた點は一として、之以上の説明を要  
するものはありませんでした。

【註】 changed to——. 「——に變つた」。

此 'To' は 'Into' の義。

All things change to something new.

「萬物は常に新なる物に變ず」。

The caterpillar changes into a butterfly.

「蠅は變じて蝶になる」。

Heat converts water into steam.

「熱は水を變じて蒸氣と爲す」。

alarm. サ一變だと騒ぎ出すこと、「恐慌」。

skilled in——. 「——に巧な」「——に長けた」「——  
に明るい」。

He is skilled in teaching English.

「彼は英語の授業が巧い」。

Few Japanese are proficient in German

「日本人に獨逸語の巧い人は少い」。

authorities. 「典據」「先例」。準據するに足るべき先例又  
は大家の説、轉じては大家其者を云ふ。

more than all=above all. 「とりわけ」「特に」。

practical. 空理空論を事とする所謂 theoretical の反對。

comprehensive=broad.

had been left untouched. 「論せず置く」。

It would be better to leave it unsaid.

「云はぬが花だ」。

He has left no stone unturned in order to attain his object.

「彼は其目的を達せん爲めに百方盡くさざる所なかりき」。

none=no point (in the case).

further. 「之以上の」。

比較:— { Far farther farthest. (距離)  
(Forth) further furthest. (程度)

elucidation=explanation.

26. リーは徒に彼の文句を曲解しその論據を衝き破らう  
として、簡単に續いて述べました。けれども自分は振  
る度毎に何時も刃の向く武器と戦つて居るんだ(到底  
敵はぬ)と思ひました。で、再び席に着いた時に、ウ  
フェイスは單に自分は之以上議論はせずして、本件を  
判官諸卿に御任せする覺悟であると申しました。

【註】 followed. 「後に續いて述べた」。

in a vain attempt to——. 「徒に——せんとして」。

torture. 「コヂツケる」「曲解する」。



break down = crush. 「衝き破る」「破壊する」。

position. 「論據」。

contending with. 「戦ふ」。

【類句】 'to fight with' 'to struggle with' 等。

weapons whose edges were turned at every blow.

「振る度毎に何時も刃が向いて居る」所謂「八面皆刃」。

議論の鋒先の鋭きにたとへたることは云ふまでもなし。

remarked = said.

was prepared. 「覺悟である」。

to submit, 「任せる」。

They submitted the controversy to the arbiters.

「その争論を仲裁者に任せた」。

the court.

(百四十八頁参照)。

25. 事件はそれで(判官に)任せられ、判決は即座に下されまして原告、即ちウヲレイスの托訟人の方の勝になり。其時よりしてデエイムズ ウヲレイスはその眞價を認めらるゝこととなりました。かくしてこの輕蔑せられたる弟子は敏腕にして深遠なる學識のある辯護士となり、その眞の手腕及びその眞の人物の(優れたる)爲め、世人の尊敬を受けましたが、一體此兩者を兼備する時は、その人は必ずやその眞價を認めらるゝものあります。其日より十年して、ウヲレイスは判事に登用せられましたけれど、リーは依然第二流の辯護士で、遂に其位置以上に登らなかつたのであります。

【註】 accordingly = so.

unhesitatingly = at once.

in favor of = for.

比較:—A decision was made  $\left\{ \begin{array}{l} \text{in favor of A. (Aの勝),} \\ \text{against B. (Bの敗).} \end{array} \right.$

Time was  $\left\{ \begin{array}{l} \text{in favor of Russia. (利あり).} \\ \text{against Japan. (利あらず).} \end{array} \right.$

client. 訴訟依頼人。

took his true position. 「その眞の位置を取つた」「眞

價を認められた」。

was esteemed for —. 「—の爲め尊敬せられた」。

For は原因を示す。

The general praised his men for their bravery.

「大將は部下の勇氣を賞めた」。

Ueno is celebrated for its cherry trees.

「上野は櫻で名高い」。

moral worth. 「道德上の價值」即ち「人物」。

when combined = when they are combined.

ever = always.

their possessor = the possessor of real talent and real moral worth.

was elevated to the bench. 「判事に登用せられた」。

(百四十八頁参照)。

while = but. 「然るに」。

above (アバヴ) = higher than.

Above の反對は below.

He is above me in the class.

「彼は組で(席次が)私より上だ」。

## An Ingenious Stratagem

### 妙計

- I. 戦争の初にあつて、或軍曹と十二人の兵卒とがニューハムシャー州の、荒野を通つて旅を致しました。その道筋が何處の殖民地よりも遠く距つて居りますから、森の中で露營をして夜を明さんけりやなりませんでした。その旅の初日には格別の事も起りませんでした；が、二日目の午後に、彼等は、高い所から、一隊の武装せる印度人が此方へ向つて進んで来るのを認めました、其人数は自分共の方よりはちと越して居たのであります。

【註】 the war. 云ふ迄もなく亞米利加の獨立戦争。

armed men. 「武装せる人」即ち「兵卒」。

route. 「道筋」。(百十頁参照)。

remote from=far from.

settlement. 「出来たばかりの殖民地」。

they were under the necessity of encamping.

=they had to encamp.

【参考】 The army was under the command of General Kuroki.

「その軍は黒木大將の指揮の下にあつた」。

I am under no restraint whatever.

「僕は何の束縛も受けぬ」。

encamping. 「屯營する」。

over night. overnight と一語に書くこと多し。

He stayed there overnight.

「彼は其處で一夜宿つた」。

The candle will not last overnight.

「此蠟燭は朝までもてない」。

但し overnight は時として「前夜」「宵に」の意味に用ふることもあり。

I packed up my clothes overnight and was ready to start at day-break.

「前夜に着物を包んで置いて夜明に立つ積りであつた」。

Nothing material = Nothing important.

(九頁参照)。

excursion = journey.

the second = the second day.

an eminence = a height. 「高い所」「丘」。

Indians. 無論亞米利加インヂヤン。

rather. 「どちかと云へばチト」

their own = their own number.

2. 白人がその赤色の同胞に見ゆるや否や、後者は相圖をした、で二つの組が睦まじく互に近寄りました。印度人は軍曹や其部下の者共に逢うたのを非常に満足して居る様に見えました、彼等は軍曹等をば自分共の保護者だと思つて居ると申しました。彼等は自由の爲めに熱心に斧を上げたる種族の者であつて、共同の敵を撃退するには全力を盡す決心であると云ひました。

【註】 perceived = seen.

their red brethren = Indians.

【参考】 Brother { brothers (兄弟)  
                  { brethren (同胞)  
                  { Cloths (反物)  
                  { Clothes (着物)

the latter. their red brethren を指す。

【参考】 Health is above wealth; the latter (=wealth) does not give so much happiness as the latter (=health).

「健康は富有に優る；後者は前者程幸福を與へず」  
each other. 「互ひに」。三者以上の「互」は 'one another'.  
in amicable manner = amicably = friendly; peacefully.  
to be gratified with 「満足する」。

I am gratified with the result.

「其結果で満足だ」。

【類句】 'to be satisfied with' 'to be contented with' 等。

observed = remarked; said.

considered as —, 「——だと考えて居る」。

belonged to —, 「に屬する」「——の者だ」。

raised the hatchet. 「斧を上げた」。こは亞米利加印度人の  
習慣にして、「戦をなす」の意なり。印度人は愈々戦を宣する場合に  
は斧を上げ (to 'ake up the hatchet)、和を結ぶ場合には之を埋め (to  
bury the hatchet)、更に戦を始むる時には斧を掘り起す (to dig up  
the hatchet) と云ふ。

with zeal = zealously. 「熱心に」。 (四十二頁参照)。

cause. Cause は元來は辯護士の引受ける訴訟事件、轉じて總て其爲めに力を盡すもの即ち「味方」。

【参考】 I live for the cause that lacks assistance, for the wrong that needs resistance.

「余は援助を要するものの爲め、抵抗を要する惡の爲めに生く」。

No man could be truer to the American cause than Sergeant Jasper.

「ヂヤスバ軍曹以上亞米利加方に忠實なる者はなかつた」。

to do all in their power = to do their best. 「全力を盡す」。

【参考】 I will do anything in my power.

「身にかなふことなら何なりと致します」。

to repel. 「退ける」「追ひ拂ふ」。

the common enemy. 英軍を指す。

3. 彼等は陸まじく握手をした。互ひに暫くは談話をし、  
それでは御機嫌宜しうと互ひに挨拶して、遂に、彼等  
は分れ、銘々の組が違つた方向へ旅をしました。一哩  
かそこらかの距離進んだ後、軍曹は、此邊の色々の種  
族は皆知つて居て、その戦争の何方へ各々ついて居る  
かは承知をして居たんですから、その部下の者共を止  
めて、次の様なことを申しました。

【註】 in friendship = friendlily.

比較:—Let us part in amity. 「陸まじく別れよう」。

exchanged mutual good wishes. 「互ひに挨拶を交換した」。

双方 'good-by' と云ひたるなり。

at length. 「遂に」。

was acquainted with = knew well.

the contest = the war.

respectively. 「銘々」「それぞれ」。

The boys went to their respective homes.

「子供は銘々自分の宅へ歸つた」。

were ranked. 「類別する」。之はどちら方之はどちらと分れたるなり。

halted = stopped.

addressed them in the following words = told them as follows.

4. 『我勇敢なる一行の諸君、吾々は最も要心をしなければならぬ、そでないと或は今夜が最後となるかも知れない。自衛のために非常なる奮發をしないと云ふと、明日の日の出る頃は吾々は永遠に眠つて、再び起きないようなことになつて居るのかも分らない。諸君、かく申せば、諸君は定めし意外に思ふだらう、又吾々は今最もひどい敵の所を通つたのだ、そ奴共は、諸君が今目撃した通り偽りの友誼の假面を被つて、吾々を大丈夫だと安心をさして置き、かくして、吾々が夜半微睡して用心をして居ない時に、何等の抵抗もなくして、吾々の命を断たうとして居るのであると云ふことを知らしたら、諸君はよもや安心は出来まい』。

【註】 or = or else. 「然らずんば」。

You must work hard ; or you will fail.

「しつかり勉強せぬといけない；そでないと落第する」。

our last = our last night.

Should we not make..... = If we should not make .....

Should any one call, say that I am out.

「誰か訪ねて来たら、出掛けたと云へ」。

extraordinary = not ordinary ; uncommon.

to defend ourselves. 「己れを防ぐ」「自衛」。

to-morrow's sun may find us ..... 「明日の日の

出た時は吾々は.....なつて居るかも知れぬ」の意。  
(二十九—三十頁参照)。

sleeping, never to wake. 「眠つて、再び起きぬ」。

此の Infinitive は結果を表す。

Byron left his native land never to return (=and never returned).

「バイロンは故國を去つて再歸らず」。

He worked hard only to fail (=but failed).

「勉強の結果徒に落第するのみであつた」。

The army marched forth only to be defeated.

「負けに行つた様なものだ」。

Surprised at——. 「——を聞いて驚く」。

(四十二頁参照)。

He was astonished at the news.

「その報知を聞いて仰天した」。

your anxiety will not be lessened. 「心配は減せぬ」。

「中々安心は出来ぬ」。

inveterate = obstinate ; violent.

foe. 「仇」「敵」。

under the mask of——. 「——の假面に隠れて」「——

の假面を被つて」「——の風を装うて」。

Under the mask of religion, the man gained the confidence of the people.

「宗教の假面を被つて、その人は人民の信用を得た」。

【参考】 He travelled under the guise of a monk.

「彼は僧侶に姿を扮して旅をした」。

【類句】 'under the disguise of' 'under the cloak of' 等。

witnessed. 實地目撃した。従つて 'a witness' は「證人」。

would..... 「.....する積りである」。  
lull us to security. 「吾々を安心して大丈夫だと思  
はず」。

The sough of the wind lulled me to sleep.

「風の音で寝ついた」。

【参考】 The nurse sings the child to sleep.

「子守は歌を歌うて子供を寝かす」。

He starved the child to death.

「その子供をば餓死せしめた」。

in the unguarded moments. 「用心をして居ない時に」  
「不意に」。

此句は轉じて thoughtlessly (ウカと)の意に用ふ。

I babbled about it in an unguarded moment.

「ウカと喋つてしまった」。

without resistance. 「何の抵抗もなく」 「易々と」。  
seal our fate = put us to death.

His fate is sealed. 「命運盡きぬ」。

5. 部下の者共は仰天して此短い演説を聴いて居た；彼等の中一人として今出會つたのは味方の者でないのか知らんなどと云ふ疑を懐いて居る者はありませんでしたから、その驚きは尙更でありました。彼等は早速相互の保護と敵の打破との爲めに何か計畫に取りかからうと決心をしました。その隊長の發議により、次の計畫を採用して之を實行したのであります。

【註】 listened to. 「傾聴した」。

harangue (ハラング) = loud speech

not one. 「一人もなかつた」。

entertained. 「懐く」。

the suspicion but that..... 「.....したのぢやないのか知らんと云ふ疑」。

but (that) = that.....not.

I can hardly persuade myself, but you are alive.

「僕は君は生きて居るとしかどうも思へない」。

encountered = met.

to enter into = to engage in.

Enter を單に「入る」義に用ふる時は前置詞を要せず。

比較:— { He entered the room.  
A bail entered into the body.

【参考】 He entered into conversation with her.

「彼は其女と談話を始めた」。

On leaving school, he entered into business.

「學校を卒業すると直に、實業に就いた」。

He entered into the project of establishing a bank.

「彼は銀行を設立する計畫に加はつた」。

By the proposal. 「發議により」。

their leader = the sergeant.

6. 彼等が夜營の爲めに選んだ所は水の流の近くであつて、其流が彼等の背面を掩護するの役に立つのです。で、大きな木を仆して、その前へ、段々夜が近づくと、盛んなる火を焚いた。各自、自分の身體の大きさ位の、木の丸太を切つて、それを奇麗に毛布に包み、片方の端に帽子を着せ、それを火の前へ置いて、敵が瞞けて、それを人間と間違へささうとしたのであります。

【註】 served to —. 「—するに役立つ」 「—した」。

rear. 「背面」。

【参考】 front (正面), flank (側面)。

felled = cut down.

比較: { fall fell fallen. (自動)  
fell felled felled. (他動)

about the size of = about as large as.

rolled — in..... 「.....に包むだ」。

【参考】 The body was wrapped in white cloth.

「死骸は白布に包んであった」。

that the enemy might..... 「.....敵が.....せん  
爲めに」。

He worked hard that he might succeed.

「彼は成功せんが爲め勉強した」。

かく 'in order that' 又は '(so) that' は 'may' 又は 'might' と  
合して目的を表す。

mistake for..... 「.....と間違へる」。

I mistook him for his brother.

「僕は彼をその兄弟と間違へた」。

【参考】 I took him for a foreigner.

「僕は彼を西洋人かと思つた」。

7. 數に於て軍曹の一行と等しく、かく丸太をば支度さし、それをば容易に丁度それ丈の兵卒と間違へられる様に、極めて巧に列べて置いて、人々は銃には彈丸をこめて、例の仆れた木の蔭に身を隠した、その時には夕の影は既に附近をとざして居りました。火は夕晚

く迄絶えず燃やして置いて、それからは消え次第にして置きました。

【註】 fitted out = furnished; equipped 「支度する」 「装束を整へる」。

【参考】 The ships were fitted out.

「船は艤装が出来た」。

equal in —. 「—に於て等しい」 「—が等しい」。

The two armies were about equal in number.

「兩軍は數に於ては略ぼ等しかった」。

【類例】 'unequal in —' 'same in —' 'different in —' 等。

so many 「丁度それ丈の」 (十八頁参照)。

So they began to spin about him like so many spiders.

「かくして彼等は丁度それ丈の蜘蛛の如くに絲を吐き始めた」。

He looks on his children as so many encumbrances.

「彼は子供をば丁度それ丈の邪魔物みたいに思つて居る」。

by which time 「それ迄に」 「その時は既に」。

比較: { I shall be here till six.  
「六時迄此處に居る」。  
I shall be here by six.  
「六時迄に此處へ来る」。

shades of evening 「夕の影」

【参考】 Shades は darkness の義なり。

The shades of night were falling fast.—Longfellow.

was kept burning. 「始終燃やして居いた」。

【参考】 I kept standing all day.

「一日立ち通したつた」。

I am sorry to have kept you waiting.

「御待たせ申して済ませなんだ」。

was suffered to — = was allowed to —. 「勝手に」

—さした」「—する儘にして置いた」。

I will not *suffer* myself to be ill-treated.

「僕は虐待をせられて黙つては居らぬ」。

to decline 「衰へる」「消える」。

8. 印度人が今にも攻撃して来るかも知れんと云ふ、實に危機一髪と云ふ時が段々と近づいて来た；けれども軍曹の部下の者は大心配でその隠場所になつとして居て、夜半近く迄は、何等敵の行動も認めなかつた。夜半近くになつて始めて、一人の丈の高い印度人が、火のチラチラする間に、音は少しもさせないで、見た所では陣營の邊の誰にも姿を見せまいと百方出来得る丈けの手段を講じて、恐るゝ恐るゝ此方へ進むで来るのが認められたのであります。

【註】 critical 「キハどい」「危機一髪と云ふ」。

At length 「夜半近くになつて遂に」。

through— 「—を通して」「—の間に」。

【参考】 And suddenly *through* the drifting brume the blare of the horns began to ring.

「折しも漂ふ霧の間に響き始めの笛の音」。

cautiously 「要心をして」「恐るゝ恐るゝ」。

apparently=seemingly 「見た所では」。

in his power. (百六十一頁参照)。

to conceal himself from— 「—に身を隠す」。

「—に知られまいと」。

about the camp 「野營の附近に」。

He lives somewhere *about* here.

「彼は何處か此邊に住んで居る」。

9. 一時は、その動作によつて見れば何でも怪しな奴が出やせぬかとそれを見張をする爲めに番兵を置いてあつて、そ奴が一大事と云ふ場合には警報をするとなつて居るかも知れないとそれを疑つて居る様でした；が、附近一面皆静かならしいから、爪立つて、今迄よりは大膽に思ひ切つて前に出て、指を動かしながら木の丸太、否彼が人間が静かに休むで居るんだと思つた物を一つ一つ數へて居る所が明かに見へました。

【註】 For a time 「一時は」。

【参考】 For some time 「暫くは」。

his actions showed him to be—. 「彼の動作が—なるを示した」「彼の動作によつて—なることが分つた」。

any unusual appearance 「少しでも怪しい奴が出たら」の意。

give the alarm 「警報を與へる」。

in case of—. 「一朝—の場合には」。

*In case of emergency* 「一旦緩急あらば」。

all appearing quiet=as all appeared to be quiet.

【参考】 All was confusion and horror.

「全くの混雜恐怖でありました」。

ventured forward 「思ひ切つて前へ進んで出た」。

rested upon his toes=on tiptoe 「爪立つて」。

to move his finger as he numbered 「指を動かしながら數へる」。

【参考】 He trembled as he spoke.

「ブルブルと慄へながら言ひました」。

I caught a rope as I ran.

「繩を捕まへながら走つた」。  
or what he supposed to be——。「否彼の——と考へた  
もの」。

【参考】 He is *what you call a haikara*.

「あれが所謂ハイカラさ」。  
a human being. 「人間」。

【参考】 a supreme being 「神」。

enjoying repose 「休んで居る」「快く眠つて居る」。

【注意】 英語にては何で快いことをするをば 'enjoy,' 苦しいことをす  
るをば 'suffer' と云ふ。

10. 人数に就いて、尙充分に納得をする爲めに、彼はそれ  
をばも一度數へ直して、それから注意して退きました。  
その後續いて又一人印度人が來て、之も矢張同じ様  
なことをして、同じ様な風で退きました。やがて全部  
隊、人数十六人、が近づいて來て、その今に犠牲とな  
るだと思つた奴等<sup>ものども</sup>を盛んに視て居ました。

【註】 To satisfy himself 「満足する爲めに」「氣に足  
る様にする爲めに」「念の爲めに」。

【参考】 If these do not *satisfy* you, I can do nothing more.

「之で御氣に足らずば、私の方には之以上致方はありません」。  
as to = about.

What did he say *as to* the matter?

「あの件に就いては先方では何と云ひましたか」。

They argued *as to* which was the better.

「どちらが良いかと云ふことに就いて議論をした」。

counted over 「數へ直した」。「Over」には反覆の意  
を含む。

a second time = once more.

(百二十七頁参照)。

was succeeded by——。「——に續かれた」「其後へ  
——が來た」。

went through = performed ; did.

Every day, for two or three weeks, he *went through* the same task.

「それから二三週間、毎日、同じ様な事を致しました」。

The scholar *went through* his recitation creditably.

「生徒は暗誦を立派にやりました」。

【参考】 I have *got through* my lessons.

「課業をやつて済んだ」。

greedily = eagerly.

eyeing = looking on.

their supposed victims. 今に殺して犠牲になるがと思

つて居るもの、實は丸太。

11. 敵の卑劣殘酷なる目的を觀破したる時、しかもその  
敵が今や殆んど鐵砲を打ち掛けずには居られない程近  
くに居た(その時の)軍曹の部下の者の心持は如何であ  
りましたらう、筆に書いたよりも諸君の想像に任した  
方がよく分ります。けれども、軍曹の計畫は、野蠻人<sup>どんな</sup>  
が銃を放つ造は、その隠れ場所に靜かにして居て、そ  
れで以て自分等の方の砲火をば有効ならしめ、且(敵  
の)反抗をば弱からしめようと云ふのでありました。

【註】 can be better imagined than described 「書いた

よりは想像した方がよく分る」。

they could scarcely 「出來兼ねた」「やつと——した」。

be restrained from = be kept from.

【参考】 He tried to *restrain* his anger.

「彼は怒を抑へて居ようとして居た」。



I could not *keep from* laughing.

「笑はずには居られませざつた」。

firing upon 「目がけてうつ」「砲撃する」。

*Upon* には攻撃の義あり。

(八十六頁参照)。

The enemy advanced *upon* the fortress.

「敵は城を目がけて進むた」。

They made an *attack on* my house.

「私の家を襲うた」。

The forts *fired on* the ship.

「城砦は船を砲撃した」。

to have his men remain silent. 「部下の者を静にして居らする」。

此 'remain' は Infinitive の 'to' を省きしものなり。

I'll *have* the boy *brush* your clothes.

「子供に御召物の塵埃を落させませう」。

*Have* some one *carry* it into my room.

「誰かにそれを部屋へ持たしてやつて下さい」。

比較:— { I will *have* my servant *carry* it for you.  
I will *get* my servant *to carry* it for you.

that—might..... (百六十六頁参照)。

less formidable = less fearful 「恐るべきことが少い」即ち「弱い」。

12. 彼等の躊躇は長い間ではなかつた。印度人は一體となつて、用心に用心を加へて小距離の所まで進んで來た；それから止まつて、よつく狙つて、例の生命なき丸太を目がけて發砲し、恐ろしい喊聲を揚げ、忽ちにして鉞と頭の皮を剥ぐナイフとを携へ、生きてるは片端

から片付け、死したるはその頭の皮を得て呉れんとて、突進して來ました。

【註】 suspense 「中ブラリ」「躊躇」。

was not of long duration 「長い間ではなかつた」。

比較:— { This is a matter of *great importance*.  
This matter is of *great importance*.

in a body 「一體となつて」。

The teachers resigned *in a body*.

「職員擧つて辭職した」。

【類句】 'In a line' 「一直線に」 'in a lamp' 「一塊に」等。

【参考】 'At a bound' 「一躍して」 'at a blow' 「一撃の下に」等。

within a short distance. 下に 'of the sergeant's party' を入れて見よ。

【参考】 The house is *within* a mile of the town.

「その家は町から一哩以内の所にある」

took deliberate aim 「よく狙つて」。

*I took aim* and fired.

pieces = muskets.

upon. (前節参照)。

war'whoop (ウァーフープ)。喊聲、特に亞米利加インデユンの發する喊聲。

with.....in hand 「手に——を持つて」「——を携へて」。

【類句】 'With a pipe in one mouth' 「煙管を口に啣へて」 'with a gun on one's shoulder' 「鐵砲を擔いで」 'sword in hand' 「劍を手にして」等。

tomahawk (トマホーク)。亞米利加インデユンの用ふる鉞。

scalping knife. 頭の皮を剥ぐナイフ。

to dispatch (or despatch) = to make a speedy end of; to put to death quickly. 「手早く片附ける」「早速殺す」。

the living = the living men.

【参考】 The rich = (all) rich people; the poor = (all) poor people; the sleeping = sleeping men.

scalps.

印度人は毛髪の附きたる頭の皮 (scalp) を敵より得て以て戦勝の記念物となす。

13. その恐ろしき目的をもつと有効に遂げんとて、彼等が密集隊形に集まるや否や、軍曹の部隊は發砲した、木の丸太ではなくて、不信の蠻人へ、——この小部隊の烈しき砲火の下に倒るゝ者も多く、其餘の者は吾先きにと逃げてしまひました。(實に) 此妙案がなかつたら、此十二人の人の中一人として野蠻人の鉞を脱れることの出來た者はなかつたかも知れませぬ。

【註】 in close order 「密集隊形に」。

【参考】 'a force in close order' 「密集部隊」 'in a row' 「一列に」 'in a circle' 「圓形に」等。

to execute 「遂げる」「果たす」。

their horrid intentions. 生きてるは殺し、死したるは其頭の皮を剥がんと目的。

not —, but ..... 「——ではなくて.....」。

This is *not* a school, *but* a library.

「之は學校ではない、圖書館だ」。

上の如く 'not' の次の 'but' は邦語には譯す必要なし。

perfidious = treacherous 「不信の」「不實なる」。

under 「——の下に」「——の爲めに」。

【参考】 Man's life is like travelling a long way *under* a heavy load.

「人の一生は重き荷を負うて遠き道を行くが如し」。

He is sinking *under* his various troubles.

「彼は色々の苦勞の爲めに元氣が衰へた」。

precipitately 「周章狼狽して」「吾先きにと」。

fled. flee *fled* fled.

But for — 「——がなかつたら」。(二十二頁参照)。

*But for* the rail, I should have fallen.

「欄杆がなかつたら、落ちるのであつた」。

it is probable that = probably 「.....かも知れぬ」「或は.....」。

比較: — { *It is probable that* he *will* fail.  
He *may* fail.

escaped.

比較: — { *to escape from* prison, captivity (逃げる)  
*to escape* punishment, danger (脱れる)。

## Frances Slocum, the Young Captive.

幼き捕虜, フランセス スロウカム

1. 私はデヨセフ スロウカム老人の所で其夕を過せました、氏の家族は即ちかのウイヲミン谷で、遭難者の一であります。氏はその姉のフランセスの捕へられ遂に見付かつた顛末、並に氏の家族の遭難に關する他の出來事をば委しく私に談して呉れました。

【註】 the venerable Joseph Sclocum. (百五十頁参照)。

Venerable は年を取つて自ら尊敬の容を備へたるを云ふ。

among = one of 「—の中」「—の一人」。

比較: — { He is among the greatest scholars of Japan.  
He is one of the greatest scholars of Japan.

Wyoming Valley.

Pennsylvania 州 Susquehanna 河に浴へる豊饒なる流域にして獨立戦争 (Revolution) の時印度人と英人との同盟軍が非常なる虐殺をなしたるを以て名高し。此物語は即ち其當時の様を叙したるものにて Lossing (1813—1891) の名著 'The Field Book of the Revolution' 中の一節なり。

related to me = told me.

particulars 「委細」「一伍一什」。

connected with — 「—に關聯せる」。

【参考】 I am not connected with the matter.

「僕はその事件には無關係だ」。

- 2 氏の父はクエイカ教徒で、印度人に親切などを以て

名高かつた。(ですから) 攻入つて來た時も一向無事で、外の人の住宅へは炬火を以て火をさしつけたけれど、氏の家のみは構はないで置いてあつたのです。けれども何分息子のチャールズは戦争に出て居るので、これが、疑もなく、印度人の怒を招いて、遂に彼等は何時か復讐をしてやらうと決心したのであります。

【註】 Quaker.

教徒の名にして英の George Fox (1624—1691) の始めし所、神前にあつて身を震はせし (quake) とて此名あり。その教徒は人を呼ぶに Friend と云ふ、従つてその組合を The Society of Friends と云ふ。而して此教徒のみは今日にても猶ほ古體の 'thou' 'thy' の形を用ふ。

was distinguished for — 「—なるを以て名高かつた」。

【参考】 Tokyo is noted for its fires.

「東京は火事で名高い」。

Matsushima is celebrated for its scenery.

「松島は景色を以て有名なり」。

The Japanese are famous for their bravery.

「日本人は武勇を以て名高い」。

the invasion.

即ち同盟軍が Wyoming Valley に侵入せしことを指す。

while..... 「.....したのに」。

the torch was applied to the dwellings.....

=the dwellings—were burnt.

his = his dwelling (alone).

was left untouched 「手をつけないうで置いた」。

ire = indignation; anger.

resolved on vengeance = resolved to be revenged. 「復讐をしようと決心した」。

【参考】 Convinced of my error, I resolved on amendment.

「自己の謬を悟つたので、矯正をしようと決心した」。

The day is not yet fixed upon.

「日取は未だ決らぬ」。

【類例】 'to decide on' 'to determine on' 等。

比較:— { I have decide to do so.  
I have decided on doing so.

3. 秋の末、彼等はその家の邊をコソコソと歩いて居るのが見受けられた、その家と云ふのはウイルクスバリの城から百ロド許りの所にありました。キングズリと云ふ、隣家の者が、先きに捕虜となつて、その妻と二人の息子とはスロウカム氏の宅へ来て厄介になつて居たのです。(ところが)或朝、この子供は家の近くでナイフを研いで居りましたら、(不意に)ドンと一發銃の音とケタタマしい叫聲がしたので(何事であらうと)スロウカム夫人は戸口の所へ出て來ました。(見れば)一人の印度人が總領の、十五になる子をば、その研いで居たナイフで、頭の皮を剥いで居ります。

【註】 autumn (アウタム)。

總て語尾の '—mn' の 'n' は silent.

例へば 'solemn' 'hymn' 等。

prowling about 物を掠めてやらうとて附近をブラブラして居ること。

rod. 英の尺度にて凡そ我が一丈六尺六寸。

had been made prisoner 「之より以前に捕虜となつて居た」。

had a welcome home in—. 「—に身を寄せて居た」「—で世話になつて居た」。

a rifle-shot and a shriek brought Mrs. Slocum to the door.

亦英語一流の語法なり。邦語にてはあまりなき形なるを以てよくよく注意し置くべし。

What has brought you here?

「如何な風の吹きまわして來たのか」。

An hour's walk brought us to Shiogama.

「一時間歩いて鹽釜へ來た」。

【類例】 Business prevented me from attending.

「用事があつて出席せられなかつた」。

What makes you so angry.

「何をどう怒るのか」。

Your audacity surprises me.

「君の大膽には驚く」。

4. 野蠻人はそれから家にはいつて行つて、スロウカム夫人の男の子をばすつと攫んだ。『アレー! その子は何の役にも立ちませぬ; 跛者です』と御母様は驚いて大きな聲。印度人はその男子をば放して、今度は、五ツになる、娘のフランセスをば、ソロツと抱いて、弟のキングズリをひつ捕まへて、山へと急いで參りました。

【註】 caught up = took up suddenly.

the frightened mother = Mrs. Slocum.

do thee no good = do you no good 「何の役にも立た

ぬ」「何にもならぬ」。

【参考】 I hope your stay at the sea-side has *done* you good.

「海濱の御逗留は御身體に利きましたらうネ」。

No, it has *done* me *no* good.

「イエ、さつぱり利きません」。

此反對は 'to do harm.'

seizing = taking up suddenly.

5. 一緒に来て居た二人の印度人が、十七許りの、黒奴の娘を連れて行きました。スロツカム夫人の娘は其弟の子ヨセフ、(即ち私に話をして呉れた人、) 數へ年三つ、を抱へて、無事に城へ遁れまして、其處で危急を告げました; けれども(其時には)野蠻人は(疾くに行つてしまつて)追つ掛けても到底駄目になつて居りました。

【註】 a black girl.

A negro girl の意にて邦語の色の黒いの意にあらず、日本語の所謂色の黒いは black と云はず、'sunburnt' 又は 'dark-brown' それに對して色の白いは 'fair' と云ふ。

in safety = safely.

In + 抽象名詞 = 副詞。

【例】 In peace = peacefully; in haste = hastily 等。

the fort = the Wilkesbarre Fort.

an alarm was given 「警報を發した」「急を告げた」。

were beyond successful pursuit 「追つ掛けても到底成功せぬ」。

【参考】 He is *beyond* all hopes of recovery.

「とても全快の見込なし」。

The task is *beyond* my strength.

「この仕事は到底僕の方に合はぬ」。

Such a story is *beyond* belief.

「そんな話はとても眞に受けられぬ」。

6. 其後六週間許りして、スロツカム氏と其舅のアイラトリプとは、家の近くで家畜に草を食はして居る所を印度人に撃たれて頭の皮を剥がれました。今度も亦野蠻人は例の恐ろしい勝利の記念物をもつて逃げてしまひました。スロツカム夫人は、父や、夫や、子に離れ、露凌ぐ家の外は持つて居た物は皆奪はれながらも、猶此谷間を去ることが出来ませぬ、と云ふのは九人のいたいけない子供が来て宅に居るのでありますから。

【註】 father-in-law 「舅」。

【参考】 Mother-in-law 「姑」 Son-in-law 「婿」 daughter-in-law 「嫁」 brother-in-law 「姪」

while foddering = while they were feeding.

cattle. 「家畜の總稱」。

their horrid trophies. 恐ろしき勝利の記念物とは scalps を指す。 (百七十四頁参照)。

bereft of —. 「—を奪はれて」「—に離れ」。

bereave hereaved bereft.

此 of は奪取せらるる物を示し其一般の形式は

To bereave (奪はれし人) of (奪ふ物)。

【例】 A pickpocket *robbed* me of my purse.

「掏摸が僕の財布を取つた」。

God has *deprived* her of her wisdom.

「神が其智慧を奪ひ給うた」。

He was *bereft* of his child.

「彼は子供を亡くした」。

father, husband, and child.

相對せしめし故冠詞を省略せしものなり。

【参考】 Pen and ink; house and furniture; father and son; wife and children; master and servant.

stripped of.

Bereft の所参照。

I was *stripped of* my clothing.

「私は着物を剥ぎ取られた。」

He was *stripped of* his privileges.

「彼はその特權を剥奪せられた。」

helpless. われと我身の處置することの出来ぬ即ち「いたいけない」。

7. 夫人はエリヤの神を信じて居る；で、よしや鴉に養はれずとも、鷹には助けられたのである。逝きし者もさして悲しとも思はぬ；皆極樂往生して居るからは；唯戀しいは別れたる娘のフランスス、そも何處にか居るだらう。希望の燈火は依然として燃ゆれど；春と過ぎ夏と暮るるも、幼き者の音信は更にない。

【註】 trusted in——. 「——を信ずる」。

【類句】 'to believe in' 'to confide in.'

she was not fed by the ravens 「渡り鴉に養はれはしなかつた」。

こは故事あることなり。紀元前十世紀の頃猶太の豫言者 Elijah 時の王の迫害を受け落魄殆ど食ふ能はざりし時神は渡り鴉 (raven) をして之を養 (fed) はしめたりと云ふ。

vulture (兀鷹)。

Vulture は猛禽中の主なるものにて其性や實に殘忍なり。さればこゝにては殘酷極りなき印度人を之にたとへたるなり。

mourned for——. 「——(の死)を悼む」。

比較: { to mourn for (人)  
to mourn over his death (事)。  
to weep for a man (人)  
to weep for his death (事)。

were at rest 「安堵について居る」「極樂往生」。

【参考】 'at peace' 'at work' 'at play' 等。

kept on burning = continued burning 「依然として燃えて居た」。

【参考】 The dog kept barking all last night.

「犬が昨夜一晩吠え通した」。

If it goes on raining, there will be a flood.

「此儘降り續いたら、洪水になる」。

years = many years.

Days passed, and yet he did not return.

「幾日か経てど、其人は歸らず」。

It is years since I saw him last.

「此前會うてから數年になる」。

Weeks came and went, months rolled away, and she appeared not in them. (Twice-Told Tales).

rolled by = passed by.

tidings 「音信」。

【参考】 News は廣く「報知」の義なれど tidings は吾々の心待に待てる所謂「音信」「消息」の義なり。

8. 平和克復し、キヤナダとの親交確立さるゝや、捕虜となりし娘の兄弟二人はそれを尋ねに出で立ちました。尋ね出せし者には報酬をやると云つて、荒野を通りナイアガラまで行きました；けれども其甲斐ありま

せぬ。さては此子は死んだものであると諦めて彼等は  
ウィアミンへと歸つて参りました。けれども母の心は  
猶も希望の宮であつて、フランセスは確に黄泉に居る  
んぢやないと思つて居りました。

【註】 in search of — 「—を探して」。

比較:— { They searched for the missing child.  
They went in search of the missing child.

【類句】 'In quest of' 'in pursuit of.'

offering rewards for — 「—した者には褒美をや  
ると云つて」。

【参考】 He was rewarded for rescuing a child from drowning.

「彼は子供の溺れるのを救つて褒美を貰つた」。

He was punished for disobeying his teacher.

「彼は先生の云ふ事をきかなかつて罰せられた」。

all in vain 「皆駄目であつた」。

I tried to persuade him; but in vain.

「僕は彼を説き伏せようとした; が駄目であつた」。

【類句】 'Of no avail' 'to no purpose' 'without success.'

convinced = being convinced 「確信して」「諦めて」。

felt assured..... 「確に.....であると思つて居た」。

was not in the grave = was not dead.

【注意】 The + 普通名詞 = 抽象名詞.

He gave up the pen for the sword.

「投筆事戎軒」。

【類例】 the cradle = infancy; the grave = death;

the plough = agriculture.

9. その精神はその子のそれと交通して居る様で、母は  
往々かう云ひました『私には分つて居るフランセスは

未だ生きて居るんだ』と。遂に、母の心は大に力を得ま  
した: それは或婦人(と云ふのは何様今は既に數年経  
つたことで、フランセスが若し、生きて居るとすれば、  
最早一人前の婦人になつて居るに違ひない)、丁度なく  
なつた彼の面相によく當るのが、印度人の所に見つか  
つたのです。その女は唯サスケハナ河から連れて行  
かれたと云ふことを覚えて居るだけでありました。

【註】 to commune with — 「—と交通する」。  
that of her child = the soul of her child.

【参考】 The perfume of plum blossoms is stronger than that (=the  
perfume) of cherry blossoms.

「梅の花の香は櫻の花のそれ(=香)よりも強い」。

The manners and customs of the Japanese are different from  
those of the Chinese.

「日本人の風俗習慣は支那人のそれ(=風俗習慣)と違ふ」。

must have — 「—したに違ひない」「定めし—

したであらう」。(六十八頁参照)

arrived to womanhood = grown to womanhood 「一人前

の女となつた」。

among 「の所に」。

answering — 「—に丁度合ふ」。

That will answer the purpose.

「それで間に合ひます」。

remember being.....

(百頁参照)

the Susquehanna. 川の名には常に定冠詞を附するは御承知ならむ。

10. スロウカム夫人はそれを宅へ連れて来て、我子と思  
つて可愛がりました。けれども母の精神をその子に結

ぶ愛着の不思議の鍵環がどうもある様に感じない、子を失つた母親は矢張子を失つて居るのであります。『フランススであるかも知れぬが、どうもさう思はれぬ；けれども此女は何時までも叮嚀に待遇して置く』とスロカム夫人は申しました。(そして)その棄兒、も亦どうも少しも子としての懐しさを感ぜない；で、双方骨肉の關係はないものであると悟つて、孤兒は再その印度人の友の所へ歸りました。

【註】 with a mother's tenderness 「母の慈愛を以て」即ち「我子と思つて」。

binds— to.....「——を.....に繋ぐ」 義太夫の御染久松野崎村の段に「緑のつぎ絲情の綱」とあるは之と同様の思想なり。  
maternal = motherly.

【参考】 paternal = parental; fraternal = fatherly.

offspring = child 「子」。意味は單複兩様あれど形には複数なきこと。"issue" (矢張子の義) に同じ

the bereaved mother = the mother who was bereft of her child. (百八十頁参照)

still 「矢張」「依然として」。

It. It は人稱、數に關係なく用ひらるることあり。

Was it you? It was I, (he, she, they etc.)

may. 「成程.....であるかも知れぬ」。讓歩の義なり。

He may be a scholar, but he is certainly not a virtuous man.

「成程學者だかも知れぬが、確に道德家ではない」。

You may well say so.

「君がさう云ふのも尤だ」。

it does not seem so 「どうもさう思はれぬ」。

the woman shall be welcome = I will let the woman be welcome 「叮嚀に待遇してやる」。

かく二人稱乃至三人稱に於ける 'shall' は一人稱の意志を表し 'I will' に相當す。

You shall go with me.

= I will let you go with me. 「連れて行てやる」。

He shall have the book.

= I will let him have the book. (= I will give him the book.)

同様に

He shall not die. 「殺しはせぬ」。(善意)

He shall not live. 「生かして置かぬ」。(惡意)

【参考】 You are all welcome. 「皆さんよう御出で」。  
ever = always.

foundling 「棄兒」。即ちその女を指す。

filial yearning 「子の親を慕ふ情」。

consanguinity 「血屬關係」「親子の關係」。

existed 「存在する」「有る」。

II. 折々は、母の希望が復活することもある、でその失くなつた姉を尋ねて遠い印度の殖民地へ度々旅行もしました；けれども其甲斐がない。(かくするうちに)母は所謂『涙ながらに、黄泉へ行』つて、フランススのことも殆んど忘れられて居りました。その兄弟も既に老人となつて、孫が、その連れて行かれた、しかも同じ所で遊んで居る(と云ふ有様になりました)。

【註】 From time to time = now and then 「折々」「時々」。

would be revived 「復活する」。



此 would は過去の習慣を表す。

He would often come of a Sunday, and stay all day.

「よく日曜なんかには来て一日逗留したものであつた」。

in search of. (百八十四頁参照)

went "down into the grave, mourning." 聖書か何かにある句ならんも知らず。

the very spot 「しかも其の處に」。(百十九頁参照)

whence = from where.

12. 千八百三十七年の夏、即ち捕はれてから五十九年目に、フランススの消息を受け取つた。印度人(の所に在留)の代理者兼商人、ユーイング大佐が、インディアナのローガンズポートから、ランカスタ新報の記者への手紙に、詳細の通信をしてあつた、それによつて愈當人であると云ふことに就ての疑は全く晴れてしまつたのです; そこでデヨセフスロカムは、先きに自分を堡砦へ連れて行つて呉れて、今猶ほ生きて居た、姉と共に、早速オハイヨへと旅をしまして、そこな所で弟のアイザークと一緒にになりました。

【註】 intelligence = news.

Colonel. 發音はカーヌル (kur'nel) なり、コロネルに非ず。

the Lancaster Intelligencer. 新聞雑誌の名は常に定冠詞を取ることは諸君先刻御承知ならん。

The Jiji Shimpo; the Taiyo; the Japan Times.

gave such information, that.....

「非常に委しい通知をした、それ故に.....」。

(七十二頁参照)

The book is written in such easy English that beginners can

understand it.

「此本は非常に容易い英語で書いてあるから初學者でも分る」。  
respecting = about.

【類語】 Regarding; concerning; touching.

identity 「愈其人であると云ふこと」。

The identity of the stolen goods was established.

「愈盗まれた品に相違ないと云ふことが決つた」。

were removed 「撤せられた」「晴れた」。

the fort = the Wilkesbarre Fort.

survived 「生き残つて居た」「死なないで居た」。

where = and there.

總て comma の後の where は and there, when は and then, who は and he (she they) 等と譯すべし。

I called on him yesterday, when he told me the news.

「昨日彼を訪ねたりその話をした」。

13. 彼等はローガンズポートへ行つて、そこな所でユーイング氏に會つて、彼の話の女は、その村から十二哩許りの所に住んで居ると云ふことを確めました。早速呼びに遣りました; すると、翌日の夕方に、血氣盛な若馬に乗つて、二人の娘と、その中の一人の夫とを連れて、町へ参りました、—皆印度人の正装で。

【註】 the woman spoken of by him

= the woman who had been spoken of by him

= the woman whom he had spoken of.

比較: — { This is the man of whom he spoke.  
This is the man (whom) he spoke of.  
This is the man spoken of by him.

She was sent for = they sent (some one) for her 「呼びに遣つた」。

【参考】 I am going out *for* (=to take) a walk.

「散歩をしに出掛ける所だ」。

He has gone home *for* (=to take) his dinner.

「飯を食ひに歸つた」。

He has sent *for* (=to get) the door.

「醫者を迎へにやつた」。

toward evening 「日暮方に」「夕方に」。

I will come *towards* the close of the day.

「日暮方に参ります」。

序に云ふ *toward* の發音はトード (tō'erd) なり。

*dressed in*—— 「——を着て」「——で」。

*In* は服装を表す。

They were all dressed *in* white.

「皆白装束でした」。

The man was *in* foreign clothes.

「その人は洋服を着て居た」。

What shall I go *in*? I have nothing to go *in*.

「何を着て行かう。着て行く物がない」。

*in full costume* = *in full dress* 「正装をして居る」「禮服を着て居る」。

【参考】 The boys were all dressed *in their best*.

「子供は皆晴着を着て居た」。

14. 通譯を雇うた、(と云ふのはその女は英語が話せもせねば分りもしない)、そしてその女はその兄弟の云ふことをば熱心に聽いて居りました。返答は殆んど少しもしないで、日没に、翌朝再來ますと約束して宅へと

歸りました。弟や妹はこれは實際フランス人であると  
思つて居りました、顔には印度人風の容貌しか見えな  
いのですけれど、色のみは矢張その素性を顯して居り  
ますので。

【註】 what his brothers had to say

= that which his brothers said.

answered but little 「返答は殆んどしなかつた」。

at sunset 「日没に」。

【参考】 'At dawn,' 'at day-break,' 'at noon.'

departed *for*—— 「——へと出發した」。

*For* は行先を示す。

Lét us start *for* home, for it threatens rain.

「何だか雨が降つて來さうだから、宅へ歸らうよ」。

were quite sure 「確に……であると思つて居た」。

nothing but = nothing except = only.

*Nothing but* a solitary crow was seen there.

「唯一羽の鳥しか見へなかつた」。

*lineaments* = features 「容貌」。通例何時も複數形。

were seen. 此動詞の Subject は實は前の 'nothing' なるを以て文法上より云へば 'was seen' ならざるべからず。唯其直前に 'lineaments' なる複數の語あるより之に引きつけられてつひ之を Subject と誤りたるなり。かかる誤謬を文法上 Attraction or the Error of Proximity と云ふ。

讀者試に次の文を見て其謬を悟られよ。

The usual litter of new books *remind* me that.....

His reputation was great, and somewhat more durable than that of similar poets *have* generally been.

revealing = showing 「顯す」。

origin 「素性」即ち白人たること。

15. 約束通り、婦人は翌日、前のように人を連れて、やつて参りました。ヂョセフスロ<sup>ウ</sup>カム氏はそこで見覺の標のあることを申しました、それが、阿母さんの兼ねての話では、何よりの證據である。(即ち)或日、鍛冶の仕事場で槌をもつて遊んで居る間に、ヂョセフ、當時明けて三つの子が、フランセスの左の手の中指を一つ叩いて、骨が碎けて、爪がなくなつたのです。

【註】 True to her appointment 「約束に反かず」「約束通りに」。

This painting is true to nature.

「此繪は眞に追つて居る」。

The 'second Napoleon' is true to his name.

「第二のナポレオンとは眞に其名に反かぬ」。

【類例】 Faithful to one's word; just to one's engagements.

mentioned=said that there was——. 「——があると云つて」。

a mark of recognition 「認識の徴」。

test 「試し」「證據」。

While playing=While he was playing,

shop 「仕事場」「工場」。

two and a half years old 「數へ年三つ」「明けて三つ」。

gave a blow 「一つ打つた」。

【参考】 'to give a cry' 「一つ叫ぶ」 'to give a pull' 「一つ引つばる」  
'to have a talk' 「一度談をする」。

gave Frances a blow upon.——. 「フランセスの——を

一つ打つた」。(九十六頁参照)。

He struck me on the head. 「僕の頭を打つた」。

middle finger. 「中指」。

【参考】 thumb. 「拇指」、fore-finger or index-finger. 「食指」、ring-finger. 「無名指」、small-finger. 「小指」、<sup>ひとさしゆび</sup>「足の指」は toe.

which crushed——. 「それが爲めに——が碎けた」  
deprived the finger of its nail. 「その指の爪をなくした」。

(百八十一頁参照)。

16. 此證據をばスロ<sup>ウ</sup>カム氏は外の證據の駄目になる迄は控へて置いたが。愈このことを申しますと、その老女は非常に苦悶の體で；涙をば顔の皺の所へ一ぱいにして、その傷のある指を差出しました。かうなれば最早疑はありませぬ、非常に興味ある光景が後に續いて起つたのであります。既に半世紀の間眠つて居た、血族に對する愛情が端なくも茲に醒覺されて、老女は熱心に父や、母や、兄弟姉妹の安否を尋ねました。その満ちたる心——その經歷の大事の秘密に満ちたる(心)——は開かれて、その身上話は腹藏なくせられたのであります。

【註】 until others (=other tests) should fail. 「他の證據が愈駄目だと云ふ迄は」。

it=this test.

furrows. 「(顔の)皺」。

held out. 「差し出した」。

a scene of great interest=a very interesting scene.

(百十六頁参照)。

ensued = followed.

made earnest inquiries after —— 「——の安否を熱心に尋ねた」。

比較：— { He inquired for your father.  
 = He said "Is his father at home?" (在不在を訊く)。  
 He inquired after your father.  
 = He said "How is his father?" (安否を訊く)。

full heart. 「満腔」。

freely. 「打明けて」「あからさまに」。

17. その話によりますと野蠻人は、デラウェア人であつたが、彼女をば山の中の岩窟へ連れて行て置いて、それより印度人の地方へと参りました。その一番最初の夜はかれが一生の中で最も不愉快(な夜)でありました。尤も親切には取扱はれた、— 疲れたら静かに抱いて貰つて。(それより)或印度人の家族へ貰はれて、その娘として育てられた。それより數年間、放浪の生涯を送り、自分も亦それが好きであつた。弓矢の使ひ方を教はり、野蠻人の生活上なすべき事は皆上手になりました。

【註】 the unhappiest = the unhappiest night.

wearied. 發音は ウィーリ(wērī)。

was adopted. 「貰はれた」。

【参考】 An adopted son (or daughter). 「養子(女)」。

【注意】 adapted. 「適する」と認る勿れ。

was brought up = was reared. 「育てられた」。

For years = For many years. (百八十三頁参照)。

lived a roving life. 「放浪の生涯を送つた」。

かく Verb と其 Object と同意の語なるとき其 Verb を Cognate Verb と云ふ。

【類例】 I dreamed a happy dream.

「私は面白い夢を見た」。

He laughed a hearty laugh.

「彼は心から笑つた」。

He died a glorious death.

「彼は光榮ある死に方をした」。

邦語の所謂「寫眞を寫す」「馬から落馬する」の類なり。

became expert in —— = became skilful in ——. 「——

に巧になつた」「——が上手になつた」。

(百五十四—五頁参照)。

He is skilful in playing tennis.

「彼はテニスうまが巧い」。

employments. 「する事」「仕事」。

existence = life.

18. 一人前の女になつた時、その印度人の兩親は死んで、其後間もなくその國の若い酋長へ嫁入りをし、オハイヲ地方へ轉住しました。かれは一般の印度婦人よりは特に尊敬をせられて居りました；しかも家庭の關係は實に幸福でそれが爲め實は、若しや何時か見出されて、白人の所へ歸らんけりやならぬ様なことがあつてはと云ふのが、その最も氣遣つて居た不幸と云ふ位でありました；と云ふのは婦人は白人は自分の愛して居る印度人の不俱戴天の仇であると云ふことを教はつて居たのであります。